元総社蒼海遺跡群

元総社小見内X遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群

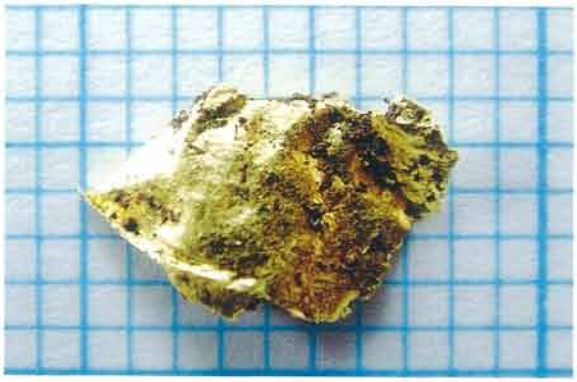
元総社小見内Ｘ遺跡

－前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

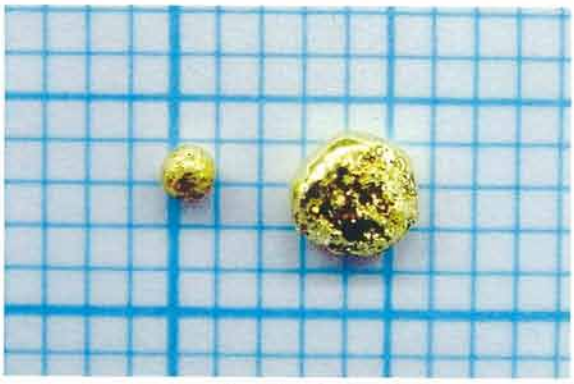
２００５

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

調査区遠景（東から）



K－2号工房跡出土の金片



K－2号工房跡出土の金粒

W－8号溝跡出土の滑石製印版

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋藩は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸は、横浜と前橋を結び、文化交流が始まりました。このように本市は、まさに、歴史性豊かな街です。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群小見内Ｘ遺跡は古代上野国の中枢地域の調査であります。国府推定区域に隣接することから調査は多くの注目を集めております。調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、律令時代の竪穴住居跡や金を加工した工房跡などが検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成１７年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　中原惠治

例　　言

1．本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見内Ｘ遺跡発掘調査報告書である。本遺跡の遺跡コードは16Ａ119である。

2．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所　　群馬県前橋市元総社町1770他

調　査　面　積　　2,352㎡

発掘調査期間　　平成16年10月1日～平成17年1月24日

整理・報告書作成期間　　平成17年1月25日～平成17年3月11日

発掘・整理担当者　　長谷川一郎（山武考古学研究所）

4．本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅰ章　齊木一敏（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）　第Ⅱ～Ⅵ章　長谷川一郎（山武考古学研究所）

5．人骨については楢崎修一郎氏〔(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団〕に、Ｗ－８号溝跡出土「滑石製印版」については斉木秀雄氏、原　廣志氏（共に鎌倉考古学研究所）に所見を頂いた。

6．発掘調査から報告書刊行に至るまで、諸機関・諸氏の御指導・御教授を賜った。記して感謝の意を表す次第である。(敬称略)

(株)東日本重機　　星野重機(株)　　ＪＴ空撮　　楢崎修一郎　　斉木秀雄　　原　廣志

7．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木千賀子　石原一茂　礒田二郎　礒田政男　梅山　淳　岡田うめ　小田多持　上和田慶治　近藤四郎
斉藤みつ子　斉藤茂作　酒井正通　桜井れい　桜井敬一　下田正衛　須田安雄　関谷智己　竹生正明
中澤愛次郎　中島辰男　萩原真理子　服部　明　松田　実　馬渕恵美子　黛　準一　宮下哲之　森田俶弘
吉田三枝子　吉田善紀　綿貫瑛一

8．発掘調査で出土した遺物及び図面・写真等の資料は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．本発掘調査の略称は、16Ａ119である。

3．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳時代・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｋ…工房跡　　Ａ…道路状遺構　　Ｃ…周溝状遺構
Ｗ…溝跡　　Ｉ…井戸跡　　DB…土壙墓・火葬跡　　Ｅ…粘土採掘坑　　Ｄ…土坑
Ｐ…ピット（住居跡等に伴うピットは『P_1』と下付数字で表記）　　Ｌ…畝状遺構

4．遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構　　全体図…１／1000、１／200　　粘土採掘坑…１／100　　溝跡・道路状遺構平面図…１／80、１／120　　竪穴住居跡・工房跡・溝跡・井戸跡・火葬跡平面・断面図…１／60
竈・土壙墓平面・断面図…１／30

遺物　土器…1／3、1／4　瓦…1／5　石器…1／1、1／3　銭貨…2／3

5．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

6．降下テフラについての表記は次のとおりである。

浅間B軽石（1108年）…As-B　浅間C軽石（4世紀初頭）…As-C

7．遺物の挿図中に使用したスクリーントーン表示は以下のとおりである。

施釉範囲　スス付着範囲　施釉陶器断面

須恵器断面図　黒塗り（轆轤使用酸化焔焼成のものについては灰褐色を呈するもののみ黒塗り）

地山　道路状遺構硬化範囲　灰範囲　被熱範囲

浅間B軽石（As－B）

住居跡床硬化面 —·—·—·— 焼土及び灰範囲 — — — — — 推定線 ----------

目　次

はじめに

例言・凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯……1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……1

第1節　遺跡の立地……1

第2節　歴史的環境……1

第Ⅲ章　調査の方法と経過……7

第1節　発掘調査の経過……7

第1項　調査方針……7

第2項　調査の経過……7

第2節　整理調査の経過……9

第Ⅳ章　基本層序……9

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物……9

第1節　竪穴住居跡……9

第2節　工房跡……12

第3節　道路状遺構……13

第4節　周溝状遺構……13

第5節　溝跡……14

第6節　井戸跡……14

第7節　土壙墓……14

第8節　火葬跡……15

第9節　粘土採掘坑……15

第10節　土坑・ピット……15

第11節　畝状遺構……15

第12節　グリッド等出土遺物……15

第Ⅵ章　まとめ……16

付　編　元総社小見内X遺跡出土金属片成分分析……18

表目次

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表
Tab. 2　元総社蒼海遺跡群内の調査
Tab. 3　竪穴住居跡一覧表
Tab. 4　工房跡一覧表
Tab. 5　道路状遺構一覧表
Tab. 6　周溝状遺構一覧表
Tab. 7　溝跡一覧表
Tab. 8　井戸跡一覧表
Tab. 9　土壙墓一覧表
Tab.10　火葬跡一覧表
Tab.11　粘土採掘坑一覧表
Tab.12　土坑一覧表
Tab.13　ピット一覧表
Tab.14　畝状遺構一覧表
Tab.15　遺物観察表

挿図目次

Fig. 1　元総社小見内Ｘ遺跡位置図
Fig. 2　迅速図
Fig. 3　元総社蒼海遺跡群周辺図
Fig. 4　基本層序土層図
Fig. 5　元総社小見内Ｘ遺跡全体図
Fig. 6　元総社小見内Ｘ遺跡西区全体図
Fig. 7　元総社小見内Ｘ遺跡東区・中央区全体図
Fig. 8　Ｈ－１・３～６・12号住居跡
Fig. 9　Ｈ－３～７・12号住居跡
Fig.10　Ｈ－７・８号住居跡
Fig.11　Ｈ－10・11号住居跡
Fig.12　Ｈ－11・13・14号住居跡
Fig.13　Ｈ－14号住居跡、Ｋ－１号工房跡
Fig.14　Ｋ－１・２号工房跡
Fig.15　Ｋ－２号工房跡
Fig.16　Ｋ－２号工房跡、Ａ－１号道路状遺構
Fig.17　Ａ－２号道路状遺構、Ｃ－１・２号周溝状遺構
Fig.18　Ｗ－１～３号溝跡
Fig.19　Ｗ－４～７号溝跡
Fig.20　Ｗ－８号溝跡、Ｄ－40～42・62・66・69・76号土坑、ピット群
Fig.21　Ｗ－９号溝跡、Ｉ－１～３号井戸跡
Fig.22　Ｉ－４号井戸跡、DB－１・２号土壙墓
Fig.23　DB－１号火葬跡、Ｅ－１号粘土採掘坑
Fig.24　Ｅ－１号粘土採掘坑
Fig.25　Ｄ－１～17・22号土坑
Fig.26　Ｄ－18～21・23～34・36・54・55号土坑
Fig.27　Ｄ－35・38・57・67・68・71～75・77号土坑、Ｐ－３・10～16・21・35・51・52号ピット
Fig.28　Ｄ－56～59・70・73号土坑、Ｐ－３・10～17・21～57・66・67・79・96・98号ピット
Fig.29　Ｌ－１～５号畝状遺構
Fig.30　Ｈ－１・３号住居跡出土遺物
Fig.31　Ｈ－３・４・７・８号住居跡出土遺物
Fig.32　Ｈ－８・10・11号住居跡出土遺物
Fig.33　Ｈ－11号住居跡出土遺物
Fig.34　Ｈ－11～14号住居跡出土遺物
Fig.35　Ｈ－14号住居跡、Ｋ－１・２号工房跡出土遺物
Fig.36　Ｋ－２号工房跡、Ｗ－１・２・６・８号溝跡、Ｉ－１・３号井戸跡出土遺物
Fig.37　Ｉ－３・４号井戸跡、DB－１・２号土壙墓、Ｅ－１号粘土採掘坑出土遺物
Fig.38　Ｅ－１号粘土採掘坑、Ｄ－２・21・23・66・73号土坑出土遺物
Fig.39　Ｄ－59・70号土坑、Ｐ－80号ピット、遺構外出土遺物

写真図版目次

口絵１　調査区遠景
K－２号工房跡出土の金片
K－２号工房跡出土の金粒
W－８号溝跡出土の滑石製印版
PL．１　西区全景
中央区全景
東区全景
PL．２　遺跡地から榛名山を望む
K－２号工房跡全景
PL．３　E－１号粘土採掘坑全景
中央区基本堆積土層
H－１号住居跡全景
H－１号住居跡竈遺物出土状況
H－３号住居跡遺物出土状況
PL．４　H－３～６・12号住居跡全景
H－７号住居跡全景
H－７号住居跡掘り方
H－８号住居跡全景
H－８号住居跡竈
H－10号住居跡全景
H－10号住居跡竈
H－11号住居跡遺物出土状況
PL．５　H－11号住居跡全景
H－11号住居跡竈
H－13号住居跡竈遺物出土状況
H－13号住居跡竈完掘
H－14号住居跡全景
H－14号住居跡遺物出土状況
K－１号工房跡浅間B軽石堆積状況
K－１号工房跡土層断面
PL．６　K－１号工房跡全景
K－１号工房跡西半
K－１号工房跡竈様施設遺物出土状況
K－１号工房跡硬化面・火床部検出状況
K－１号工房跡竈様施設全景
K－１号工房跡竈様施設西側土層断面
K－１号工房跡竈様施設断ち割り状況
K－１号工房跡調査終了全景
PL．７　K－２号工房跡遺物出土状況全景
K－２号工房跡南東部
K－２号工房跡竈様施設遺物出土状況
K－２号工房跡P１土層断面
K－２号工房跡P１遺物出土状況・周辺火床部
K－２号工房跡P１・P２近景
K－２号工房跡金片出土状況
K－２号工房跡完掘全景
PL．８　K－２号工房跡P３近景
K－２号工房跡掘り方全景
K－２号工房跡南東部掘り方近景
A－１号道路状遺構全景
A－１号道路状遺構南西部掘り方
A－１号道路状遺構北東部小礫敷設状況
A－１号道路状遺構土層断面
A－２号道路状遺構全景
PL．９　A－１号道路状遺構土層断面
C－１号周溝状遺構全景
C－２号周溝状遺構全景
W－１号溝跡全景
W－１号溝跡馬骨出土状況
W－１号溝跡土層断面
W－２号溝跡全景
W－３号溝跡全景
PL.10　W－４号溝跡全景
W－６号溝跡全景
W－６号溝跡土層断面
W－７号溝跡全景
W－７号溝跡土層断面
W－８号溝跡全景
W－８号溝跡出土遺物近景
W－９号溝跡全景
PL.11　W－９号溝跡土層断面
I－１号井戸跡全景
I－２号井戸跡全景
I－３号井戸跡・D－38・68号土坑全景
I－３号井戸跡礫出土状況

Ｉ－４号井戸跡全景
Ｉ－４号井戸跡出土遺物近景
Ｉ－４号井戸跡下部
PL.12　DB－１号土壙墓人骨出土状況
DB－２号土壙墓土層断面
DB－２号土壙墓人骨出土状況
DB－１号火葬跡炭化物出土状況
DB－１号火葬跡完掘全景
Ｅ－１号粘土採掘坑全景
Ｅ－１号粘土採掘坑土層断面
Ｅ－１号粘土採掘坑土塊出土状況
PL.13　Ｄ－２号土坑全景
Ｄ－18～21・23・24・54・55号土坑全景
Ｄ－35号土坑全景
Ｄ－73号土坑全景
Ｄ－56・58・59・70号土坑全景
中央区ピット群全景
Ｌ－２号畝状遺構全景
Ｌ－３号畝状遺構全景
PL.14　出土遺物
PL.15　出土遺物
PL.16　出土遺物
PL.17　出土遺物
PL.18　出土遺物

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。

平成16年7月5日付けで、前橋市長　高木　政夫（区画整理二課）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛てに提出された。市教委ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施について通知をしたが、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、本発掘調査を調査団直営で行うことは困難であると判断した。そこで本件に係る発掘調査は民間調査会社に委託し実施したい旨の回答を行った。これにより、調査依頼者と調査団との間で協議・調整を図り、まず平成16年9月16日に調査依頼者である前橋市長　高木　政夫（区画整理二課）と調査団　団長　中原　惠治との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、同年9月17日付けで民間調査会社である山武考古学研究所　所長　平岡　和夫と調査団　団長　中原　惠治との間で委託契約を締結し、現地調査に至る。

なお、遺跡名称「元総社小見内Ｘ遺跡」の「小見内」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字は過年度に調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の４地域に分けられる。本遺跡の位置する前橋台地は、浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地であり、河川の浸食や湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅３kmの細長い沖積地として広がり、台地の中央には現利根川が北から南へ貫流している。

前橋台地の西には榛名山がそびえ、その榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し相馬ヶ原扇状地を形作り、台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。

元総社小見内Ｘ遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上に立地し、群馬県庁から西へ約３km、関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約２kmの地点に位置していて、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望むことが出来る。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府域として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連綿とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では国分寺中間地域遺跡や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。本遺跡から西へおよそ150ｍのところに位置する小見遺跡（平成12年度）では、諸磯ｂ式期・加曾利Ｅ４式期の住居跡が１件ずつ検出されている。近隣の耕作地では土器や石器などが表採されていることから、今後の発掘成果に期待したい。その他には下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡、熊野谷遺跡、北原遺跡、大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ、元総社稲場遺跡なども挙げられ、時期としては前期から後期に及んでいる。

弥生時代の遺跡としては、本遺跡からおよそ３kmに日高遺跡がある。10～15cmの厚さに堆積した浅間Ｃ軽石

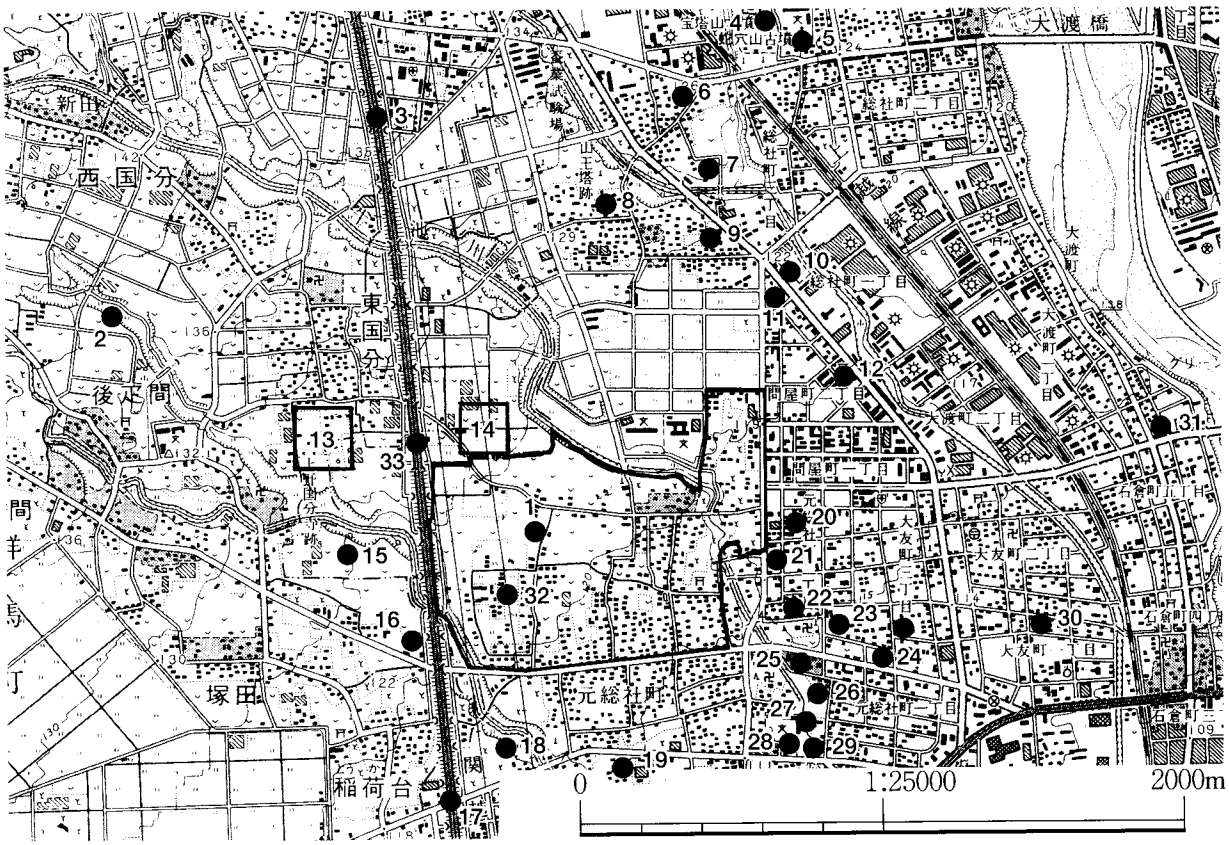
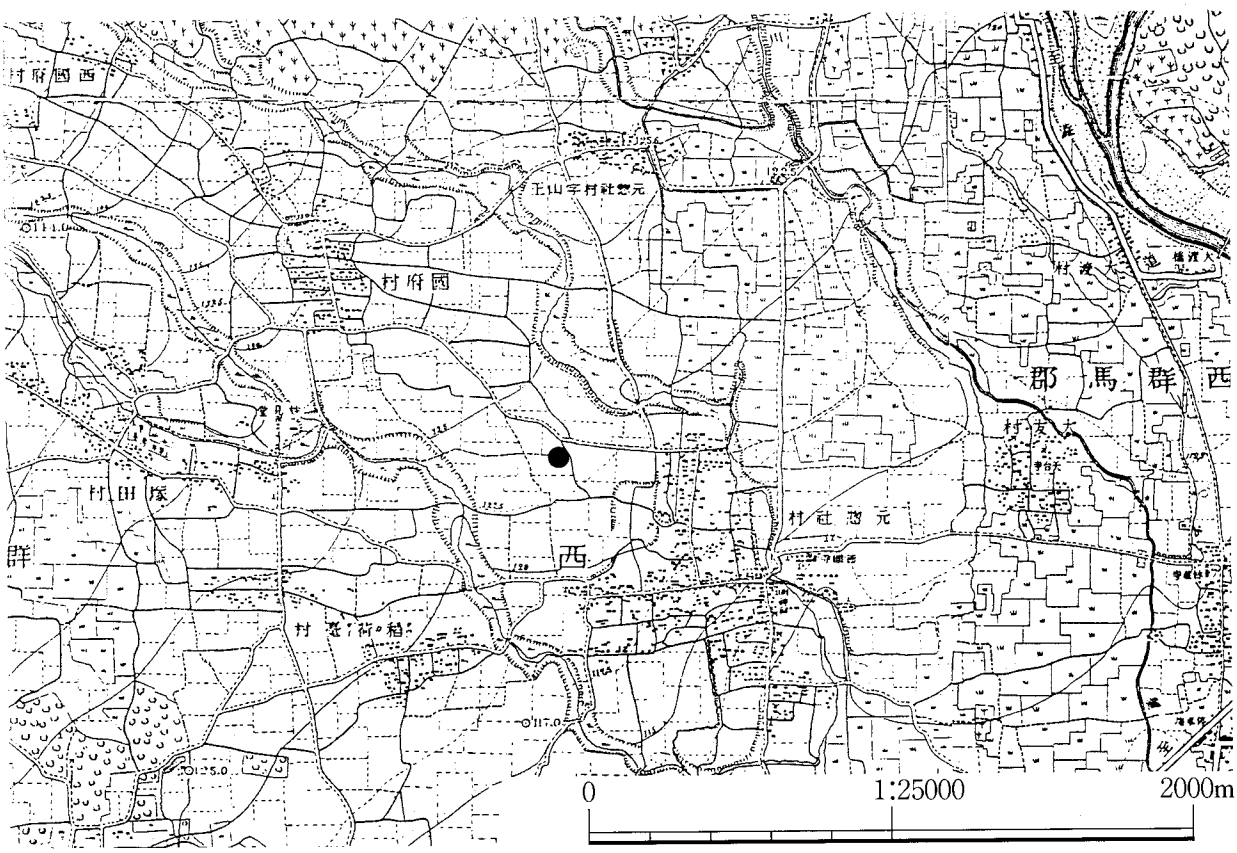


Fig.1　元総社小見内X遺跡位置図（1:25,000）



● 遺跡の位置　　Fig.2　迅速図（1:25,000）（『明治18年作成迅速図1:20,000』を80%縮小）

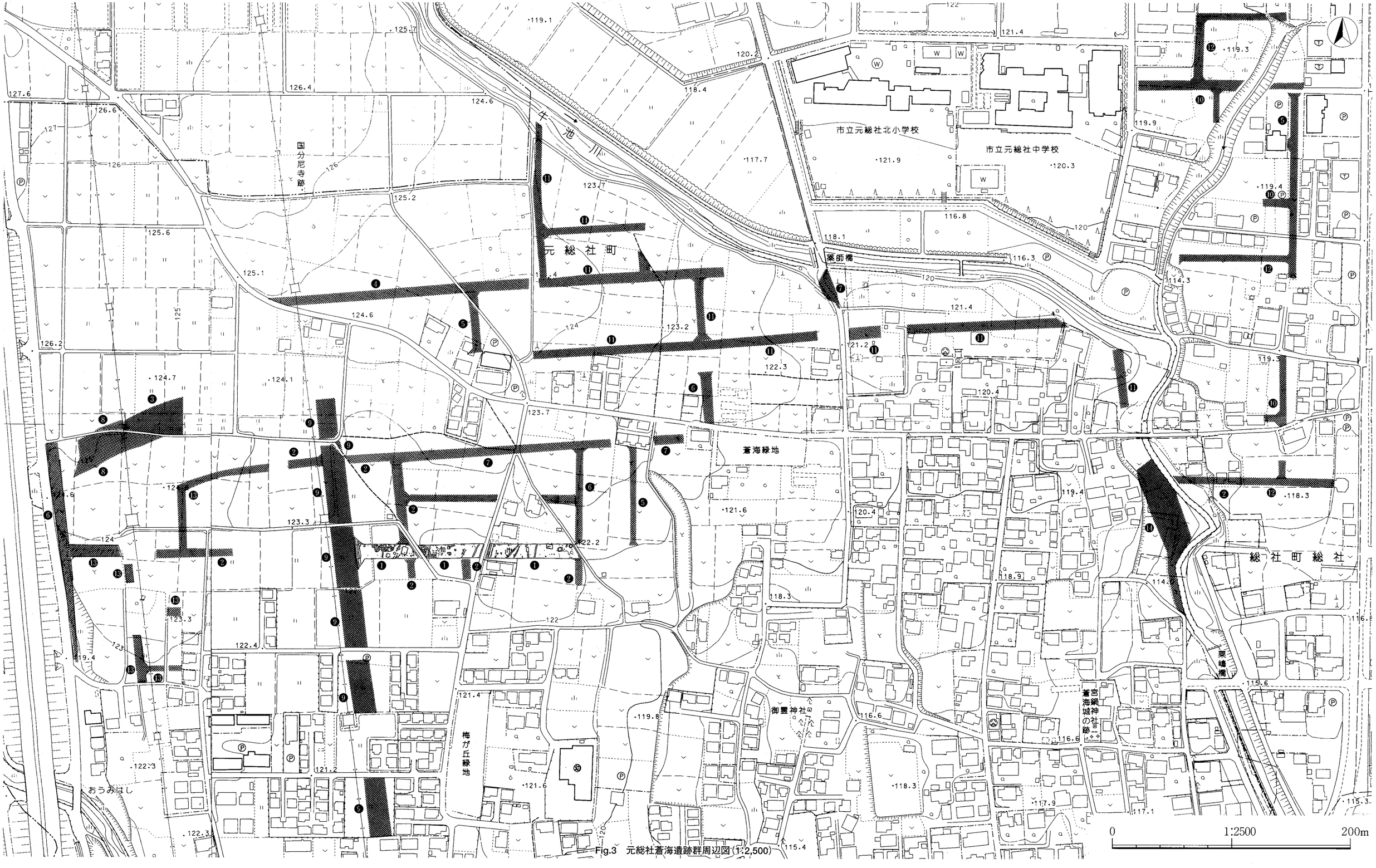


Fig.3　元総社蒼海遺跡群周辺図(1:2,500)

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	縄　文	弥　生	古　墳	奈良・平安	中・近世
1	元総社小見内Ⅹ遺跡（当該遺跡）と元総社蒼海遺跡群の範囲（詳細 Fig. 3）					
2	後疋間遺跡　Ⅰ～Ⅲ			住居跡	住居跡	
3	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、畠跡（Ⅱ・Ⅲ遺跡）	土壙墓（Ⅱ・Ⅲ）
4	宝塔山古墳			方墳（７Ｃ末）		
5	蛇穴山古墳			方墳（８Ｃ初）		
6	村東遺跡			住居跡、溝跡	住居跡	堀跡
7	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ	住居跡		住居跡	住居跡	掘立柱建物跡等
8	山王廃寺遺跡			塔心礎、根巻石		
9	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
10	産業道路東遺跡	住居跡				
11	産業道路西遺跡	住居跡				
12	稲荷山古墳			円墳		
13	上野国分寺跡				金堂基壇、塔基壇	
14	上野国分尼寺跡				南西隅・南東隅築垣	
15	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	
16	塚田村東遺跡				住居跡	
17	鳥羽遺跡			住居跡、鍛冶場跡	住居跡、掘立柱建物跡	
18	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	
19	天神遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
20	閑泉樋遺跡				溝跡	
21	閑泉樋南遺跡			住居跡	溝跡	
22	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	堀跡等
23	堰越Ⅱ遺跡				住居跡	
24	堰越遺跡				住居跡、溝跡	
25	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、溝跡、地下式土坑	
26	元総社明神遺跡　Ⅰ～XIII			住居跡、水田跡、堀跡	住居跡、溝跡	住居跡、溝跡
27	元総社寺田遺跡			水田跡、溝跡	住居跡、溝跡	
28	元総社小学校校庭遺跡				掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡	
29	寺田遺跡				溝跡	
30	大友宅地添遺跡				水田跡	
31	王山古墳			前方後円墳（６Ｃ中）		
32	草作遺跡			住居跡	住居跡	井戸跡
33	上野国分僧寺・尼寺中間遺跡	住居跡	住居跡	住居跡		掘立柱建物跡等

Tab. 2　元総社蒼海遺跡群内の調査

番号	遺　跡　名	調査年度	番号	遺　跡　名	調査年度
①	元総社小見内Ⅹ遺跡（当該遺跡）	Ｈ 16	⑧	元総社小見Ⅱ遺跡	Ｈ 14
②	元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	Ｈ 16	⑨	元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡	Ｈ 14
③	元総社小見Ⅶ遺跡	Ｈ 15	⑩	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	Ｈ 14
④	元総社小見内Ⅶ遺跡	Ｈ 15	⑪	元総社小見内Ⅲ遺跡	Ｈ 13
⑤	元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	Ｈ 15	⑫	総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	Ｈ 13
⑥	元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡	Ｈ 15	⑬	元総社小見遺跡	Ｈ 12
⑦	元総社小見内Ⅳ遺跡	Ｈ 14	⑭	総社閑泉明神北遺跡	Ｈ 11

層に覆われた後期の水田・集落・方形周溝墓・甕棺墓などが検出されており、水田に残された多数の足跡など当時の稲作の姿を留めている。また、これらの水田を残した人々の集落が近接する旧河川の微高地上で検出されており、住居跡は14軒を数え、良好な資料を提供している。

その他には、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居跡が検出された国分寺中間地域、桜ケ丘遺跡、下東西遺跡などが散見される程度である。

古墳時代においては本遺跡のある地域は「車」と呼ばれ、上毛地域における中心地域であった。本遺跡の西南西約4kmには5世紀後半の三ツ寺Ⅰ遺跡があり、1辺90m四方の規模をもつ豪族の居館跡として知られている。またそこから北西へ1kmいったところには同時期の保渡田古墳群があり、八幡塚古墳（全長102m）・愛宕塚古墳（同92.4m）・薬師塚古墳（同68.4m）の前方後円墳3基が「コ」の字に並び、豪族との関連性が推定されている。

それに続くものとして北約2kmの総社古墳群が挙げられる。この古墳群は横穴式石室が受容され始めたころから形成されたと考えられる。6世紀前半の川原石を用いた積石塚である王山古墳、それと相前後する遠見山古墳、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する総社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳など、何れもこの地域に強大な権力の存在したことを示す古墳が多数所在する。

本遺跡の北北東1kmには山王廃寺（放光寺）がある。出土した瓦などから7世紀の第4四半世紀ころの創建と見られ、官寺ではなく「上毛野君氏」による私寺であった可能性が高く、この地が「車評（くるまのこおり）」の中心地であったことを示している。

本遺跡の東に接して牛池川・染谷川に挟まれた現元総社町に国府域が想定されている。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の大型掘立柱建物跡1棟が見つかっており、閑泉樋遺跡・元総社明神遺跡・寺田遺跡では大規模な堀跡が相次いで発見され、国府の外郭の推定が可能になった。寺田遺跡からは33点の墨書土器が出土し、「国厨」・「国」・「□曹司」などの表記が見られ、国府を示す証左となっている。国府は木簡の表記などから藤原京存続時に創建されたものと考えられる。和銅6年（713）「上毛野国」から「上野国」と改称され、弘仁2年（811）には国のランクが「上国」から「大国」に改められて親王任国に昇格している。周辺遺跡には他に、閑泉樋南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒山遺跡がある。

国分僧寺と尼寺は本遺跡の北にあり、2寺の間を関越自動車道が縦貫している。国分寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、築地、堀などが確認されている。その結果国分寺の最重要伽藍と位置づけられた七重塔の造営時期は8世紀中葉と考えられ、文献資料とも整合している。一方廃絶の時期は調査結果から12～13世紀代と考えられている。周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、硯、墨書土器等の出土がみられ、鳥羽遺跡からは神社跡と推定される特殊遺構も検出されている。

中世には1429年長尾氏により蒼海城が築かれる。蒼海城の縄張り自体も国府の地割を利用したものであることが確実視されていて、また、現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものである。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査の経過

第１項　調査方針

調査委託箇所は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、面積は2,352㎡である。

グリッドの設定は公共座標に基づいて行った。名称は第１次確認調査の設定を踏襲し、元総社蒼海遺跡群全体で共通する名称を使用した。グリッドの起点（Ｘ０、Ｙ０）における座標は以下のとおりである。

世界測地系　　第Ⅸ系　Ｘ＝＋44354.898ｍ　Ｙ＝－72491.717ｍ

（旧日本測地系　　第Ⅸ系　Ｘ＝＋44000.000ｍ　Ｙ＝－72200.000ｍ）

グリッドは公共座標に基づいて４×４ｍで設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３…と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

調査は表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は１／20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、１／10、１／40縮尺を使用した。遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35mm判、カラーリバーサル35mm判を使用した。

遺跡全景写真はラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。

第２項　調査の経過

現地調査は平成16年10月１日から平成17年１月24日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

平成16年

10月上旬　発掘器材の搬入、ユニットハウスの搬入を行う。
　　東区から重機による表土掘削を開始する。

中旬　東区のグリッド杭の設置を行う。
　　遺構確認作業を行い、住居跡、周溝状遺構、溝跡、道路状遺構、土壙墓等が検出される。西端部では、現道に平行して規模の大きい溝跡が検出される。
　　西寄りから遺構の掘り下げを開始する。

下旬　中央区から西区へと重機による表土掘削を進める。追って遺構確認作業を行う。溝跡、井戸跡、規模の大きい不整形な掘り込みが検出される。

11月上旬　中央区、西区のグリッド杭設置を行う。遺構の掘り下げを開始する。西区で検出された不整形な落ち込みは掘り下げが進むにつれ、粘土採掘坑の可能性が高くなる。

中旬　東区は遺構測量を中心に、中央区、西区は遺構の掘り下げを中心に作業を進める。

下旬　中央区、西区を中心に作業を進める。西区に検出されたＫ－２号工房跡から金片が出土する。
　　東区の調査を終了する。

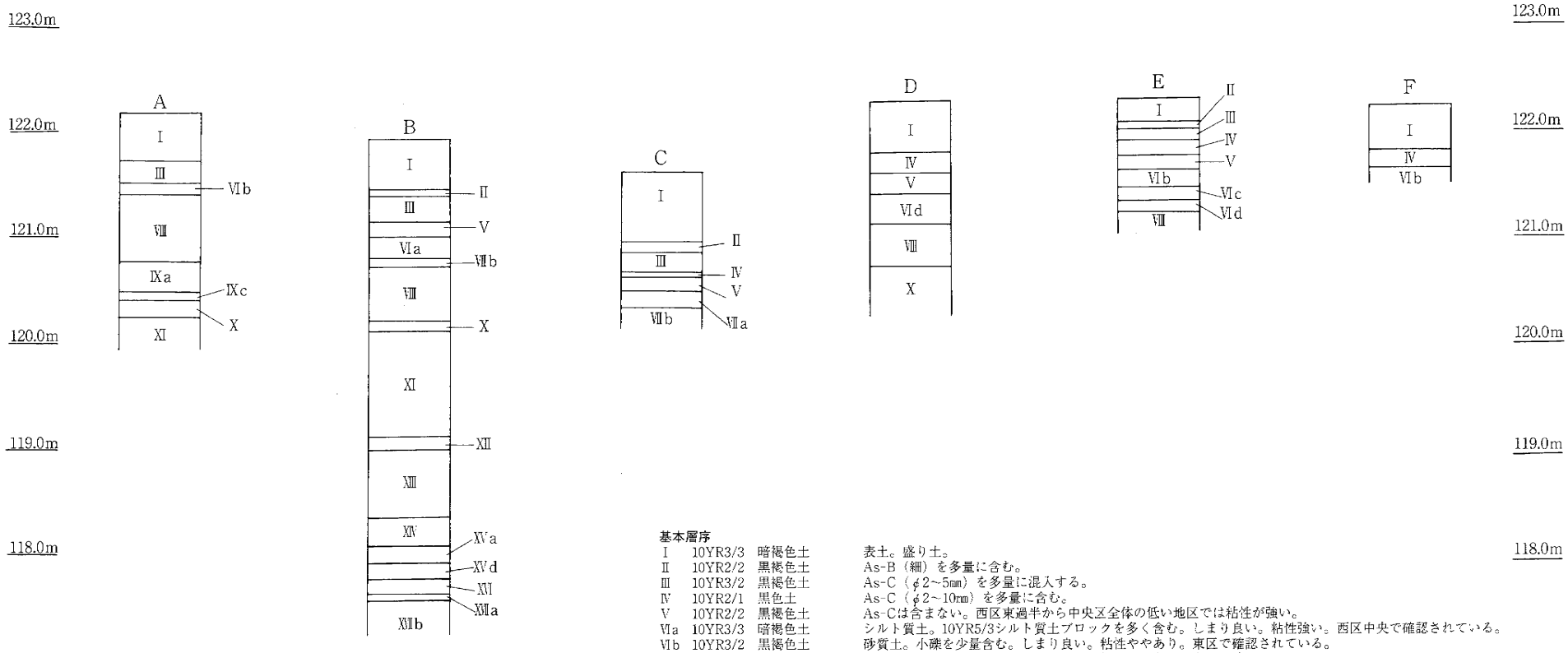
12月上旬　西区を中心に作業を進める。

中旬　ラジコンヘリによる空中撮影を行う。

下旬　縄文時代の遺構の有無を確認するため、東区トレンチによる下層調査を実施するが、遺構は検出されなかった。東区、西区西寄りの埋め戻し作業を開始する。

平成17年

１月上旬　中央区と西区の遺構実測・写真撮影を継続する。
　　中央区の埋め戻し作業を開始する。



基本層序

Ⅰ	10YR3/3	暗褐色土	表土。盛り土。
Ⅱ	10YR2/2	黒褐色土	As-B（細）を多量に含む。
Ⅲ	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多量に混入する。
Ⅳ	10YR2/1	黒色土	As-C（φ2～10mm）を多量に含む。
Ⅴ	10YR2/2	黒褐色土	As-Cは含まない。西区東過半から中央区全体の低い地区では粘性が強い。
Ⅵa	10YR3/3	暗褐色土	シルト質土。10YR5/3シルト質土ブロックを多く含む。しまり良い。粘性強い。西区中央で確認されている。
Ⅵb	10YR3/2	黒褐色土	砂質土。小礫を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。東区で確認されている。
Ⅵc	10YR2/2	黒褐色土	砂質土。小礫を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。東区で確認されている。
Ⅵd	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。西区西寄りと東区で確認されている。
Ⅶa	10YR4/4	褐色土	シルト質土。中央区東寄りで確認されている。
Ⅶb	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土。
Ⅶc	10YR3/3	暗褐色土	シルト質土。粘土採掘坑東壁で確認される。
Ⅶd	10YR2/2	黒褐色土	シルト質土。にぶい黄褐色土シルト質土ブロックを多量に含む。粘土採掘坑東壁で確認されている。
Ⅷ	10YR5/4	にぶい黄褐色土	砂礫を含む硬質の土壌。かなり硬い。
Ⅸa	10YR4/6	褐色土	細砂層。しまり良く硬い。
Ⅸb	10YR4/2	灰黄褐色土	微砂層。しまり良く硬い。
Ⅹ	10YR5/3	にぶい黄褐色土	粘土。
Ⅺ	10YR4/3	にぶい黄褐色土	細砂層。細砂がラミナ状に堆積する。層によって硬化している。
Ⅻ	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土。
ⅩⅢ	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土。10YR5/3細砂と10YR4/2シルト質土がラミナ状に堆積する。
ⅩⅣ	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土。10YR5/3シルト質土と10YR5/4シルト質土がラミナ状に堆積する。
ⅩⅤ	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土。
ⅩⅤ	10YR5/4	にぶい黄褐色土	シルト質土。
ⅩⅥ	10YR4/3	にぶい黄褐色土	粘質土。
ⅩⅦ	10YR2/2	黒褐色土	粘土。
ⅩⅦ	10YR2/1	黒色土	粘土。

※Ⅵc・Ⅵd層　Fig.23参照

Fig.4　基本層序土層図

中旬　発掘器材、ユニットハウスの撤収を行う。

下旬　埋め戻し作業を終了し、トラクターによる耕地復旧作業を行う。

耕地復旧作業を終了し、現地での作業を終了する。

第２節　整理調査の経過

本遺跡の整理作業は、平成17年１月25日から平成17年３月11日まで行った。出土した遺物は全量水洗作業を行い、各遺構ごとに仕分けした。その後、コンピュータ制御によるジェットプリンターを使用し、注記を行った。なお、注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合には一般工作用強力接着剤（セメダインＣ）を、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いて修復を行った。現地で作製した実測図は各遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後にトレース作業、版組を行い、遺物実測は原寸実測を基本としてトレース作業、版組を行った。上記の作業に並行して、遺構・遺物の事実記載、調査内容についての原稿を執筆した。遺物写真撮影には、ブローニー判モノクロームフィルムを使用した。

第Ⅳ章　基本層序

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。遺跡の大半は染谷川と牛池川に挟まれた微高地に立地する。

遺構は総社砂層と通称される黄褐色の砂質土及び浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土（Ⅳ層）を掘り込んで構築されているが、西区の東過半と中央区全体では黒褐色粘質土（Ⅴ層）が厚く堆積していて、遺構はこれを掘り込んで構築されている。

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ｘ110、Ｙ150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－108°－Ｅ　**形状等**　東西(2.13) m、南北(0.93) m、壁現高0.42 m。北側が調査区外となり、全容は不明。　**床面**　やや凹凸がある。北寄り部分では凝灰岩質の地山を床としているが、南過半では凹凸を埋めるように暗褐色土を貼っている。中央やや北寄りで被熱による焼土化が認められる。　**竈**　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築されている。焚き口部と燃焼部から煙道部に至る部分に礫を用いている。煙道は燃焼部から約18 cm高くなり、わずかに延びている。燃焼部から煙道にかけての側壁上面で、被熱による焼土化が認められる。　**壁溝**　不明。　**貯蔵穴**　南寄りに不整形な浅い掘り込みが検出されているが、性格は不明。　**出土遺物**　土師器甕１点、土師器椀１点、羽釜類１点、須恵器坏１点、平瓦１点、軒丸瓦１点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀後半から11世紀代が想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 8・9、PL. 3・4）

位置　Ｘ99・100、Ｙ150・151グリッド　**主軸方向**　Ｎ－113°－Ｅ　**形状等**　東西2.75 m、南北(1.62) m、壁現高0.25 m。北側が調査区外となり、全容は不明。　**床面**　ほぼ平坦で周辺部を除き硬化が認められる。床下から土坑状の掘り込みが２基検出されている。P_1上面では特に硬化は認められなかったが、P_2上面では貼

床が施され硬化が認められた。　**竈**　東壁に壁面を掘り込んで構築される。　**壁溝**　不明。調査できた範囲では検出されていない。　**貯蔵穴**　不明。　**重複**　H－4・12号住居跡を切る。　**出土遺物**　羽釜類1点、須恵器坏2点、須恵器椀4点、灰釉陶器椀1点、平瓦1点、丸瓦1点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀前半が想定される。

H－4号住居跡（Fig. 8・9、PL. 4）

位置　X 100、Y 150・151グリッド　**主軸方向**　N－110°－E　**形状等**　東西(1.03)m、南北(1.66)m、壁現高0.08 m。西側をH－3号住居跡に切られ、全容は不明。　**床面**　ほぼ平坦である。北西寄りで硬化が認められる。北東角に円形の掘り込みが検出されている。埋没土の状況から本遺構に伴うものとして取り扱ったが、別遺構の可能性も否定できない。掘り方は凹凸があり、南東角には円形の落ち込みが検出されている。上面でわずかながら硬化が認められたため掘り方として扱った。　**竈**　東壁に壁面を掘り込んで構築され、焚き口と燃焼部奥に凝灰岩質の土壌を切り出して使用している。　**壁溝**　不明。調査できた範囲では検出されていない。　**貯蔵穴**　不明。　**重複**　H－3号住居跡に切られる。　**出土遺物**　須恵器椀1点を図示した。　**時期**　出土遺物から9世紀後半から10世紀前半にかけての時期が想定される。

H－5号住居跡（Fig. 8・9、PL. 4）

位置　X 99、Y 150・151グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　東西2.31 m、南北(1.87)m、壁現高0.36 m。北側が調査区外となり東側をH－12号住居跡に切られ、全容は不明。　**床面**　ほぼ平坦である。調査できた範囲でわずかに硬化面が検出されている。　**竈**　他遺構に切られ不明。　**壁溝**　不明。調査できた範囲では検出されていない。　**貯蔵穴**　不明。調査できた範囲では検出されていない。　**重複**　H－6号住居跡を切りH－12号住居跡に切られる。　**出土遺物**　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。　**時期**　特定できる資料の出土はなく詳細は不明である。

H－6号住居跡（Fig. 8・9、PL. 4）

位置　X 99、Y 151グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　東西2.20 m、南北(1.58)m、壁現高0.08 m。北側をH－5号住居跡に切られ全容は不明。　**床面**　ほぼ平坦である。掘り方はなくV層を床としている。

竈　東壁に壁面を掘り込んで構築されている。わずかではあるが袖部とみられる黒褐色土が検出されている。燃焼部中央でわずかに被熱による焼土化がみられる。　**壁溝**　不明。調査できた範囲では検出されていない。

貯蔵穴　不明。　**重複**　H－5号住居跡に切られる。　**出土遺物**　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

時期　特定できる資料の出土はなく詳細は不明である。

H－7号住居跡（Fig. 9・10、PL. 4）

位置　X 86・87、Y 152・153グリッド　**主軸方向**　N－107°－E　**形状等**　東西2.91 m、南北3.47 m、壁現高0.43 m。主軸方向が短軸となる長方形。　**床面**　やや凹凸がある。中央部で硬化が認められる。掘り方を有し、シルト質土ブロックを含んだ黒褐色土を充填して床を構築している。西寄りと北寄りで地山を床としている部分もあるが、凹凸があり、深いところでは床面からの深さで23 cm程度である。　**竈**　東壁のほぼ中央に壁面を掘り込んで構築される。　**壁溝**　検出されていない。　**貯蔵穴**　南東隅に長軸59 cm×短軸45 cm、深さ16 cmの楕円形の掘り込みが検出されている。　**出土遺物**　小型ロクロ甕1点、土師器坏1点、須恵器坏2点、須恵器椀2点、灰釉陶器皿1点、灰釉陶器椀1点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀前半が想定される。

H－8号住居跡（Fig.10、PL. 4）

位置　X 87、Y 151・152グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**形状等**　東西(2.20)m、南北(2.86)m、壁現高0.31 m。主軸方向が短軸となる長方形。　**床面**　やや凹凸がある。重複する粘土採掘坑の深さによって地山Ⅸ層（灰白色シルト質層）が直接床となっている部分と同採掘坑埋没土が床となっている部分がある。採掘坑埋没土を床としている箇所では北側の一部でブロック状のシルト質土を用いて床を貼っている。　**竈**　東壁南寄り

に壁面を掘り込んで構築され、支脚に凝灰岩質の土壌を切り出して使用している。両袖部には平瓦を使用している。竈前面の床には黄灰色粘質土が検出されている。層厚１～２cmでほぼ平坦である。　**壁溝**　検出されていない。　**貯蔵穴**　検出されていない。　**重複**　粘土採掘坑を切る。　**出土遺物**　土師器坏１点、須恵器坏１点、平瓦２点を図示した。　**時期**　土師器坏（26)、須恵器坏（27）はＥ－１号粘土採掘坑からの流れ込みの可能性も考えられ、時期の特定には困難と考えられる。平瓦２点は竈袖構築材に用いられていたもので、国分寺瓦の流用と考えると、出土した（26)、(27）よりも時期が下るとみられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.11、PL. 4）

位置　Ｘ90・91、Ｙ150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　東西(4.12)ｍ、南北(0.71)ｍ、壁現高0.20ｍ。北側が調査区外となり、全容は不明。調査できた部分はわずかである。　**床面**　西端部でわずかに落ち込んでいる。　**竈**　南東角に壁面を掘り込んで構築され、焚き口に礫を用いている。煙道は燃焼部から一段高くなり、長く延びている。　**壁溝**　不明。　**貯蔵穴**　不明。　**重複**　Ｗ－８号溝跡に埋没土の大半を切られているが、遺構の形状は壊されていない。　**出土遺物**　羽釜類１点、土師器小皿３点、石製品砥石１点を図示した。　**時期**　出土遺物から11世紀代が想定される。

Ｈ－11号住居跡（Fig.11・12、PL. 4・5）

位置　Ｘ80・81、Ｙ150・151グリッド　**主軸方向**　Ｎ－105°－Ｅ　**形状等**　東西(2.20)ｍ、南北(2.76)ｍ、壁現高0.25ｍ。西側をＷ－７号溝跡に切られ、全容は不明。遺物の分布をみると東側の竪穴外からも出土していて、この部分に柵状の張り出しが存在した可能性も考えられる。　**床面**　凹凸がある。竈前面で硬化が認められる。床下から円形の土坑状の掘り込みが３基検出されている。　**竈**　東壁を掘り込んで構築され、礫を使用している。　**壁溝**　不明。　**貯蔵穴**　不明。　**重複**　Ｗ－７号溝跡に切られる。　**出土遺物**　土師器甕３点、羽釜類９点、須恵器坏１点、須恵器高台付皿１点、須恵器椀２点、土師器椀１点、須恵器小皿１点、灰釉陶器椀１点、灰釉陶器瓶類１点、丸瓦１点、石製品砥石１点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀後半が想定される。

Ｈ－12号住居跡（Fig. 8・9、PL. 4）

位置　Ｘ99・100、Ｙ150・151グリッド　**主軸方向**　Ｎ－97°－Ｅ　**形状等**　東西(1.93)ｍ、南北(1.54)ｍ、壁現高0.15ｍ。東側の大半をＨ－３号住居跡に切られ北側は調査区外となり、全容は不明。　**床面**　ほぼ平坦である。　**竈**　他遺構に切られ不明。　**壁溝**　不明。　**貯蔵穴**　不明。　**重複**　Ｈ－５号住居跡を切り、Ｈ－３号住居跡に切られる。　**出土遺物**　須恵器坏１点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀代が想定される。

Ｈ－13号住居跡（Fig.12、PL. 5）

位置　Ｘ80・81、Ｙ149・150グリッド　**主軸方向**　不明。　**形状等**　東西(1.60)ｍ、南北(2.10)ｍ、壁現高0.21ｍ。西側をＷ－７号溝跡に切られ北側は調査区外となり、全容は不明。　**床面**　不明。　**竈**　部分的な検出のため詳細は不明だが、東壁南寄りに付設されていたとみられ、礫を用いて構築されている。　**壁溝**　不明。　**貯蔵穴**　竈南東に長軸97cm×短軸80cm、深さ44cmの楕円形の掘り込みが検出されているが性格は不明。　**重複**　Ｗ－７号溝跡に切られる。　**出土遺物**　須恵器坏１点、須恵器椀１点を図示した。　**時期**　出土遺物から10世紀代が想定される。

Ｈ－14号住居跡（Fig.12・13、PL. 5）

位置　Ｘ93・94、Ｙ151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－101°－Ｅ　**形状等**　東西(3.53)ｍ、南北(3.30)ｍ、壁現高0.21ｍ。西側が調査区外となり、全容は不明。本遺構埋没土を切って複数の土坑状の掘り込みがあり、確認時は複数の土坑番号（Ｄ－44・46・49・50・51・52・53・60・61）を付したが、重複が激しく、さらに住居跡床下の掘り込みと考えられる（Ｄ－48・52・53）ものもあり、個々の遺構として捉えるのは困難であった。わずかではあるが床とみられる平坦面が存在したため、住居跡が存在した可能性が高く、住居跡破棄後に土坑

が掘り込まれたと考えられる。 **床面** 埋没土上方からの掘り込みによって消失している部分が多いが、遺存している部分はほぼ平坦で地山のシルト質層（Ⅶb層）を床としている。 **竈** 東壁南寄りに竈様の張り出しがあり、この周辺で焼土ブロックや粒子が多く混入し、羽釜が出土していることなどから、この部分が竈であった可能性が高い。 **壁溝** 不明。 **貯蔵穴** 不明。 **重複** 上記土坑のほか中世以降が想定されるDB－1号火葬跡、D－41・42・62・66号土坑に切られる。 **出土遺物** 遺物は南寄りに集中して出土していて、土坑状の掘り込みごとのまとまりはみられなかった。土師器甕2点（60・61）、羽釜類1点（62）、須恵器坏2点（63・65）、土師器坏1点（64）、須恵器椀2点（66・67）、灰釉陶器椀1点（68）を図示した。 **時期** 出土遺物から9世紀後半から10世紀前半が想定される。

第2節　工房跡

K－1号工房跡（Fig.13・14、PL. 5・6）

位置 X 120・121、Y 150・151グリッド **主軸方向** N－95°－E **形状等** 東西5.36 m、南北3.80 m、壁現高0.50 m。北西隅がわずかながら調査区外にかかるが、東西方向が長軸となる長方形。 **埋没土** 上層は浅間B軽石の1次堆積層で、下層は暗褐色土を主体とした自然堆積とみられる。 **床面** 硬化面は東壁南寄りから南東角にかけてに細長く延び、極めて硬化している。その北方に長さ1.31 m、幅0.28 m、深さ5～8cmの東西に長い小溝が検出されている。小溝の北側にも硬化面が広がるが硬化の程度はそれほどではない。中央部に円形の著しく硬化した部分があり、周辺部からの深さで2cm程度の浅い皿状の窪みとなっている。くぼみA：長軸55 cm×短軸51 cm、くぼみB：長軸51 cm×短軸46 cm。くぼみAと小溝の間には被熱により著しく焼けた面が2箇所検出されている。南東隅には灰層が検出されている。ピットは西の火床面内に1基（P1・径14 cm×13 cm、深さ3cm）と北東に近接して1基（P2・径19 cm×18 cm、深さ7 cm）、南壁寄り中央に1基（P3・径29 cm×26 cm、深さ11 cm）の計3基が検出されている。 **竈様施設** 南西隅に構築され、壁面からは28～41 cm離れている。礫と黒褐色粘質土を用いて構築される。燃焼部内には焼土ブロック及び粒子を多量に含む黒褐色土が堆積し、底面直上には灰層が厚く堆積する。内壁は南寄りから東寄りの上方にかけて、被熱による焼土化が顕著である。被熱の様子から奥壁は煙道のように抜けていたと判断される。構築面には黒褐色砂質土が敷設され、この層上に構築している。この黒褐色砂質土を除去した後の掘り方は浅い窪みとなっている。 **壁溝** 北壁東寄り、灰層が検出された南東隅、南東隅竈様施設のある南西隅を除き巡っている。 **貯蔵穴** 不明。 **出土遺物** 遺物の出土は極めて少ない。須恵器小皿1点、須恵器坏1点、丸瓦1点を図示した。いずれも竈様施設内からの出土である。 **時期** 浅間B軽石の堆積から同軽石降下時点ではすでに廃絶されていたことが考えられ、出土した坏からは11世紀代が想定される。 **所見** 本遺構は極度に硬化した浅い落ち込みや火床部、同時期の住居跡に一般にみられるものとは様相が異なる竈様施設などの特徴がみられたため工房跡とした。また、土器の出土は極端に少なかった。鍛造剥片などの出土はみられず、金属関連以外の何らかの加工を行っていたものと考えられる。

K－2号工房跡（Fig.14～16、PL. 7・8）

位置 X 90・91、Y 151・152グリッド **主軸方向** N－110°－E **形状等** 東西4.22 m、南北6.37 m、壁現高0.23 m。南北軸が長軸となる長方形。 **床面** ほぼ平坦であるが北東が高く北西に向かって下がり傾斜となっていて、これは遺構確認面の傾斜方向に一致している。床面のもっとも高い北東隅ともっとも低い南西隅では約17 cmの高低差がある。中央からやや東に寄った範囲に硬化面が広がっている。中でも竈様施設前面とP1（焼壁ピット）南東側が特に硬化している。南壁中央では、炭化物や焼土粒子を多く含んだ堆積層（炭溜まりA）が検出されている。また、北寄りには木炭片を多く含む堆積層（炭溜まりB）が検出され、層下の床面でわずかに被熱痕が検出されている。床面掘り方は特にみられなかったが、東壁北寄り（深さ9～14 cm）と西壁の北端（深さ1～2cm）に壁周溝状の掘り込み、中央やや北東寄りに東西に長い小溝（長さ1.6 m、幅24～38 cm、

深さ9cm、ピット状に落ち込む部分で深さ12cm)、北西隅に長軸81cm×短軸45cm、深さ12cmの楕円形の掘り込み、南西寄りに長軸90cm×短軸87cm、深さ6cmの円形の掘り込みがそれぞれ検出されている。 **炉（P1・P2）周辺の様子** P1は直径33cm、深さ21cmの円形で底面、側壁とも被熱による焼土化がみられ炉の可能性がある。ピット周辺の床面も被熱により焼土化している。底面は特に北東半で被熱による焼土化が顕著である。側壁も全体に被熱を受けているが、特に上半部で顕著にみられ、被熱によりかなり硬く熱変異している。埋没土は上層が炭化物や焼土粒子を含む黒褐色土で、下層は炭化物を主体とした層である。底面には須恵器椀が伏せられた状態で出土している。この土器には被熱の痕跡はみられず、土器内部の土壌には炭化物はあまり含まれていない。P2はP1から50cm北方に検出されている。直径18cm、深さ7cmの円形で、断面形は半円形に近い形状である。埋没土は炭化粒子を含む黒褐色土である。底面や内壁は被熱による焼土化は明瞭ではなかったが、周辺の床面は被熱による焼土化が顕著にみられる。埋没土中から粒状の金が2点出土している。 **竈** 東壁南寄りに壁面を掘り込んだ竈様施設がある。燃焼部底面北寄りで火床面が検出されている。硬質の砂質土壌を切り出したものが燃焼部南寄りから5片出土している。 **壁溝** 検出されていない。 **貯蔵穴** 南東隅に1基（P3)、南西に1基（P4）検出されている。P3は長軸51cm×短軸41cm、深さ20cmの長方形の掘り込みで、埋没土の下層には炭化物や焼土ブロックが含まれる。P4は長軸94cm×短軸44cm、深さ48cmの楕円形の掘り込みで南東隅に検出されている。北東側の床面から連続して、シルト質土が落ち込んでいる。掘り方調査時に北側に接して楕円形の掘り込みが検出され、作り替えが行われた可能性がある。 **重複** D－22号土坑に切られる。 **出土遺物** 須恵器甕1点、土師器甕3点、須恵器坏2点、須恵器椀1点、平瓦2点、金3点（81～83）を図示した。須恵器椀（78）は焼壁ピットP1の底部から伏せられた状態で出土している。土師器甕（75）は被熱による変異が著しいもので、炭溜まりA内、P3内などから分散して出土している。(81）は8mm×5mmの薄い板状の金片で炭溜まりAから出土している。(82）は直径3mm（83）は直径1.2mm、の粒状の金で、共にP2埋没土中から土壌洗浄によって検出された。 **時期** 出土遺物から10世紀前半が想定される。 **所見** 本遺構は南東寄りを中心として火床部が検出されていることや、P1・P2は炉としての性格が考えられ、出土した金粒から、金を融解した炉であることが想定される。これらの点から本遺構は金に関連する工房跡と判断した。薄い金片と金粒から、箔の製作の可能性と炉による融解が行われていた可能性とが指摘できる。南壁中央に検出された炭溜まりAは、焼土ブロックや比較的細かい炭化物が混入し、操業による廃滓場とも考えられる。また、北寄りに検出された炭溜まりBは、層下の床面でわずかに被熱痕がみられるが、焼土粒子は含まれず木炭が多量に混入している。何らかの作業が行われたか、あるいは燃料としての炭置き場であったとも考えられる。

第3節　道路状遺構（Fig.16・17、PL. 8・9）

道路状遺構は東区で2条検出されている。A－1号道路状遺構は2・3層上面、4・5b層上面がかなり硬化している。下層の硬化面では北寄りで小礫が敷設されている部分もある。南端部では波板状の掘り方が検出されている。A－2号道路状遺構は幅3.5～4mの硬化面（1層下面）として検出され、その下層は断面形「U」字状の溝状掘り込みがあり、底面（4層以下）でも硬化していて道路として機能していたとみられる。いずれも浅間C軽石を埋没土中に含み、古代以前の時期が想定される。規模等の詳細は道路状遺構一覧表（Tab. 5）にまとめた。

第4節　周溝状遺構（Fig.17、PL. 9）

周溝状遺構は東区東端で2基検出されている。北方に近接して調査が行われた元総社小見内Ⅳ遺跡においても同様の遺構が検出されている。詳細な時期は不明だが、浅間C軽石を埋没土に含み古代以前が想定される。規模等の詳細は周溝状遺構一覧表（Tab. 6）にまとめた。

第５節　溝跡（Fig.18～21、PL. 9～11）

溝跡は西区で２条（W－６・７）、中央区で２条（W－８・９）、東区で５条（W－１～５）が検出されている。埋没土や出土遺物から古代以前が想定されるものはW－２・３・４・５号溝跡で、このうちW－５号溝跡は浅間Ｂ軽石によって埋没している。中世以降が想定されるものはW－１・６～９号溝跡である。東区西端のW－１号溝跡と西区西端のW－７号溝跡は規模の大きい溝で、W－１号溝跡は、現道と平行して南北に走行している。W－７号溝跡は平成14年度に調査を実施した元総社小見Ⅲ遺跡「３区W－１号溝跡」と同一の遺構で、今回の調査では東の立ち上がりが確認された。W－８号溝跡は中央区西寄りに検出されている。南北に走行し、北寄りで西に屈曲する「L」字状を呈し、西区北東角に検出されたH－10号住居跡の埋没土を切ってさらに延びている。北西角の南側で上端幅が狭くなる箇所がある。ここから南へ走行する部分では２条の走行が認められ、土層観察から、西側から東側へと新しくなることが認められた。遺物は古瀬戸椀や軟質陶器鉢、滑石製印版などが出土している。また、本遺構から出土した軟質陶器鉢（87）と、Ｉ－３号井戸跡から出土した軟質陶器鉢（93）は直接の接合関係にはないが同一個体の可能性が高く、両遺構の埋没時期は比較的近いとみられる。同溝跡に囲まれた内側では浅間Ｂ軽石を埋没土中に含む土坑や火葬跡が検出され、東側では同軽石を埋没土中に含むピットが数多く検出されている。西区中央に検出されたW－６号溝跡と中央区東側に検出されたW－９号溝跡は、埋没土中に水平に硬化した面があり、埋没過程で一時期道路として使用されていた可能性がある。規模等の詳細は溝跡一覧表（Tab. 7）にまとめた。

第６節　井戸跡（Fig.21・22、PL.11）

井戸跡は中央区で３基、西区で１基検出されている。中央区の３基は中世が想定されるもので、このうち、Ｉ－１号井戸跡は形状や土層観察から、井戸跡が存在した可能性がある。また、北東と南西の側面中場に浅い三日月型のえぐりがある。Ｉ－３号井戸跡からは深さ30～40㎝のところで径20㎝以上の礫が３点人為的に入れられた状況で出土している。

西区で検出されたＩ－４号井戸跡は出土遺物から８世紀前半が想定される。以下に記述したものも含め規模等の詳細は井戸跡一覧表（Tab. 8）にまとめた。

Ｉ－４号井戸跡（Fig.22、PL.11）

位置　X 84・85、Y 151グリッド。E－１号粘土採掘坑内の西寄りで検出された。　**規模等**　長軸2.39ｍ×短軸1.71ｍ、深さ3.30ｍ以上。上面径は東西方向が長くなる楕円形で、側壁は崩落により算盤玉状となっている。上面から約３ｍのところで長軸87㎝×短軸72㎝の楕円形となってさらに深くなっている。　**埋没土**　上層は浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土でE－１号粘土採掘坑の埋没土から連続して堆積している。中層以下は側壁の地山の土壌と同質のもので、崩落による堆積の可能性が高い。　**重複**　E－１号粘土採掘坑内に検出されている。土層観察では本井戸跡が採掘坑埋没土を切っているとは判断できず、本井戸跡上層に採掘坑埋没土が堆積する状況が窺えた。　**出土遺物**　須恵器壺１点（97）、須恵器甕１点（98）、土師器甕１点（99）を図示した。（97）は上面から2.2ｍ、（98）は約1.5ｍ、（99）は2.8ｍの深さから出土している。　**時期**　出土遺物から８世紀前半が想定される。

第７節　土壙墓（Fig.22、PL.12）

土壙墓は東区西寄り、W－１号溝跡東側で２基が検出されている。DB－１号土壙墓からは「永楽通宝」が６点、DB－２号土壙墓からは同じく「永楽通宝」が３点出土している。DB－２号土壙墓は比較的人骨の遺存が良く、埋葬形態は北頭西顔側臥屈葬である。鑑定の結果、双方とも30代の女性と想定される。規模等の詳細は土

壙墓一覧表（Tab. 9）にまとめた。

第８節　火葬跡

DB－１号火葬跡（Fig.23、PL.12）

中央区西寄りＷ－８号溝跡の西側で検出されている。西壁中央に通風孔を有し、これを中心とした西壁が被熱により焼土化している。埋没土の上層は自然堆積とみられるが、下層は木炭や焼土を多く含み、これに混入してわずかに焼骨が出土している。収骨を丁寧に行っている様子が窺える。規模等の詳細は火葬跡一覧表（Tab.10）にまとめた。

第９節　粘土採掘坑

Ｅ－１号粘土採掘坑（Fig.23・24、PL.12）

位置　Ｘ 83 ～ 88、Ｙ 150 ～ 152 グリッド　**規模**　東西長 19.4 ｍ×南北長 6.60 ｍ以上、深さ 0.7 ～ 1.6 ｍ。調査区北側にさらに広がるとみられる。　**形状**　全体の上面形は不整形で、底面は全体に 0.5 ｍ～３ｍほどの不整円形落ち込みが連続している。埋没土の状況や底面の形状から、土坑状の掘削が繰り返し行われた様子が窺える。掘削の底面は硬質の褐色土壌で止まっていて、この硬質土壌の直上には５㎝前後の灰白色シルト質層があり、これを採掘する目的で掘削されたと考えられる。また、北壁の東寄りでは硬質土壌の塊（径 30 ～ 60 ㎝前後）が出土している。　**重複**　Ｈ－８号住居跡、Ｗ－６号溝跡に切られる。Ｉ－４号井戸跡は採掘坑埋没土が井戸跡上層まで入り込んでいて、Ｉ－４号井戸跡は本採掘坑と関連する可能性がある。　**出土遺物**　土師器台付甕１点、須恵器甕２点、土師器坏６点、須恵器蓋１点を図示した。　**時期**　出土遺物から最終段階では８世紀前半から中頃が想定される。

第 10 節　土坑・ピット（Fig.20・25 ～ 28、PL.13）

土坑・ピットは各調査区に散在して検出されている。埋没土に混入する浅間Ｂ軽石や浅間Ｃ軽石によって概ね古代以前と中世以降に大別される。双方共に調査区全域で検出されているが、中世以降のものは中央区西寄りと西区東寄りにまとまりがある。中世が想定される土坑の内、長軸が極端に長くなる形態のものが、中央区西寄りで検出されている（Ｄ－ 38・42・58・59・68・70）。このうちＤ－ 70 は詳細は捉えきれなかったが、同様の形態のものが、繰り返し掘られたものとみられる。規模等の詳細は土坑一覧表（Tab.12）、ピット一覧表（Tab.13）にまとめた。

第 11 節　畝状遺構（Fig.29、PL.13）

畝状遺構は西区で５条、中央区で３条、東区で４条が検出されている。Ⅳ層（浅間Ｃ軽石を多く含む黒色土）を切って掘り込まれ、埋没土はⅣ層よりも浅間Ｃ軽石の混入比率が高く、色調はやや明るい。耕作溝としての性格が考えられる。規模等の詳細は畝状遺構一覧表（Tab.14）にまとめた。

第 12 節　グリッド等出土遺物

表採遺物や遺構内であっても明らかに時期が異なり、流れ込みと判断されるものを本節で取り扱った。縄文土器片７点、打製石斧２点、石鏃２点、平瓦１点、須恵器壺１点を図示した。（123）は東区Ｖ層、（124）はＰ－ 68 埋没土中、（125）は西区Ⅲ層、（126）は表採、（127）はＷ－２号溝跡埋没土中、（128）は東区Ⅲ層、（129）は東区中央Ｖ層、（130）はＷ－８号溝跡埋没土中、（131）は西区Ⅲ層、（132）は東区西寄りⅥｂ層、（133）は東区東寄りⅥｂ層、（134）は東区撹乱内、（135）は中央区東寄りⅢ層からそれぞれ出土している。

第Ⅶ章　まとめ

今回調査を行った地区は、推定国府域西側に近接している。これまで周辺で調査された各遺跡に比べて住居跡が極端に少ない。また、粘土採掘坑や工房跡などが検出され、一般の集落遺跡とは異なる様相がみられる。

検出された遺構や遺物から遺跡の時期別変遷過程をみると、８世紀前半頃が想定されるＥ－１号粘土採掘坑とＩ－４号井戸跡が検出されている。この時期に想定される竪穴住居跡は全く検出されていない。その後、断絶があり、10 世紀前半から 11 世紀にかけての時期に竪穴住居跡、工房跡がある。今回の調査範囲では住居跡が出現するのは 10 世紀前半からで律令が衰退する時期である。調査区全域に分布するものの、検出密度は低い。

中世では規模の大きい溝跡、土坑、土壙墓、火葬跡、ピットが検出されている。西区東端から東区にかけて検出されていて、特にＷ－１号溝跡、Ｗ－７号溝跡は蒼海城に関わる堀跡とみられる規模の大きいものである。

工房跡について

Ｋ－１号工房跡は床面に極度に硬化した浅い落ち込みが検出されている。「叩き」による加工が行われていたことが想像されるが、製品の出土はなく何を加工していたかは不明である。金属関連以外の、皮革・植物等の何らかの腐食してなくなるものではなかったかと考えられる。

Ｋ－２号工房跡は「金」の出土、炉、火床面等が検出されたため、金の加工が行われていたことが想定され、工房跡とした。また、極度に熱変異した土師器甕片（75）は、付着物は確認されていないが、坩堝または取瓶として転用された可能性も考えられる。これまでの調査事例としては、官営の大規模な工房跡とされる富本銭が出土した奈良県明日香村の「飛鳥池遺跡」が著名だが、明日香池遺跡の工房は丘陵の斜面を削って平坦面を作り、ここに鍛冶炉を設けて作業場としている。これに対してＫ－２号工房跡は竪穴住居跡に近い構造であり、前者とは構造的に異なる。時期は飛鳥池遺跡は７世紀後半を中心とした時期が想定されているのに対し、本遺構は 10 世紀後半が想定される。他に古墳時代中期から後期が想定される島根県出雲市の三田谷Ｉ遺跡、10 世紀後半から 11 世紀が想定される青森県八戸市の林ノ前遺跡で金が付着した坩堝の出土が報告されている。また、近隣の遺跡では、本遺跡から西へ約 500 ｍにある鳥羽遺跡・Ｋ区の「Ｋ９号住居跡」から、片面塗金の金銅製品丸鞆が出土している。

本遺構からは製品としての金が出土していないため、詳細は不明であるが、出土した金が薄い板状のものと粒状のものがあることから、箔の製作の可能性と炉による金の融解が行われていたことが想定される。

粘土採掘坑について

粘土採掘坑については、掘削の層位から採取されたとみられるシルト質土は、周辺地区の事例からその用途の一部として竈の構築材として使用されていた可能性が考えられる。周辺地区で同時期の竪穴住居跡が数多く検出されていることを考えると、かなりの需要があったと想像される。採掘坑内に検出されたＩ－４号井戸跡は、埋没土の状況や出土遺物からほぼ同時期が考えられ、本採掘坑に関連する遺構の可能性が高い。元総社小見内Ⅲ遺跡（平成 13 年度）、元総社草作Ⅴ遺跡（平成 14 年度）においても、粘土採掘坑と想定される不整形な掘り込み内に井戸様の深い掘り込みが検出されていて本遺構はこれらに類似している。

滑石製印版について

Ｗ－８号溝跡（出土した遺物から 14 世紀代から 15 世紀前半が想定される）から出土した滑石製品（91）は長さ 10.0 ㎝、幅 7.1 ㎝、厚さ 4.3 ㎝の直方体の形状をしたスタンプ形製品である。これまでに鎌倉の中世遺跡からの出土例が多く報告されている。

小口面を除く表・裏の広い面と両サイドの狭い面に、それぞれ違った紋様が刻まれていていずれも陽刻である。表（最終使用面）には根付きの松、裏面には連続する飛鳥文が刻まれている。狭面には、片面が銀杏葉の連続文、もう片面が列点を入れた斜格子文が刻まれている。当時鎌倉で流行していたモチーフと考えられる。

鎌倉市「千葉地東遺跡」では穿孔された穴に火箸が差し込まれた状態で出土した例があり、武具・馬具・装飾具等の皮革製品の装飾文様に焼き印としての利用や、臈纈染め用の版等の説がある。温石（カイロ）説もあるが、大きさや石材からも可能性は考えられるものの、ここでは鎌倉で考えられている印版説をとって報告する。

この遺物にも火箸を差し込むためと推定される穴が小口面に1箇所と、わずかに方向を違えてもう一箇所、連続飛鳥文の面から最初の穴に向かって再度穿孔されている。おそらく当初は、飛鳥文面を使用しその後根付きの松の面を使用したものと考えられる。

鎌倉以外では博多・京都で出土しているものが知られ、地方での出土例は少ない珍しい遺物である。鎌倉以外の関東では、茨城県土浦市の神出遺跡（14世紀～15世紀）からの出土例がある。その性格から、中世前半期の生産関連遺構を伴う遺跡での出土が今後見込まれると考えられる。

今回の調査では律令期とそれ以前では、8世紀前半が想定されるⅠ－4号井戸跡やⅠ－1号粘土採掘坑が検出されているものの、住居跡は検出されなかった。これまでの周辺の調査事例にみられるような竪穴住居跡が密集する状況とは異なり、住居跡の検出密度は低く、その出現も律令が衰退する10世紀前半からであった。調査地区は推定国府域の西に接する地区であり、土地利用における制約が想像される。また、同じく10世紀前半以降の工房跡の存在、時期が下るが、W－8号溝跡から出土した滑石製印版から皮革製品の生産の可能性など、律令衰退後から中世にかけて生産関連を想像させる遺構・遺物が特徴的にみられた。

参考文献

前橋市史編さん委員会『前橋市史』
山崎　一　昭和53年　『群馬県古城墨址の研究』上巻
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1880　『鳥羽遺跡　Ⅰ・J・K区』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『鳥羽遺跡　L・M・N・O区』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（4）』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（5）』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（8）』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1993　『上野国分尼寺跡　上野国分二寺中間地域』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『上野国分寺参道遺跡』
前橋市教育委員会　1988　『芳賀東部団地遺跡Ⅱ －古墳～平安時代編　その2－』
群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（3）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見内Ⅳ遺跡』

付編　前橋市元総社小見内Ｘ遺跡出土金属片成分分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西区のＫ－２号工房跡は、出土遺物から時期は10世紀前半代とされる住居跡であるが、火床部や側壁が極端に焼土化したピットが検出され、炭化物の溜まりが２ヶ所あり、通常の住居跡とは異なり工房的な要素が認められる遺構である。西辺に検出された炭化物の溜まりからは５～８mmの薄い金属片も出土しており、その素材は金である可能性が高いことが指摘されている。今回の分析調査では、炭化物の溜まりから出土した金属片を対象とし、蛍光Ｘ線分析により材質を確認し、その素材を特定する。

1. 試料

試料は、Ｋ－２号工房跡から出土した金属片１点である。なお、金属片表面は土壌が付着した状況にあるが、貴重な遺物であり非破壊調査を前提としたことから、試料のクリーニング処理を行わず、調査に用いた。

2. 分析方法

蛍光Ｘ線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法であり、試料の外観上の変化を伴わない本分析法は概略の化学組成を知るためには極めて有効な手法となる。

今回の調査に用いた装置はセイコーインスツルメンツ(株)製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置(SEA2120L)である。なお、試料は５～８mmと小さい金属片であったことから、試料はマイラー膜（2.5 μm）（ケンプレックス製 CatNo106）で固定した上で、分析を行った。

計測した特性Ｘ線スペクトルは元素定性を実施した後、マイラー膜による吸収補正を施し、ノンスタンダードによるFP法(ファンダメンタルパラメーター法)により、定量演算を行い、相対含有率(wt%)を算出する。なお、本装置による検出可能元素は $_{11}$Na から $_{92}$ Uの範囲にある元素であることや、算出された相対含有率は半定量的なものであることに留意が必要である。本調査における測定条件の詳細について、表１に示す。

表 1. 測定条件

測定装置	SEA2120L
管球ターゲット元素	Rh
測定時間（秒）	300
有効時間（秒）	215
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ 10.0 mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μ A）	40
フィルタ	なし
マイラー	ON

3. 結果

蛍光X線スペクトルを図1に示す。金属片の蛍光X線スペクトルより検出された元素は、Au（金）、Ag（銀）、Fe（鉄）である。一方、表2に示した半定量結果から、金属片は金90%、銀10%程度含まれることが確認される。なお、鉄については1%以下の割合で含まれる結果となっているが、本結果が純粋に金属片を計測したものではないことから、鉄は付着土壌に由来する元素である可能性が高い。

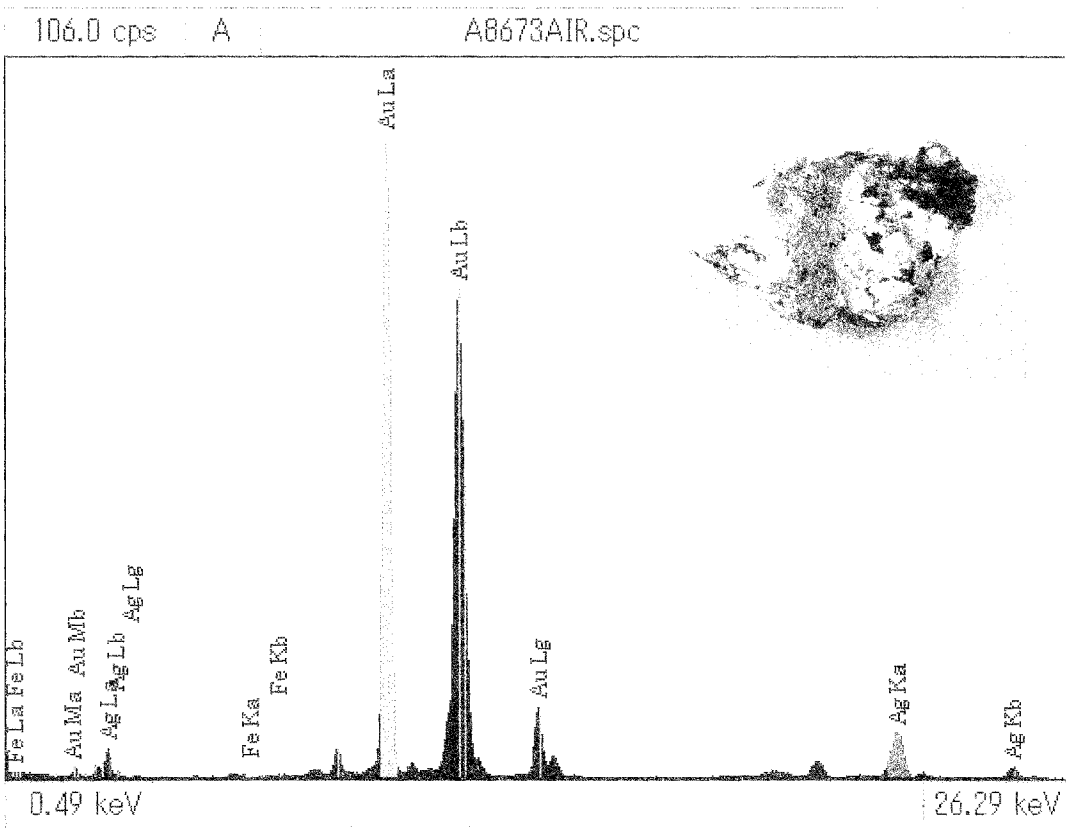


図1. 金属片の蛍光X線スペクトル

表2. 検出元素と半定量結果

Z	元素	元素名	ライン	積分強度(cps)	含有率(wt%)	ROI(keV)
26	Fe	鉄	Kα	11.499(±0.282)	0.93	6.25- 6.55
47	Ag	銀	Kα	102.516(±0.715)	9.79	21.85-22.35
79	Au	金	Lα	923.891(±2.094)	89.29	9.53- 9.88

4. 考察

K－2号工房跡から出土した金属片は、金および銀によって構成された合金である。自然金には純金のものは少なく、銀を含んでいる場合が多いが、このような合金は近世では青金と呼ばれており、古代で用いられる金素材の主流と考えられている（村上,2003)。

現状では他の金製品や坩堝などの製作関連遺物の出土はないとのことであり、現段階では金属片の由来や制作技術について言及することは難しい。今後類例が確認された場合、電子顕微鏡による金属片表面の微細構造や金

属組織の観察によって有益な情報が得られる可能性がある。また、類例の蓄積には今後の発掘調査に期待するところが大きく、周辺での出土例も併せて検証していくことがのぞまれる。

引用文献

村上　隆 ,2003a, 金工技術 . 日本の美術 ,443, 至文堂 ,98p.

Tab. 3　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧→新	主な出土遺物	時期
	グリッド	東西	南北	壁現高								
H－1	X110、Y150	(2.13)	(0.93)	0.42	不明	N-108°　-E	東	不明	不明		土師器甕・椀、須恵器坏、羽釜類、瓦	10 C後～11 C
H－3	X99・100、Y150・151	2.75	(1.62)	0.25	不明	N-113°　-E	東	不明	不明	H－4→ H－12→	須恵器坏・椀、灰釉陶器椀、羽釜類、瓦	10 C
H－4	X100、Y150・151	(1.03)	(1.66)	0.08	不明	N-110°　-E	東	不明	不明	→H－3	須恵器椀	9 C後～10 C前
H－5	X99、Y150・151	2.31	(1.87)	0.36	不明	N-96°　-E (南辺)	不明	不明	不明	H－6→ →H－12		
H－6	X99、Y151	2.20	(1.58)	0.08	不明	N-98°　-E	東	不明	不明	→H－5		
H－7	X86・87、Y152・153	2.91	3.47	0.43	正方形	N-107°　-E	東	無	有		小型轆轤甕、土師器坏、須恵器坏・椀、灰釉陶器皿・椀	10 C前
H－8	X87、Y151・152	(2.20)	(2.86)	0.31	不明	N-82°　-E	南東角	不明	不明	E－1→	土師器坏、須恵器坏、瓦	
H－10	X90・91、Y150	(4.12)	(0.71)	0.20	不明	N-98°　-E	南東	不明	不明		羽釜類、土師器小皿、砥石	11 C
H－11	X81、Y150・151	(2.20)	(2.76)	0.25	不明	N-105°　-E	東	不明	不明		土師器甕・椀、須恵器椀・小皿・高台付皿・坏、羽釜類、灰釉陶器椀・瓶類、瓦、砥石	10 C後
H－12	X99・100、Y150・151	(1.35)	(1.54)	0.15	不明	N-97°　-E (南辺)	不明	不明	不明	→H－3 →H－5	須恵器坏	10 C
H－13	X80・81、Y149・150	(1.60)	(2.10)	0.21	不明	不明	東	不明	不明		須恵器坏・椀	10 C
H－14	X93・94、Y151・152	(3.53)	(3.30)	0.21	不明	N-101°　-E (北辺)	東	不明	不明	複数の土坑状の掘り込みに切られる	土師器坏・甕、羽釜類、須恵器坏・椀、灰釉陶器椀	9 C後～10 C前

Tab. 4　工房跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧→新	主な出土遺物	時期
	グリッド	東西	南北	壁現高								
K－1	X120・121、Y150・151	5.36	3.80	0.50	正方形	N-95°　-W	南西角	有	無		須恵器小皿・坏、瓦	11 C
K－2	X90・91、Y151・152	4.22	6.37	0.23	横長長方形	N-110°　-E	東 (南寄り)	有	有	→D－22	土師器甕、須恵器坏・椀・甕、瓦、金	10 C後

Tab. 5　道路状遺構一覧表

遺構名	位置	規模（m）			主軸方向	側溝	時期	備考
	グリッド	全長	全幅	深さ				
A－1	X112～114、Y150～153	(15.69)	0.85～1.34	0.38	N-37°　-E	無	As-C後、As-B前	波板状の凹凸、石敷きあり。
A－2	X116、Y150～153	(11.77)	0.68～1.30	0.31	N-175°　-E	無	As-C後、As-B前	

Tab. 6　周溝状遺構一覧表

遺構名	位置	規模（m）						平面形状	時期	備考
	グリッド	長軸	短軸	深さ	内（長）	内（短）	幅			
C－1	X124・125、Y150・151	(3.11)	(2.98)	0.11	2.10	1.90	0.70	円形	As-C後、As-B前	
C－2	X122・123、Y151・152	4.16	3.72	0.11	2.61	2.48	0.65	円形	As-C後、As-B前	

Tab. 7　溝跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			走行方向	主な出土遺物	時　期	備　考
	グリッド	検出長	上幅	深さ				
W－1	X108・109、Y150～153	(12.27)	(3.63～4.20)	1.64	N-12°　-E	常滑甕	As-B 以降	堀跡。現道に平行。馬骨出土。
W－2	X113・114、Y151～153	(10.87)	0.45～0.80	0.14	N-25°　-E	須恵器壺	As-C後、As-B前	断面形「U」字状。
W－3	X117・118、Y150～153	(12.06)	0.83～1.17	0.28	N-9°　-E		As-C後、As-B前	
W－4	X126・127、Y152・153	(3.65)	(1.14)	0.35	N-166°　-E		As-C後、As-B前	
W－5	X115、Y153	(1.67)	0.36	0.05	N-6°　-E		As-B 前	As-B が堆積する。
W－6	X85・86、Y150～153	(12.20)	0.59～1.01	0.86	N-4°　-E	玉縁付丸瓦	As-B 後	埋没過程で道路の可能性。
W－7	X80・81、Y149～155	(23.91)	2.78～4.02	2.04	N-174°　-E		As-B 以後	堀跡。小見Ⅲ・3区W－1と同一。
W－8	X93～95、Y150～153	(12.31)	0.88～3.30	0.26	南北に走行し、北で西に屈曲。	軟質陶器鉢、焼締陶器甕、古瀬戸椀、滑石製印版	14 C～15 C前	北東部で上端幅が狭い箇所あり。南北走行部は2条の重複。埋土は粘質土。
W－9	X104～106、Y150～153	(13.30)	0.93～1.22	0.25	N-27°　-E		As-B 後	馬骨出土。埋没過程で道路の可能性。

Tab. 8　井戸跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	時　期	備　考
	グリッド	全長	全幅	深さ			
I－1	X99・100、Y152	2.70	2.48	－	円形	As-B 後	砥石出土。
I－2	X100・101、Y151・152	1.65	1.50	－	円形	As-B 後	
I－3	X98、Y151	1.74	1.50	－	円形	As-B 後	軟質陶器鉢、使用痕のある石、礫出土。
I－4	X84・85、Y151	2.39	1.71	－	円形	8 C前	須恵器壺・甕、土師器甕出土。

Tab. 9　土壙墓一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	埋葬形態	主な出土遺物	時　期	備　考
	グリッド	長軸	短軸	深さ					
DB－1	X110、Y152	11.41	0.89	0.07	長方形	不明	永楽通宝6枚	中世	
DB－2	X109、Y150・151	1.50	(1.27)	0.47	正方形	北頭西顔側臥屈葬	永楽通宝3枚	中世	

Tab. 10　火葬跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	時　期	備　考
	グリッド	長軸	短軸	深さ				
DB－1火	X94、Y151	1.39	0.81	0.30	隅丸長方形、西壁に通風孔		中世	

Tab. 11　粘土採掘坑一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	時　期	備　考
	グリッド	横軸	短軸	深さ				
E－1	X83～88、Y150～152	19.41	(6.60)	0.70～1.60	不整形	土師器台付甕・坏・鉢、須恵器甕・蓋	8 C前～中	

Tab. 12　土坑一覧表

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	埋没土混入軽石	備考
	グリッド	横軸	短軸	深さ				
D－1	X110、Y152	11.9	11.2	0.46	円形		As-B	
D－2	X112、Y153	0.92	0.87	0.20	円形	須恵器大甕・蓋	As-B	
D－3	X112、Y151	0.76	0.72	0.18	円形		As-B	
D－4	X112、Y151	(0.93)	0.82	0.27	楕円形		As-B	
D－5	X113、Y151	0.80	0.60	0.08	円形		As-B	
D－6	X113、Y152	1.08	0.92	0.27	楕円形		As-B	
D－7	X113、Y152	0.95	0.86	0.36	円形		As-B	
D－8	X113、Y153	1.03	0.94	0.13	円形		As-B	
D－9	X115・116、Y150・151	2.23	(1.12)	0.22	隅丸長方形		As-C	
D－10	X120、Y153	1.00	(0.68)	0.18	不整形		As-C	
D－11	X124、Y150・151	2.29	0.91	0.14	隅丸長方形		As-B	
D－12	X99、Y151	1.18	0.67	0.10	隅丸長方形		As-B	
D－13	X88、Y151	1.14	1.06	0.15	楕円形		As-C	
D－14	X87、Y151	1.00	0.65	0.15	楕円形		As-C	E－1を切る。
D－15	X88、Y152	2.32	2.10	0.50	不整形		As-C	
D－16	X87、Y151	0.61	0.52	0.26	円形		As-C	E－1を切る。
D－17	X88、Y153	(1.35)	(0.35)	0.55	不明		As-C	
D－18	X89、Y151	2.18	1.58	0.37	隅丸方形		As-C	
D－19	X89、Y151	1.62	(0.91)	0.28	不明		As-C	
D－20	X89、Y151	0.88	0.78	0.52	円形		As-C	
D－21	X89、Y150・151	1.17	1.03	0.32	円形	土師器坏	As-C	
D－22	X90、Y152	1.12	0.90	0.26	円形		As-C	
D－23	X89、Y151	0.99	(0.96)	0.25	円形	須恵器壺	As-C	
D－24	X88・89、Y151・152	0.98	0.93	0.18	円形		As-C	
D－25	X89、Y152	0.70	0.61	0.06	楕円形		As-C	
D－26	X89、Y152・153	0.72	0.70	0.11	円形		As-C	
D－27	X89、Y153	1.64	1.13	0.53	不明		As-C	
D－28	X92、Y151	0.74	(0.52)	0.25	不明		As-B	
D－29	X92、Y152	0.93	0.93	0.17	円形		As-B	
D－30	X92、Y152	0.92	(0.42)	0.63	不明		As-B	
D－31	X92、Y152	0.53	0.42	0.05	楕円形		As-B	
D－32	X92、Y153	0.82	0.63	0.05	不整形		As-B	
D－33	X90、Y153	0.86	0.82	0.10	円形		As-C	
D－34	X82、Y150	0.69	(0.64)	0.64	不明		As-C	
D－35	X82、Y150・151	1.43	1.38	0.56	円形		As-C	
D－36	X91、Y152	(0.60)	0.52	0.10	円形		As-B	
D－37	欠番							
D－38	X98、Y151・152	(2.18)	0.82	0.07	隅丸長方形		As-B	
D－39	欠番							
D－40	X94、Y150・151	0.67	0.49	0.29	楕円形		軽石不明、粘質土	W－8内、As-B以降と想定。

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	埋没土 混入軽石	備　考
	グリッド	横軸	短軸	深さ				
D－41	X94、Y152	1.08	0.68	0.28	楕円形		As-B	
D－42	X94、 Y151・152	2.79	1.27	0.23	不整形		As-B	
D－43	X94、Y152	(1.25)	(0.43)	0.29	不明	須恵器椀、土師器甕	As-C	H－14を切る。
D－44	X94、Y152	0.81	0.51	0.28	不整形		As-C	H－14を切る。
D－45	欠　番							
D－46	X94、Y152	1.05	(0.96)	0.19	不整形		As-C	H－14を切る。
D－47	X94、Y152	(0.74)	0.64	0.24	不整形	土師器甕	As-C	H－14を切る。
D－48	X94、Y152	(0.70)	(0.33)	0.23	不整形	須恵器坏	As-C	H－14床下土坑か。
D－49	X94、Y152	(0.84)	0.66	0.26	不整形		As-C	H－14を切る。D－41に切られる。
D－50	X94、Y152	0.50	0.49	0.42	円形		As-C	H－14を切る。
D－51	X94、 Y151・152	(0.94)	－	0.22	不明		As-C	H－14を切る。D－42に切られる。
D－52	X94、Y152	(1.18)	(0.86)	0.27	不整形		As-C	H－14床下土坑か。D－41に切られる。
D－53	X94、Y152	0.78	(0.53)	0.41	不明	羽釜	As-C	H－14床下土坑か。
D－54	X89、Y151	0.84	(0.49)	0.19	不明		As-C	
D－55	X89、Y151	0.92	(0.44)	0.30	不明		As-C	
D－56	X95・96、 Y152・153	1.48	0.77	0.11	隅丸長方形		As-B	焼骨が微量出土。DB－1火葬跡と関連か。
D－57	X98、Y152	0.92	0.92	0.08	円形		As-C	
D－58	X95・96、 Y152・153	(3.54)	0.80	0.33	隅丸長方形		As-B	
D－59	X96、Y153	(2.29)	0.61	0.36	不明	灰釉陶器椀	As-B	
D－60	X94、 Y151・152	1.87	(0.55)	0.24	不明		As-C	H－14を切る。
D－61	X94、Y151	0.65	(0.48)	0.23	不明		As-C	H－14、D－60を切る。
D－62	X93・94、 Y151	1.10	0.85	0.23	不整形		As-B	H－14を切る。
D－63	欠　番							
D－64	欠　番							
D－65	欠　番							
D－66	X94、Y151	0.52	0.46	0.16	円形	台石	As-B	H－14を切る。
D－67	X99、Y152	1.21	0.65	0.11	隅丸長方形		As-B	
D－68	X98、 Y151・152	3.75	1.23	0.37	隅丸長方形		As-B	
D－69	X95、Y151	1.41	0.62	0.05	不整形		As-B	
D－70	X96、 Y152・153	(3.82)	(3.29)	0.49	不明	須恵器壺	As-B	長方形の土坑が繰り返し掘られたものとみられる。
D－71	X102、Y150	1.61	(0.67)	0.64	不明		As-C	
D－72	X97、Y151	1.22	0.92	0.12	不整円形		As-B	
D－73	X96、Y150	0.83	(0.68)	0.45	不明	須恵器坏	As-B	
D－74	X88、 Y150・151	0.80	0.70	0.17	円形		As-C	
D－75	X91、Y153	0.70	(0.29)	0.10	不明		As-C	
D－76	X94、Y153	1.16	(0.58)	0.12	不明		As-B	
D－77	X109、Y153	1.82	0.78	0.45	隅丸長方形		近代以降か	耕作土に似るしまりのない埋没土。

Tab. 13　ピット一覧表

遺構名	位　置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	埋没土 混入軽石
P－1	X96、Y150	30	30	12	円　形	As-C
P－2	X96、Y150	70	47	8	不整形	As-C
P－3	X96、Y150	22	17	10	円　形	As-C
P－4	X110、Y152	25	24	19	円　形	As-C
P－5	X110、Y153	38	32	9	円　形	As-C
P－6	X111、Y152	27	25	48	円　形	As-C
P－7	X112、Y152	24	20	11	円　形	As-C
P－8	X114、Y151	42	40	9	円　形	As-C
P－9	X121、Y152	39	38	33	円　形	As-C
P－10	X96、Y152	44	30	21	楕円形	As-B
P－11	X97、Y152	39	(20)	25	不　明	As-B
P－12	X96、Y152	45	37	21	円　形	As-B
P－13	X96、Y152	30	(23)	52	円　形	As-B
P－14	X96、Y152	35	(30)	19	円　形	As-B
P－15	X96、Y152	(30)	(27)	19	不整形	As-B
P－16	X96、Y153	23	(19)	8	不整形	As-B
P－17	X97、Y151	47	47	24	円　形	As-B
P－18	X123、Y151	46	41	50	円　形	As-C
P－19	X123、Y151	32	(22)	21	円　形	As-C
P－20	X123、Y151	54	43	39	楕円形	As-C
P－21	X96、Y152	(34)	30	27	不明	As-B
P－22	X98、Y151	38	37	24	円　形	As-B
P－23	X97、Y151	25	24	28	円　形	As-B
P－24	X97、Y151	36	33	24	円　形	As-B
P－25	X97、Y151	24	21	28	円　形	As-B
P－26	X97、Y151	29	28	15	円　形	As-B
P－27	X97、Y152	21	20	11	円　形	As-B
P－28	X97、Y152	23	23	13	円　形	As-B
P－29	X97、Y152	42	41	16	円　形	As-B
P－30	X98、Y152	38	34	32	円　形	As-B
P－31	X97、Y152	30	27	28	円　形	As-B
P－32	X97、Y152	24	23	14	円　形	As-B
P－33	X97、Y152	34	25	24	円　形	As-B
P－34	X97、Y153	32	31	12	円　形	As-B
P－35	X97、Y153	45	(27)	34	不　明	As-B
P－36	X97、Y153	29	24	27	円　形	As-B
P－37	X97、Y153	28	27	23	円　形	As-B
P－38	X96、Y153	45	40	30	円　形	As-B
P－39	X96、Y153	43	40	25	円　形	As-B
P－40	X97、Y153	33	26	15	円　形	As-B
P－41	X97、Y152	32	30	13	円　形	As-B
P－42	X97、Y152	64	29	15	楕円形	As-B
P－43	X97、Y152	35	28	25	円　形	As-B
P－44	X96、Y152	44	42	18	円　形	As-B
P－45	X97、Y152	31	29	16	円　形	As-B
P－46	X97、Y152	38	30	33	楕円形	As-B
P－47	X97、Y152	30	27	26	円　形	As-B
P－48	X97、Y151	21	21	27	円　形	As-B
P－49	X97、Y151	34	33	21	円　形	As-B
P－50	X96、Y152	22	21	29	円　形	As-B
P－51	X96、Y153	40	32	25	楕円形	As-B
P－52	X96、Y152	30	27	16	円　形	As-B
P－53	X96、Y152	35	29	16	円　形	As-B
P－54	X96、Y152	54	35	70	楕円形	As-B
P－55	X97、Y152	(28)	26	20	楕円形	As-B
P－56	X96、Y153	24	18	16	楕円形	As-B
P－57	X96、Y153	21	20	12	円　形	As-B
P－58	X95、Y153	25	25	23	円　形	As-B
P－59	X95、Y152	21	18	8	円　形	As-B
P－60	X95、Y152	28	26	10	円　形	As-B
P－61	X94、Y152	25	19	13	円　形	As-B
P－62	X94、Y152	22	19	13	円　形	As-B
P－63	X94、Y152	35	28	28	円　形	As-B
P－64	X99、Y151	23	21	26	円　形	As-B
P－65	X102、Y150	55	38	15	楕円形	As-B
P－66	X96、Y152	25	21	4	円　形	As-B
P－67	X97、Y153	22	(16)	6	不　明	As-B
P－68	X81、Y150	31	(27)	18	円　形	As-C
P－69	X81、Y150	65	43	21	楕円形	As-C
P－70	X121、Y152	45	40	31	円　形	As-C
P－71	X121、Y152	(37)	25	14	楕円形	As-C
P－72	X91、Y151	20	19	23	円　形	As-B
P－73	X122、Y152	33	30	30	円　形	As-B
P－74	X122、Y152	26	26	7	円　形	As-B
P－75	X123、Y151	37	25	8	楕円形	As-C
P－76	X124、Y151	57	36	15	楕円形	As-C
P－77	X125、Y151	60	43	12	楕円形	As-C
P－78	X95、Y152	23	19	10	円　形	As-B
P－79	X96、Y153	34	27	7	不整形	As-B
P－80	X104、Y151	69	46	40	楕円形	陶器鉢、As-B
P－81	X105、Y151	41	38	19	円　形	As-B
P－82	X89、Y151	21	19	21	円　形	As-B
P－83	X90、Y151	26	25	18	円　形	As-B
P－84	X90、Y151	27	23	15	円　形	As-B
P－85	X90、Y151	24	22	49	円　形	As-B
P－86	X90、Y151	15	15	6	円　形	As-C
P－87	X90、Y151	20	17	8	円　形	As-C
P－88	X90、Y152	37	36	3	円　形	As-C
P－89	X90、Y153	28	26	18	円　形	As-B
P－90	X91、Y153	(29)	17	13	不　明	As-B
P－91	X91、Y153	23	22	23	円　形	As-B
P－92	X91、Y152	25	20	10	楕円形	As-B
P－93	X92、Y152	21	20	5	円　形	As-C
P－94	X91、Y151	20	20	17	円　形	As-B
P－95	X91、Y152	26	(19)	11	不　明	As-B
P－96	X96、Y152	31	29	16	円形	As-B
P－97	X94、Y151	33	31	32	円形	As-B
P－98	X96、Y153	27	22	11	円形	As-B
P－99	X99、Y151	27	22	11	円形	As-B

Tab. 14　畝状遺構一覧表

遺構名	位置 グリッド	規模（m） 検出長	上幅	深さ	溝間寸法	走行方向	時期	備考
L－1	X109、Y152	3.41	0.27～0.35	0.15	－	N-5°　-E	As-C 後	
L－2 A	X111・112、Y151・152	3.74	1.80～3.80	0.05	A 1.08 B 1.63 C	N-1°　-E	As-C 後	
L－2 B		3.89	0.31	0.04		N-2°　-E	As-C 後	
L－2 C		4.28	0.23～0.41	0.03		N-1°　-E	As-C 後	
L－3 A	X102・103、Y151～153	4.12	0.19～0.32	0.03	A・B 0.77 C	N-2°　-E	As-C 後	
L－3 B		5.26	0.25～0.40	0.08		N-27°　-E	As-C 後	
L－3 C		(7.89)	0.23～0.47	0.09		N-30°　-E	As-C 後	
L－4 A	X91・92、Y152・153	3.51	0.11～0.24	0.09	－	N-96°　-E	As-C 後	
L－4 B		(2.22)	0.10～0.23	0.06		N-51°　-E	As-C 後	
L－5 A	X88・89、Y153	(2.86)	0.25	0.08	A 1.00 B 1.05 C	N-43°　-E	As-C 後	
L－5 B		(3.20)	0.18～0.38	0.06		N-40°　-E	As-C 後	
L－5 C		(1.84)	0.21～0.30	0.07		N-39°　-E	As-C 後	

Tab. 15　遺物観察表

番号	遺構番号 出土位置	器　種 種　別	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　徴	備　考
1	H－1 床	甕 土師器	①(22.4)，②－，③－	①石英多・白色粒多・黒色鉱物②良好③橙色④口縁～胴部 1/4	口縁部：外面横撫で。胴部：内外面篦削り。	
2	H－1 竈	羽釜類	①(24.4)，②－，③－	①白色粒・半透明粒②良好③灰黄褐色④－	轆轤整形。口縁部：短く内傾、轆轤撫で。鍔部器最大径。胴部：上位胴部最大径、轆轤撫で。	わずかに遺存。
3	H－1 竈	椀 土師器	①(14.4)，②6.8，③(8.5)	①石英・白色粒・チャート・赤褐色粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	非轆轤。口縁部：外面横撫で、内面篦削り。体部：内外面篦削り。高台部：外傾、横撫で。高台貼り付け。底部：内面篦削り。	
4	H－1 竈、床、埋	坏 須恵器	①9.8，②2.4，③5.3	①白色粒・黒色粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	轆轤整形。底部：回転糸切り、右回転。	
5	H－1 竈	平瓦	長：－，幅：－，厚さ：2.2	①－②良好③にぶい黄橙色④7/8		
6	H－1 床	軒丸瓦	長：－，幅；－，厚さ：2.1	①－②－③－④－	単弁８葉連華文	
7	H－3 P1、竈、床	羽釜類	①(18.2)，②－，③－	①小礫・半透明鉱物粗粒②良好③灰色④2/3	轆轤整形。右回転。口縁部：内傾、横撫で。鍔部器最大径、断面三角形。胴部：内面撫で。	
8	H－3 床	坏 須恵器	①12.5，②5.0，③4.5	①石英・角閃石・微砂粒②良好③灰色④完形	轆轤整形。底部：回転糸切り。右回転。	
9	H－3 床	坏 須恵器	①12.5，②4.0，③5.6	①白色粒・半透明鉱物粒②良好③褐灰色・にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。右回転。内面いぶし焼成。	
10	H－3 埋	椀 須恵器	①(14.3)，②5.4，③6.5	①白色粒多・黒色粒②良好③暗灰色④口縁～底部 1/4	轆轤整形。右回転。内面いぶし焼成。高台部：外傾。	
11	H－3 竈	椀 須恵器	①(13.5)，②5.3，③7.0	①黒色粒・半透明鉱物粒・白色粒②良好③灰色④口縁～底部 1/4	轆轤整形。右回転。高台部：外傾。	
12	H－3 床	椀 須恵器	①(14.0)，②(5.6)，③(5.8)	①石英・チャート・白色微粒②良好③にぶい黄橙色④口縁～底部 1/8	轆轤整形。	内面に煤付着。
13	H－3 P2、床	椀 須恵器	①－，②－，③6.9	①黒色微粒②良好③黄灰色④体部～底部	轆轤整形。右回転。高台部：短く外傾。	
14	H－3 床	椀 灰釉陶器	①－，②－，③7.0	①緻密・黒色小斑②良好③灰白色④底部片	高台部：外傾。	
15	H－3 床	平瓦	長：(13.0)，幅：(8.4)，厚さ：2.8	①白色粒・小気泡②良好③灰赤色④－	篦描きあり。	
16	H－3 床	丸瓦	長：(15.7)，幅：(13.5)，厚さ：1.5～1.8	①白色微粒多・黒色微粒②良好③にぶい橙色④－	内面：布目痕。外面：撫で。	
17	H－4 埋	椀 須恵器	①－，②－，③6.4	①石英・白色粒・黒色微粒②良好③灰白色④体部～底部	轆轤整形。高台部：短く外傾。底部：轆轤右回転。	内面に煤付着。
18	H－7 床、埋	小型 轆轤甕	①12.5，②－，③－	①黒色粒・白色微粒②良好③灰色④口縁～体部片	轆轤整形。	
19	H－7 床	坏 土師器	①(18.0)，②－，③－	①角輝石・黒色粒・白色粒・石英②良好③にぶい褐色④口縁～体部	轆轤整形。	
20	H－7 床	坏 須恵器	①(14.5)，②4.5，③5.5	①粗粒・石英・白色粒・赤褐色粒②良好③にぶい橙色④3/5	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から外反気味の口縁部に至る。底部：回転糸切り。	
21	H－7 床	坏 須恵器	①(14.4)，②5.2，③(7.0)	①白色粒・黒色粒②良好③浅黄色④1/2	轆轤整形。右回転。底部：回転糸切り。	
22	H－7 床、埋	椀 須恵器	①13.0，②5.7，③6.5	①白色粒・石英②良好③灰白色④完形	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部至る。底部：回転糸切り後高台貼付け。高台部：短く外傾。	
23	H－7 床	椀 須恵器	①－，②－，③6.0	①粗粒・白色粒・黒色粒②良好③灰オリーブ色④1/3	轆轤整形。右回転。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	
24	H－7 床	高台皿 灰釉陶器	①－，②－，③6.1	①緻密②良好③－④体部～底部 3/5	底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	漬けがけ。
25	H－7 床、埋	椀 灰釉陶器	①(15.0)，②－，③－	①緻密②良好③灰色④口縁部片	轆轤整形。	
26	H－8 埋	坏 土師器	①(12.7)，②3.3，③－	①白色粒・黒色粒②良好③橙色④1/4	口縁～体部：外面横撫で。底部：丸底、外面篦削り。	
27	H－8 埋	坏 須恵器	①(9.7)，②3.9，③(6.7)	①黒色微粒②良好③灰色④2/5	轆轤整形。右回転。底部：内面篦調整。	
28	H－8 竈袖材	平瓦	長：40.0，幅：26.3，厚さ：1.2～1.5	①白色粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	桶巻き作り。凸面：横位撫で整形。凹面：寄木痕、布目擦り消し。側部：面取り３回。端部：面取り３回。	

番号	遺構番号 出土位置	器　種 種　別	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　徴	備　考
29	H－8 竈袖材	平瓦	長：37.6，幅：26.8，厚さ：1.2～2.0	①白色粒②良好③灰色④ほぼ完形	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面：格子叩き。側部：面取り２回。端部：面取り２回。	
30	H－10 竈	羽釜類	①（25.6），②－，③－	①白色粒②良好③灰黄褐色④－	口縁部：内面横撫で。鍔部に器最大径。胴部：内面篦撫で。	
31	H－10 床	小皿 土師器	①9.4，②1.7，③6.4	①白色粒・黒色粒②良好③褐灰色④2/3	轆轤整形。右回転。縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り。	
32	H－10 床	小皿 須恵器	①9.2，②2.0，③5.0	①白色粗粒・黒色粗粒②良好③にぶい褐色④完形	轆轤整形。右回転。底部：回転糸切り。酸化焔焼成。	
33	H－10 床	小皿 須恵器	①9.2，②1.9，③6.2	①白色粒・黒色粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：外反。底部：左回転糸切り。	
34	H－10 床	砥石	長：8.9，幅：4.7，厚さ：2.8，重さ：210，石材：凝灰岩			
35	H－11 竈	甕 土師器	①（24.4），②－，③－	①白色粒・赤褐色粒・黒色粒・砂粒のぬけた穴多②良好③橙色④口縁部～胴部1/2	口縁部：外反。胴部：外面篦削り。内面篦撫で。	
36	H－11 竪穴外	甕 土師器	①（19.0），②－，③－	①白色粒・黒色粒・チャート②良好③橙色④口縁部～胴部1/2弱	紐作り。口縁部：外反。胴部：内面篦撫で。	
37	H－11 竈、竪穴外	甕 土師器	①（26.2），②－，③－	①白色粒・黒色粒・粗砂 ②良好③灰色④口縁部～胴部1/4	口縁部：横撫で。胴部：内面篦削り。	
38	H－11 床	羽釜類	①（26.0），②－，③－	①粗粒・チャート・小礫②良好③橙色④口縁～胴部1/4	轆轤整形。口縁部：弱い内傾。鍔部に器最大径。口唇部平坦で水平。胴部：上半胴部最大径。中位縦篦削り。下半欠損。底部：欠損。	
39	H－11 埋	羽釜類	①（21.6），②－，③－	①白色粒②良好③にぶい黄褐色・褐灰色④口縁～胴部1/4	轆轤整形。口縁部：内湾。鍔部に器最大径。胴部：上半胴部最大径。下半欠損。底部：欠損。	
40	H－11 竪穴外	羽釜類	①（21.2），②－，③－	①白色粒・黒色粒②良好③浅黄色④口縁～胴部1/2	紐作り後轆轤調整。口縁部：内傾。鍔部に最器大径。胴部：上半胴部最大径。下半欠損。底部：欠損。	内外面に煤付着。
41	H－11 埋	羽釜類	①（20.1），②－，③－	①粗砂・チャート・白色粒②良好③橙色④口縁～胴部1/2	口縁部：内傾。鍔部に器最大径。胴部：上半胴部最大径。下半欠損。外面篦削り。底部：欠損。	
42	H－11 埋	羽釜類	①（19.6），②－，③－	①－②良好③橙色④口縁～胴部1/4	轆轤整形。口縁部：弱い内傾。鍔部に器最大径。胴部：上半胴部最大径。下半一部篦削り。底部：欠損。	
43	H－11 床、埋	羽釜類	①（21.7），②－，③－	①チャート・黒色粒多量②良好③－④口縁～胴部	口縁部：内傾。鍔部に器最大径。鍔部下部に指圧痕有り。胴部：外内面篦撫で。下半欠損。底部：欠損。	破損後被熱。
44	H－11 埋	羽釜類	①（24.6），②－，③－	①白色粒・黒色粒②良好③明赤褐色④口縁～胴部1/6	轆轤整形。口縁部：直立。鍔部に器最大径。胴部：上半胴部最大径。下半欠損。底部：欠損。	
45	H－11 埋	羽釜類	①（21.7），②－，③－	①白色粒・雲母②良好③にぶい橙色④口縁～胴部	轆轤整形。口縁部：内傾。鍔部に器最大径。胴部：上半胴部最大径。下半欠損。底部：欠損。	
46	H－11 竪穴外	羽釜類	①（24.0），②－，③－	①細粒・白色粒・チャート②良好③橙色④口縁～胴部片	紐作り後轆轤整形。口辺部：上半外反、下半内傾。鍔部に器最大径。内面横撫で。　胴部：内面篦撫で。底部：欠損。	
47	H－11 床	椀 須恵器	①14.7，②7.0，③8.0	①砂粒・黒色粒・白色粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。左回転。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外傾。	
48	H－11 床	椀 須恵器	①14.0，②6.2，③8.7	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外反気味の口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く、大きく開く。	
49	H－11 床、埋	椀 土師器	①（12.0），②4.8，③6.2	①細粒・チャート・黒色粒・石英②良好③にぶい黄橙色④ほぼ1/2	轆轤整形。口縁部：直立気味に立ち上がり端部外反。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	
50	H－11 床	小皿 須恵器	①（10.4），②3.0，③（6.4）	①黒色粒・白色粒・石英②良好③灰黄褐色④1/2	轆轤整形。右回転。底部：荒い篦削り。内外面に被熱痕？	外面に煤付着。
51	H－11 床	坏 須恵器	①（10.1），②3.3，③4.9	①赤褐色粒・黒色粒②良好③橙色④1/2	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から外反気味の口縁部に至る。底部：回転糸切り。	
52	H－11 竈	高台付皿 須恵器	①（11.6），②2.6，③6.6	①－②良好③にぶい黄橙色④口縁～底部1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反する口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	

番号	遺構番号 出土位置	器　種 種　別	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　徴	備　考
53	H－11 埋	瓶類 灰釉陶器	①－，②－，③－	①緻密②良好③灰白色④小片	口縁部：欠損。底部：欠損。	漬けがけ？
54	H－11 竪穴外	椀 灰釉陶器	①（15.4），②5.9，③（8.0）	①白色粒・黒色粒②良好③灰白色・明緑灰色④1/2	焼き。口縁部：外反。高台部：短く直立。	漬けがけ。やや三日月高台。
55	H－11 床	丸瓦	長：17.6，幅：12.7，厚さ：2.1	①白色微粒②良好③灰黄褐色・にぶい黄褐色④－	内面：布目痕。	
56	H－11 床	砥石	長：10.0，幅：7.1，厚さ：4.3，重さ：247.12，石材：多孔質安山岩			
57	H－12 床	坏 須恵器	①（13.0），②－，③－	①白色粒・半透明鉱物粒②良好③褐色④口縁～体部	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反の口縁部に至る。	
58	H－13 床	坏 須恵器	①（11.6），②3.6，③（6.0）	①白色粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から短く外反した口縁部に至る。底部:回転糸切り。	
59	H－13 床	椀 須恵器	①－，②－，③（6.8）	①－②良好③灰白色④底部1/2	轆轤整形。高台部：短く外傾。	
60	H－14 （D－47）	甕 土師器	①（16.2），②－，③－	①微砂②良好③にぶい橙色④口縁～胴部片	口縁部：直立から外反、横撫で。胴部：内面篦撫で。外面篦削り。	
61	H－14 （D－43）	甕 土師器	①（10.8），②－，③－	①微砂②良好③にぶい赤褐色④口縁～体部片	口縁部：端部に沈線が巡る。胴部：内面横撫で。外面篦削り。	
62	H－14 （D－53）	羽釜類	①（19.8），②－，③－	①黒色粒・チャート②良好③にぶい黄色④口縁～胴部片	轆轤整形。口縁部：弱い内傾。鍔部に器最大径。口唇部平坦で水平。	内面に煤付着。
63	H－14 （D－48）	坏 須恵器	①12.6，②4.1，③（5.2）	①黒色微粒・白色微粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部:	内外面に煤付着。
64	H－14 床	坏 土師器	①（12.2），②－，③（6.8）	①赤褐色粒・黒色微粒・石英②良好③橙色④口縁～底部1/3	轆轤整形（右回転？）　口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。外面篦削り。底部：篦削り。	
65	H－14 床	坏 須恵器	①（12.4），②3.3，③（5.4）	①微砂・赤褐色粒②良好③浅黄橙色④1/2	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り。	
66	H－14 （D－43）	椀 須恵器	①－，②－，③（5.8）	①黒色粒・白色粒②良好③黒色④体部～底部	轆轤整形。右回転。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	
67	H－14 床	椀 須恵器	①（13.3），②－，③（6.0）	①白色粒・半透明鉱物粒②良好③灰黄色・にぶい黄橙色④口縁～底部片	轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り。	
68	H－14 床	椀 灰釉陶器	①（15.8），②－，③－	①緻密②良好③灰白色④－	口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。	
69	K－1 竈	小皿 須恵器	①9.3，②2.0，③5.0	①白色粒・黒色粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。底部：右回転糸切り。	内面に煤付着。
70	K－1 埋	坏 須恵器	①－，②－，③7.0	①赤褐色粒・黒色粒②良好③にぶい黄橙色④底部片	底部：回転糸切り。	
71	K－1 竈	丸瓦	長：－，幅：－，厚さ：1.6	①白色粒多量・黒色粒多量②良好③灰色④小片		
72	K－2 床	甕 須恵器	①（16.0），②－，③－	①白色粒・黒色微粒②良好③灰色④口縁部1/8	口縁・頸部：やや外傾した頸部から稜を持った口縁部に至る。胴部：欠損。底部：欠損。	
73	K－2 床、埋	甕 土師器	①（18.6），②－，③－	①白色粒・黒色粒・微粒②良好③にぶい橙色④口縁～体部片	口辺部:外面横撫で。下半内傾、崩れたコの字口縁。胴部：外面撫で後篦削り。内面篦撫で。	
74	K－2 床、埋	甕 土師器	①（17.0），②－，③－	①白色粒・石英②良好③にぶい橙色④口縁～胴部1/3	口縁部：端部に沈線が巡る。口辺部：下半内傾、崩れたコの字口縁。外面横撫で。胴部：外面篦削り。内面撫で。	
75	K－2 床	甕 土師器	①（18.4），②（25.5），③（8.90）	①長石・チャート②良好③明黄褐色④口縁・胴部・底部小片	轆轤整形後胴部中位から下半を手持ち篦削り調整。被熱痕。	被熱により変異。
76	K－2 床	坏 須恵器	①（13.6），②4.5，③5.8	①微粒・黒色粒・白色粒②良好③オリーブ黒色④口縁～底部1/3	轆轤整形。右回転。口縁～体部：外傾いた体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り。	高台付き？焼成後、体部下部、底部中央に孔が打たれる。
77	K－2 床	坏 須恵器	①（12.6），②（3.9），③－	①微粒・黒色粒・白色粒・石英②良好③灰オリーブ色④口縁～底部1/5	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾した体部から口縁部内に至る。底部：回転糸切り。	
78	K－2 P1	椀 須恵器	①13.8，②4.8，③5.7	①微粒・白色粒・黒色粒②良好③褐灰色④完形	轆轤整形。右回転。口縁・体部：外傾下体部から外反した口縁部に至る。底部：回転糸切り。高台部：短く直立。	
79	K－2 P4、竈	平瓦	長：（18.3），幅：（19.2），厚さ：2.0	①－②良好③灰色・淡橙色④－	桶巻き作り。凸面：撫で整形後斜格子叩き整形。凹面：布目擦り消し。側部：面取り1回。	

番号	遺構番号 出土位置	器　種 種　別	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　徴	備　考
80	K－2	平瓦	長：(15.3)，幅：(13.4)，厚さ：1.7	①－②良好③灰色④－	内面：布目痕。	
81	K－2 A	金片	8×5㎜		炭溜まり。	
82	K－2 P2	金粒	径3.0㎜			
83	K－2 P2	金粒	径1.2㎜			
84	W－1 埋	常滑甕	①31.8，②－，③－	①中粒②酸化・良好③にぶい赤褐色④口縁部片	口縁部：直立。内外面施釉。	
85	W－2 埋	壺 須恵器	①－，②－，③－	①白色粒多量・赤褐色粒②良好③褐灰色④小片	4条の波状文。	
86	W－6 埋	玉縁付 丸瓦	長：(15.5)，幅：10.6，厚さ：2.8	①白色粒・小礫・石英②良好③灰色④－	紐作り。内面：布目痕。	
87	W－8 埋	鉢 軟質陶器	①(29.0)，②－，③－	①白色粒・黒色粒②良好③橙色④口縁部		93(Ⅰ－3)と同一個体か
88	W－8 埋	鉢 軟質陶器	①(27.4)，②－，③－	①－②良好③灰白色④口縁部		
89	W－8 埋	甕 焼締陶器	①－，②－，③－	①緻密②良好③オリーブ黒色・褐灰色④小片	外面：押印有り。自然釉。	
90	W－8 埋	古瀬戸椀	①－，②－，③－	①緻密②良好③灰白色・灰オリーブ色④体部片	施釉。内面：刷毛塗り。外面：漬けがけ。	
91	W－8 埋	印版 滑石製品	長：10.0，幅：7.1，厚さ：4.3，重さ：247.12，石材：滑石		印版4面に陽刻。根付松・連続飛鳥文・菱形文・銀杏葉文。穿孔あり。	
92	Ⅰ－1 上層	砥石	長：6.7，幅：3.7，厚さ：3.4，重さ：151.92，石材：凝灰岩		被熱痕有り。	
93	Ⅰ－3 埋	鉢 軟質陶器	①－，②－，③(10.0)	①細粒②良好③灰黄褐色④1/1		87(W－8)と同一個体か
94	Ⅰ－3 埋	鉢 軟質陶器	①(29.0)，②－，③－	①赤褐色粒・白色粒・黒色粒②良好③橙色④口縁部	側面に使用痕あり。	
95	Ⅰ－3 埋	使用痕の ある石	長：15.3，幅：6.5，厚さ：4.1，重さ：680，石材：安山岩		両側面に敲打よる抉り有り。平坦面が使用に伴い磨滅する。	
96	Ⅰ－3 埋	使用痕の ある石	長：12.8，幅：9.4，厚さ：4.1，重さ：540，石材：黒色頁岩		口縁部：外反、横撫で。体部：外面篦撫で。底部篦削り。	
97	Ⅰ－4 下層	壺 須恵器	①(14.4)，②18.2，③－	①白色粒②良好③灰色④口縁部1/4・体部～底部完形	紐作り轆轤整形。口縁部：外反。体部：中位器最大径。篦撫で。	
98	Ⅰ－4 下層	甕 須恵器	①(19.5)，②－，③－	①－②良好③灰色④口縁～胴部		
99	Ⅰ－4 下層	甕 土師器	①14.2，②15.5，③－	①粗粒・白色粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾。胴部：中位器最大径。外面篦削り。	
100－A	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.35，遺存度完形		永楽通宝。	
100－B	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.47，遺存度完形		永楽通宝。	
100－C	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.35，遺存度完形		永楽通宝。	
101－A	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.22，遺存度完形		永楽通宝。	
101－B	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ2.71，遺存度完形		永楽通宝。	
101－C	DB－1	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.41，遺存度完形		永楽通宝。	
102	DB－2	銅銭	径2.4，孔径0.6，重さ3.39，遺存度完形		永楽通宝。	
103－A	DB－2	銅銭	径2.5，孔径0.6，重さ2.96，遺存度完形		永楽通宝。	
103－B	DB－2	銅銭	径2.5，孔径0.6，重さ2.97，遺存度完形		永楽通宝。	
104	E－1 埋	台付甕 土師器	①(14.9)，②(14.9)，③－	①赤褐色粒・半透明鉱物粒②良好③にぶい赤褐色④口縁～底部1/3	内面：口縁～胴部上半横撫で、胴部中部～下半篦撫で。外面：胴部中部～下半篦削り。	
105	E－1 埋	甕 須恵器	①－，②－，③－	①白色粒②良好③灰色④口縁部片	口縁部：2条の沈線。口辺部及び下方に櫛描き波状文。	
106	E－1 埋	甕 須恵器	①－，②－，③－	①白色粒・白色斑・半透明鉱物粒・小気泡②良好③暗灰色④頸部？	頸部：櫛描き波状文。横位沈線。	
107	E－1 埋	坏 土師器	①21.0，②9.0，③－	①黒色微粒・白色微粒②良好③橙色④完形	口縁部：内外面横撫で。体部：内面撫で、外面篦削り。	

番号	遺構番号 出土位置	器　種 種　別	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特　徴	備　考
108	E－1 埋	坏 土師器	①(17.6)，②4.5，③－	①黒色微粒・白色微粒②良好③にぶい橙色④口縁～底部1/4	口縁部：外反、内外面横撫で。体部：外面篦削り、内面撫で。	
109	E－1 埋	坏 土師器	①12.1，②3.3，③－	①黒色粒・白色粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く内彎、横撫で。体部：外面篦削り。底部：丸底。	
110	E－1 埋	坏 土師器	①(12.8)，②3.9，③－	①赤褐色粒・黒色粒・角閃石②良好③橙色④2/3	口縁部：外傾、横撫で。交換点に稜有り。体部：外面篦削り。	
111	E－1 埋	坏 土師器	①(13.4)，②－，③－	①白色粒・微砂②良好③灰黄褐色④口縁～体部	口縁部：外反。交換点に稜有り。体部：外面篦削り。	外面に煤付着。
112	E－1 埋	坏 土師器	①(12.4)，②－，③－	①黒色微粒・白色微粒・赤褐色粒・半透明鉱物粒②良好③橙色④－	口縁部：やや内傾。体部：外面篦削り。	
113	E－1 埋	蓋 須恵器	①(18.2)，②3.2，③(8.2)	①球状の黒色粒②良好③橙色④1/3	轆轤整形。天井部：平坦な天井部中央に低いつまみが付く。口縁部：緩やかに湾曲し、口縁端部内側に短いかえしを持つ。外面轆轤撫で。	
114	D－2 底	大甕 須恵器	①－，②－，③－	①－②良好③にぶい褐色・にぶい黄橙色④胴部片	内面：当て具痕？車輪状、リング状。外面：平行叩き。	
115	D－2 底	蓋 須恵器	①(15.6)，②－，③－	①黒色粒・白色粒②良好③灰色④－	口縁部：端部短いかえしを持つ。つまみ部欠損。	
116	D－21 床	坏 土師器	①11.5，②3.8，③－	①黒色粒・白色粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾。外面横撫で。交換点に稜有り。底部：浅い底部外面篦削り。	
117	D－23 埋	壺 須恵器	①－，②－，③－	①黒色粒・白色粒②良好③灰色④胴部片	外面：櫛描き波状文。	
118	D－66 埋	台石	長：28.0，幅：27.0，厚さ：7.6，重さ：8620，石材：輝石安山岩			
119	D－73 埋	坏 須恵器	①(15.8)，②－，③－	①黒色粒・白色粒②良好③黄灰色④口縁～体部片	轆轤目顕著。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。	
120	D－70 埋	壺 須恵器	①(12.8)，②－，③－	①黒色粒・白色粒②良好③灰白色④口縁部片	内面削り痕有り？自然釉？	
121	D－59 埋	椀 灰釉陶器	①(15.7)，②4.5，③6.6	①緻密②－③－④口縁～底部片1/5	口縁・体部：やや内彎した体部から外反した口縁部に至る。高台部：付け高台。	刷毛塗り。三日月高台。
122	P－80	鉢 陶器	①－，②－，③(11.4)	①緻密②良好③橙色・にぶい黄橙色④体部～底部片	回転篦調整。内面自然釉。	
123	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①粗粒②良好③明赤褐色④胴部片	無節。	
124	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①白色粒②良好③明黄褐色④胴部片	地文単節LR。	
125	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①白色粒・黒色粒②良好③橙色④－	地文単節LR。	
126	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①粗粒・赤褐色粒②良好③にぶい赤褐色④－	横位の角押文列。	中期中葉。(勝坂Ⅰ)
127	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①黒色粒・小気泡②良好③にぶい黄橙色④－	地文が単節ＬＲを施し、縦位沈線により区画し刷り消しを施す。	中期後葉。
128	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①白色粒・黒色粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部片	逆「U」字状の隆帯。	中期後葉。
129	遺構外	縄文深鉢	①－，②－，③－	①白色粒・黒色粒・半透明鉱物粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部片	口縁部に小突起。隆帯に１条の沈線が巡る。頸部は無文。胴部が沈線よる工字文。内面上位に沈線。内外面ともにみがき。	晩期大洞Ａ併行。
130	遺構外	打製石斧	長：16.1，幅：8.9，厚さ：3.0，重さ：480，石材：頁岩		撥形。両縁側がら刃部にかけて細かい調整。一部欠損。表面に自然面を残す。	
131	遺構外	打製石斧	長：9.5，幅：4.8，厚さ：2.5，重さ：159.46，石材：頁岩		短冊形。両縁側がら刃部にかけて細かい調整。一部欠損。表面自然面。	
132	遺構外	石鏃	長：3.2，幅：2.4，厚さ：0.4，重さ：2.71，石材：頁岩		凹黄無茎鏃。	
133	遺構外	石鏃	長：2.3，幅：2.1，厚さ：0.3，重さ：0.98，石材：黒曜石		凹黄無茎鏃。	
134	遺構外	平瓦	長：－，幅：－，厚さ：1.7	①白色粒・黒色粒・石英②良好③灰色④小片	凹面：布目痕。	
135	遺構外	壺 須恵器	①(13.3)，②－，③－	①白色粒②良好③灰色④－		

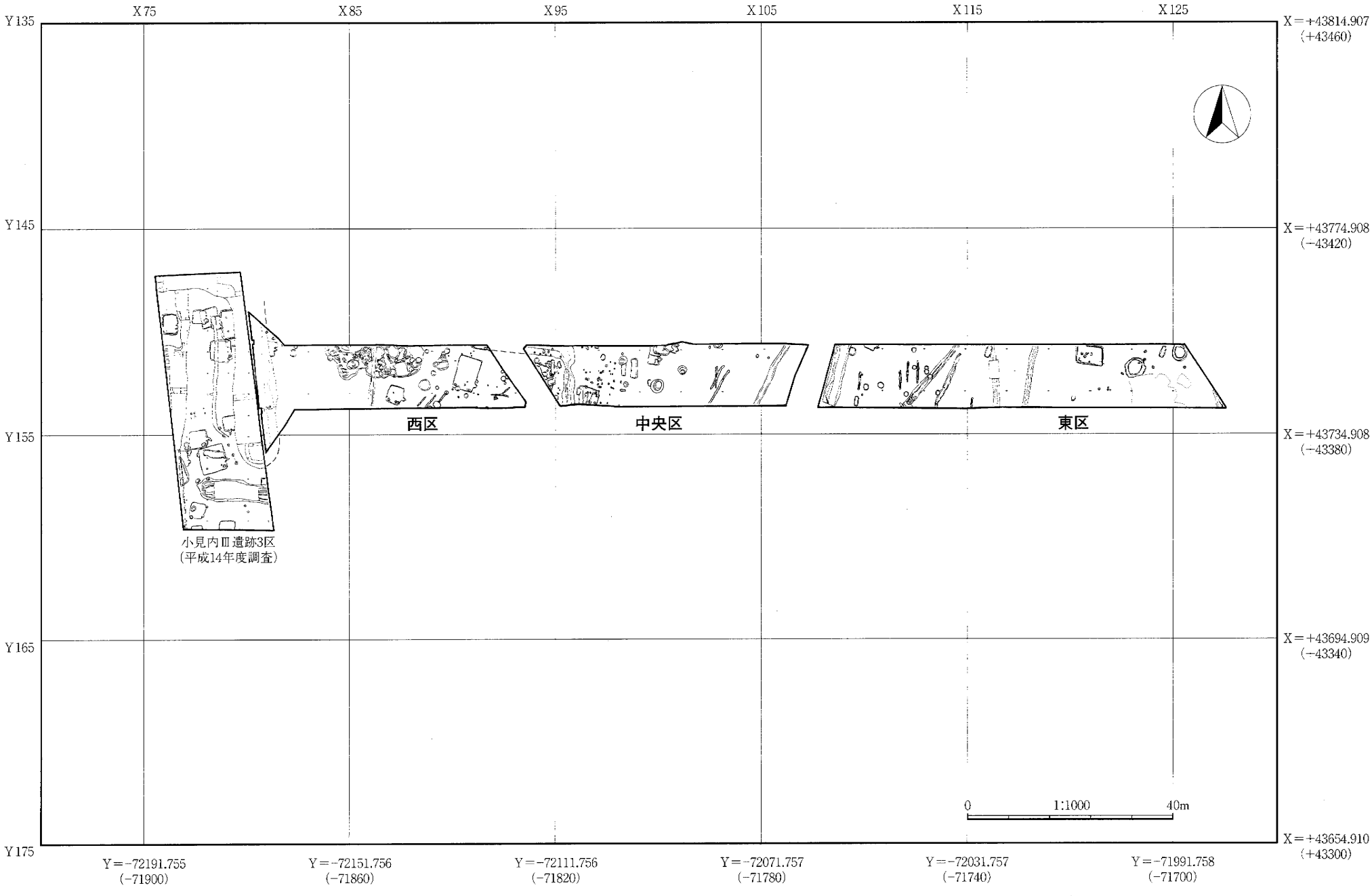


Fig.5　元総社小見内X遺跡全体図(1:1,000)(※TKY2JGD変換ソフトTokyo　DatumからJGD2000へ関東PAR第Ⅸ系)

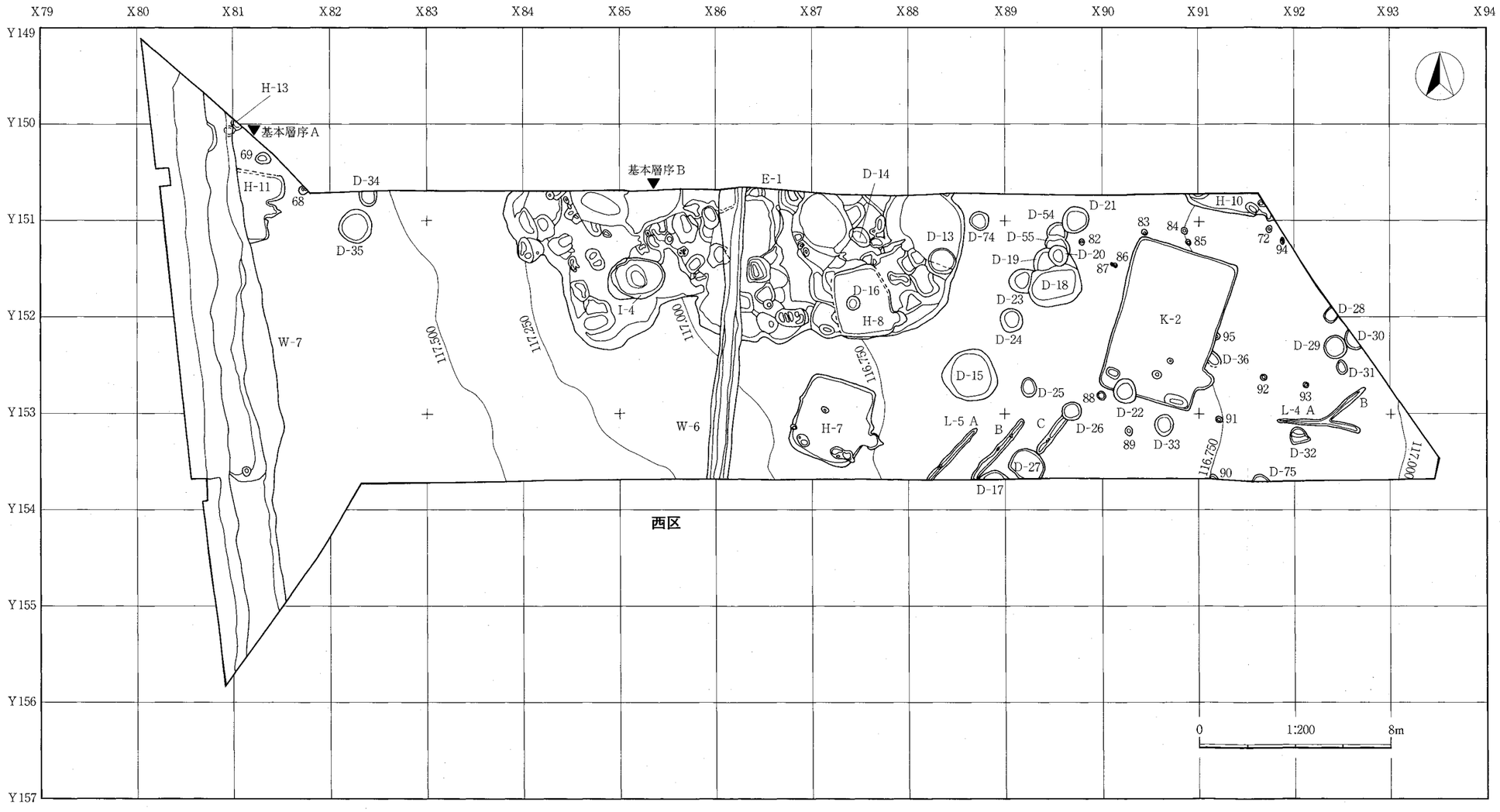
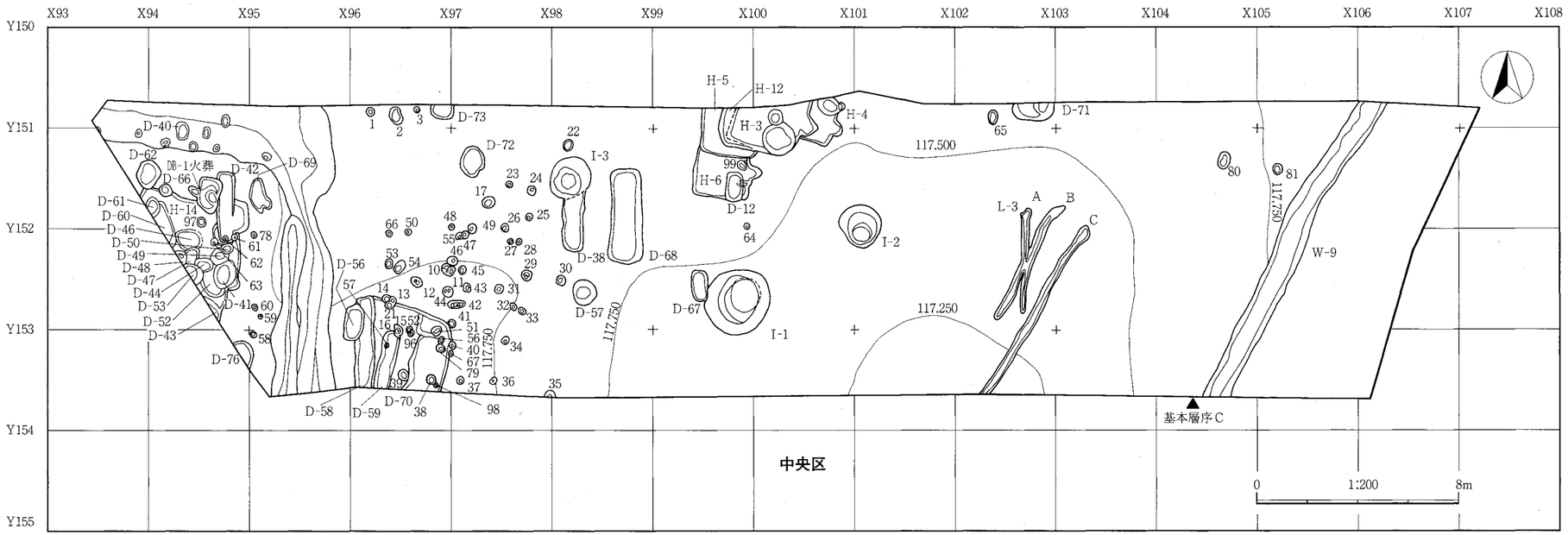


Fig.6　元総社小見内X遺跡西区全体図（1:200）（※ピットはP—を省略。数字だけの記入）



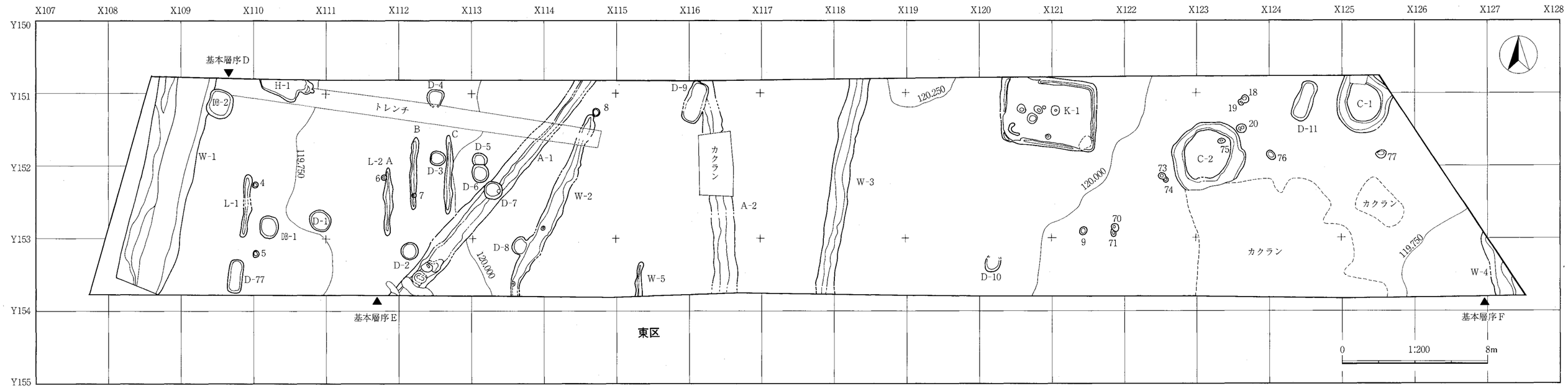
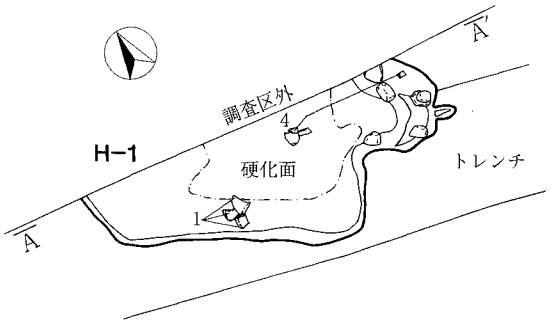
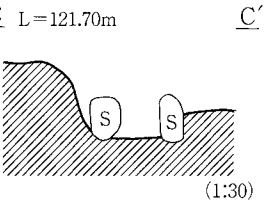
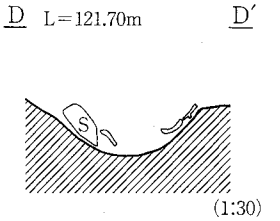
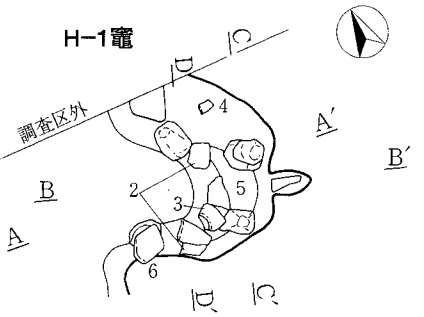


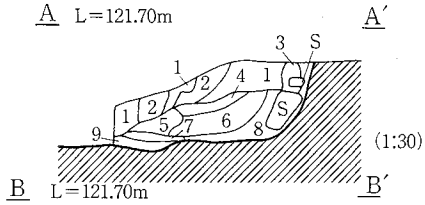
Fig.7　元総社小見内X遺跡 中央区・東区全体図（1:200）（※ピットはP―を省略。数字だけの記入）

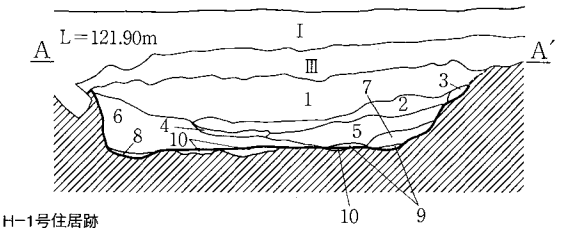






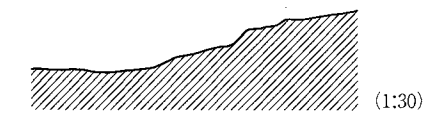






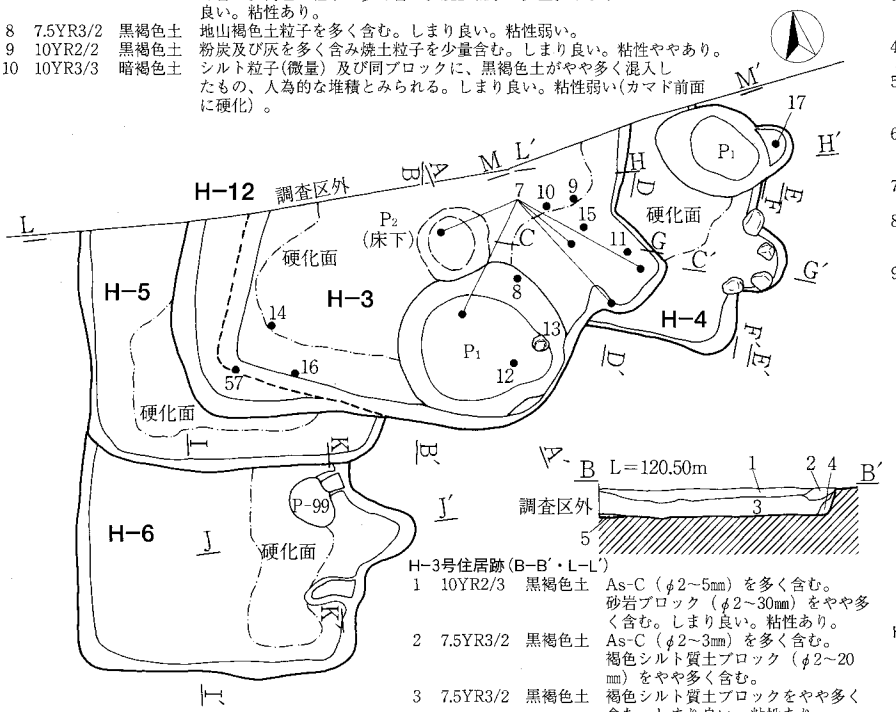
H-1号住居跡

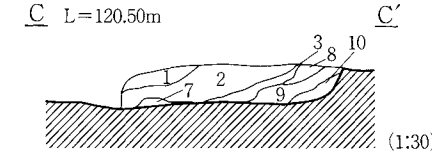
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含み炭化物を少量含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含み炭化物をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含み焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を少量含み(10YR2/1)黒色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）及びシルト質土ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
6	7.5YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～5㎜）及びシルト質土ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）及びシルト質土ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。褐色土粒子を多く含む。焼土粒子を少量。しまり良い。粘性あり。
8	7.5YR3/2	黒褐色土	地山褐色土粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
9	10YR2/2	黒褐色土	粉炭及び灰を多く含み焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。
10	10YR3/3	暗褐色土	シルト粒子(微量）及び同ブロックに、黒褐色土がやや多く混入したもの、人為的な堆積とみられる。しまり良い。粘性弱い(カマド前面に硬化）。

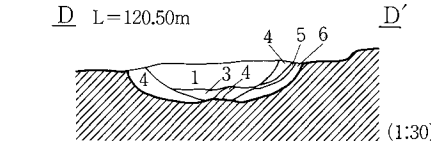


H-1号住居跡竈

1	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
2	7.5YR3/3	褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。竈構築材の崩落。
3	7.5YR4/3	褐色土	焼土ブロック（φ5～10㎜）主体。黒褐色土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
4	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～4㎜）及び焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。
6	7.5YR3/2	暗褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含み焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
8	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）、暗褐色粒子及び焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。
9	7.5YR2/1	黒褐色土	焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

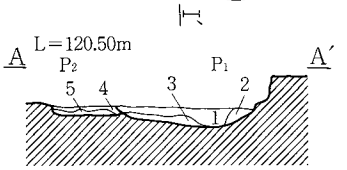






H-3号住居跡(B-B′・L-L′)

1	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含む。砂岩ブロック（φ2～30㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を多く含む。褐色シルト質土ブロック（φ2～20㎜）をやや多く含む。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	褐色シルト質土ブロックをやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR2/3	黒褐色土	地山シルトブロック（φ5～10㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
5	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く、砂岩ブロック（φ2～5㎜）やや多く含む。しまり良い。粘性あり。



H-3号住居跡P₁

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）及び砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含み炭化物（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR2/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～5㎜）及び炭化物（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～30㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。

H-3号住居跡（P₂床下）

4	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量、砂岩ブロック（φ2～10㎜）を多量、炭化物（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

H-3号住居跡竈(C-C′・D-D′)

1	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土粒子、炭化粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR2/2	黒褐色土	粉炭及び灰を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	灰層。粉炭及び灰から成る。しまり良い粘性あり。
6	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	粉炭及び灰を多量、焼土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
8	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ3～5㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
9	7.5YR3/3	暗褐色土	凝灰岩粒子ややを多く含む。しまり良い。粘性あり。
10	7.5YR3/3	暗褐色土	シルト質土ブロック（φ5～20㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。

0 1:30 1m　0 1:60 2m

Fig.8　H-1・3～6・12号住居跡

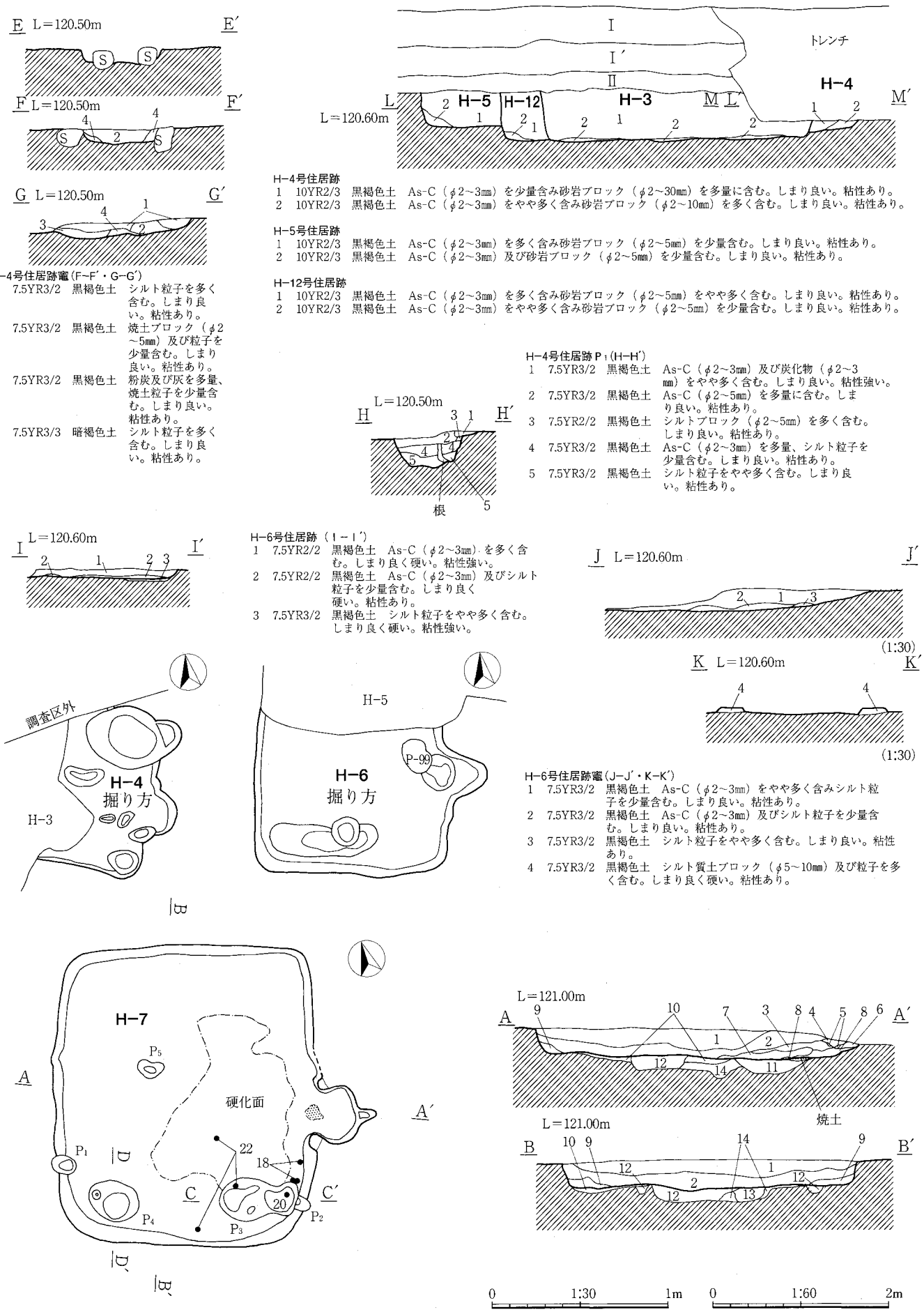
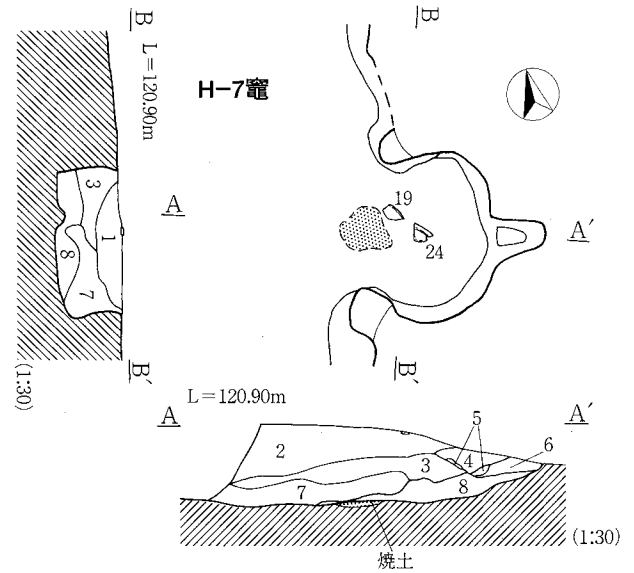
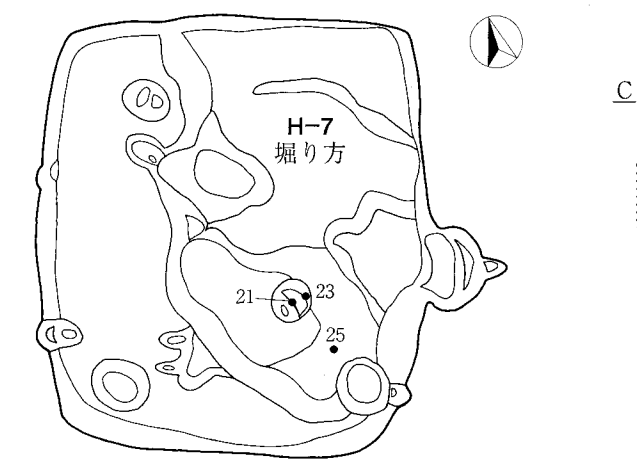


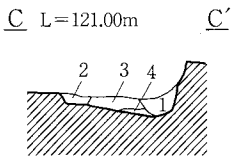
Fig.9 H-3～7・12号住居跡



H−7号住居跡（竈、A−A′・B−B′）

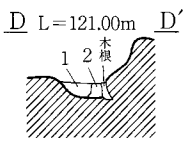
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）をやや多く含みシルト粒子を多く含む。焼土ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
4	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）をやや多く含みシルトブロック（φ2～5㎜）を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土粒子を多量に含む。天井部の崩落か。しまり良い。粘性あり。
6	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）及びシルト質土を含み焼土粒子をやや多く含む。まり良い。粘性あり。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子及び焼土ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
8	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ2～10㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
9	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
10	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。砂岩ブロック（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性あり。
11	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。シルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
12	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。シルトブロック（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
13	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。シルトブロック（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
14	7.5YR3/2	黒褐色土	シルトブロック及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性あり。





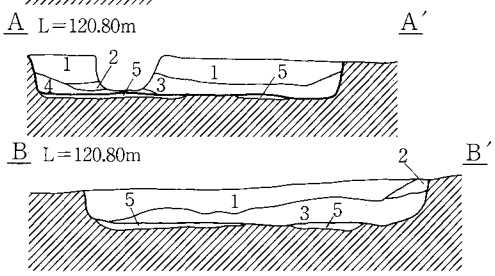
H−7号住居跡Ｐ3

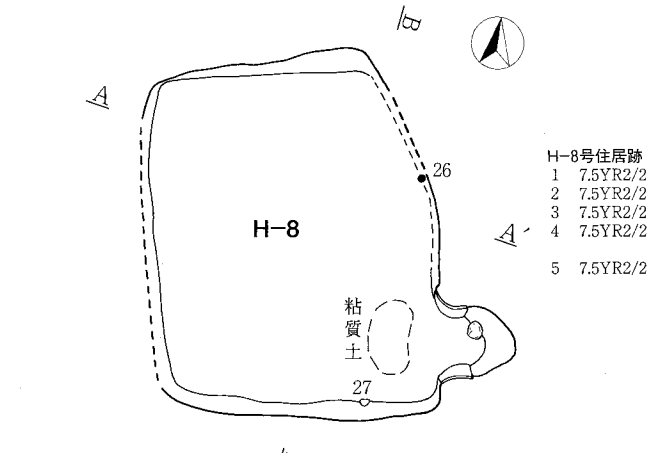
1	7.5YR2/2	黒褐色土	シルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR2/2	黒褐色土	シルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	7.5YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。



H−7号住居跡Ｐ4

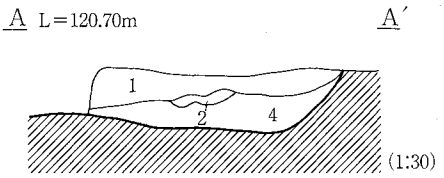
1	7.5YR3/2	黒褐色土	褐色砂質土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	褐色砂質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。

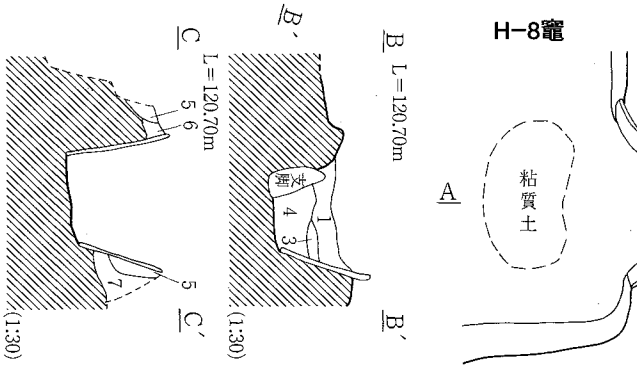


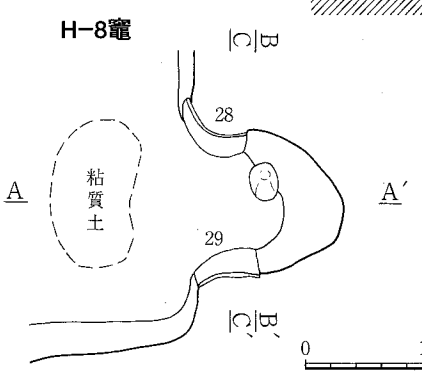


H−8号住居跡

1	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～10㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～10㎜）を多く含む。シルトブロック（φ5～10㎜）多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	7.5YR2/2	黒褐色土	シルトブロック（φ5～20㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。貼床。





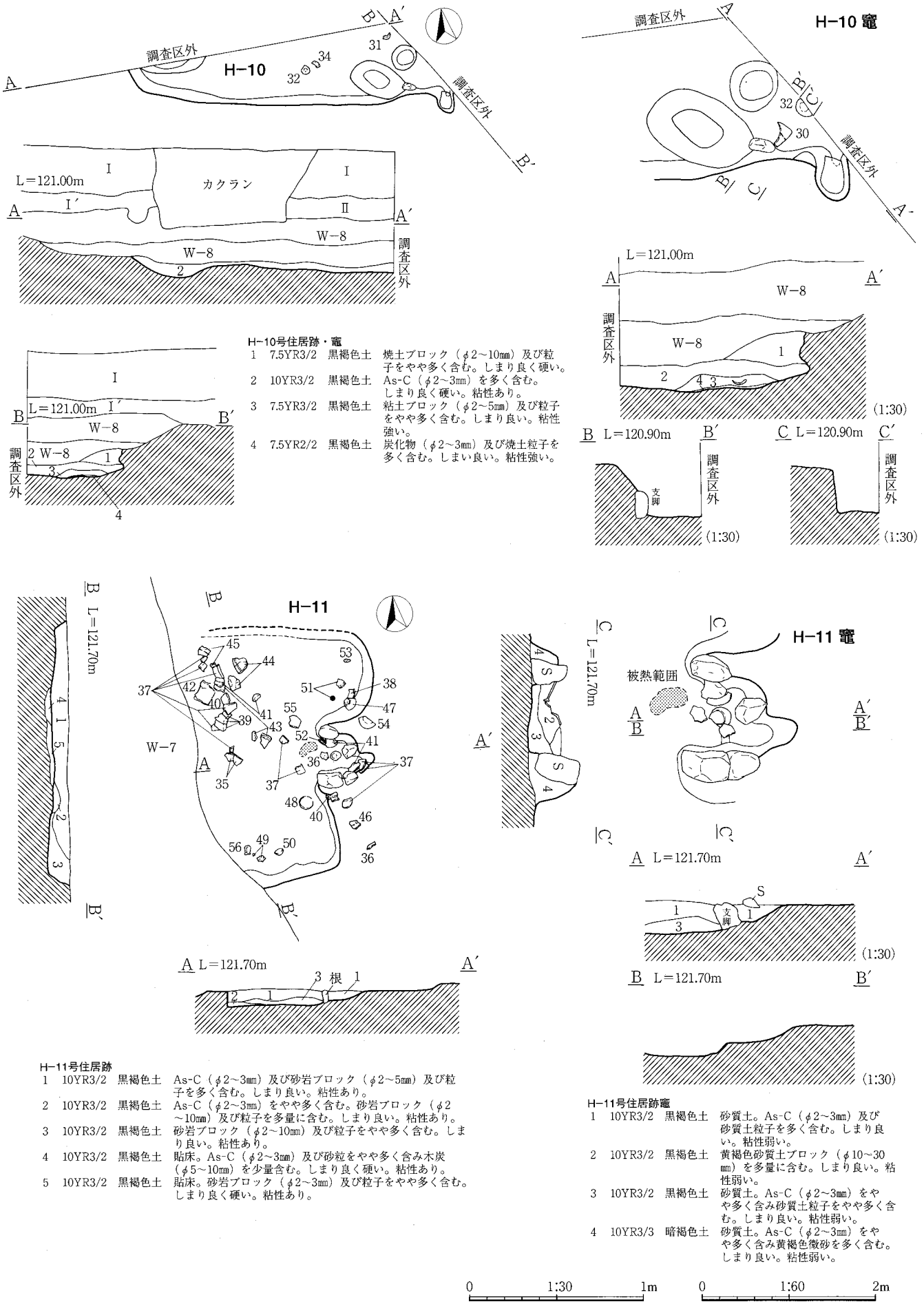


H−8号住居跡竈

1	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ1～3㎜）を多く含む。焼土粒を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2	10YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子を多量に含む。
3	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒子及び灰を多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ1～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
5	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～3㎜）を少量含む。シルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
6	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
7	10YR2/3	暗褐色土	As-C（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。

0　1:30　1m　　0　1:60　2m

Fig.10　H−7・8号住居跡



H−10号住居跡・竈

1	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。
2	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	粘土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性強い。
4	7.5YR2/2	黒褐色土	炭化物（φ2～3㎜）及び焼土粒子を多く含む。しまい良い。粘性強い。

H−11号住居跡

1	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）及び砂岩ブロック（φ2～5㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。砂岩ブロック（φ2～10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
3	10YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR3/2	黒褐色土	貼床。As-C（φ2～3㎜）及び砂粒をやや多く含み木炭（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
5	10YR3/2	黒褐色土	貼床。砂岩ブロック（φ2～3㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。

H−11号住居跡竈

1	10YR3/2	黒褐色土	砂質土。As-C（φ2～3㎜）及び砂質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色砂質土ブロック（φ10～30㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
3	10YR3/2	黒褐色土	砂質土。As-C（φ2～3㎜）をやや多く含み砂質土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4	10YR3/3	暗褐色土	砂質土。As-C（φ2～3㎜）をやや多く含み黄褐色微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

Fig.11　H−10・11号住跡

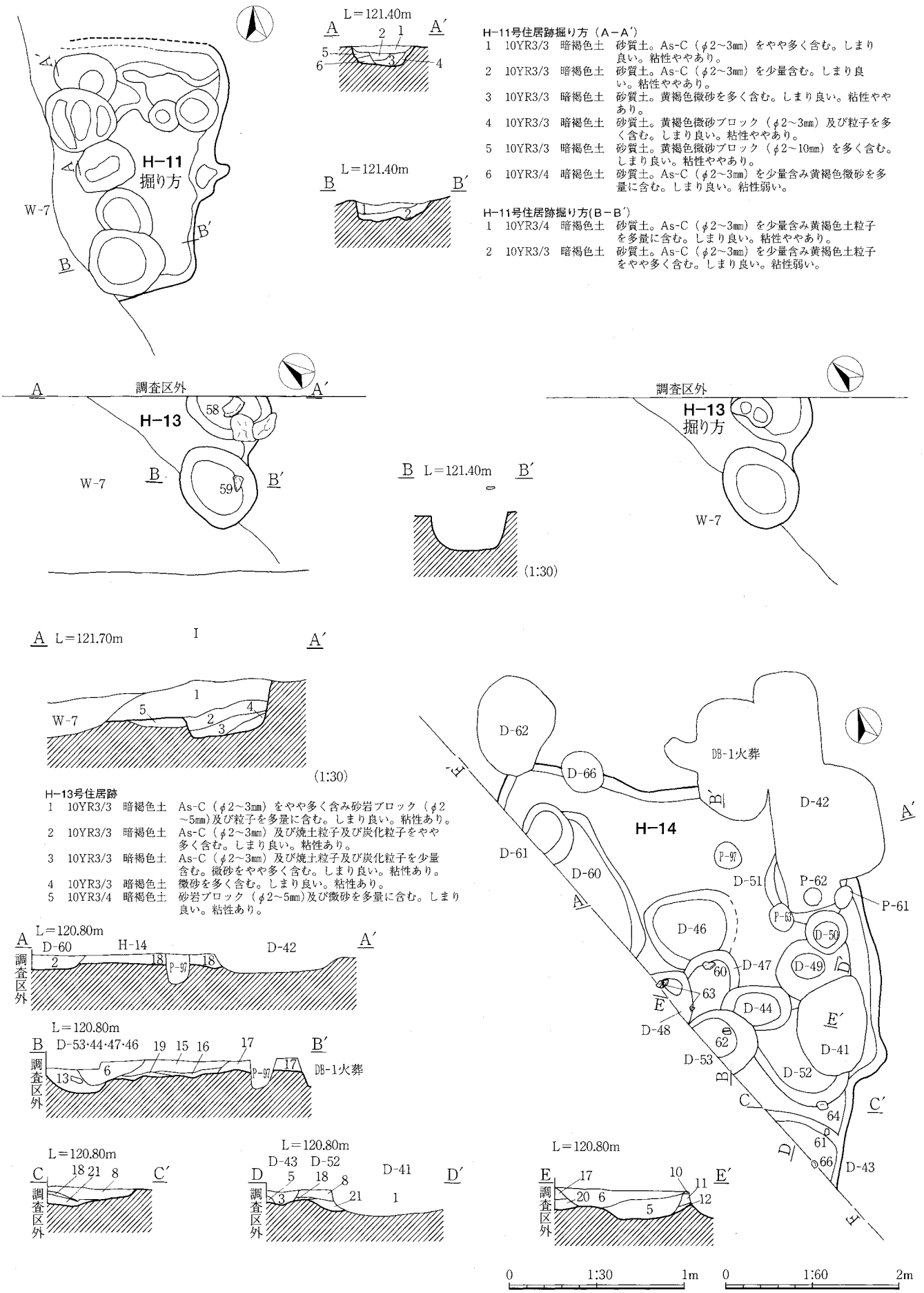
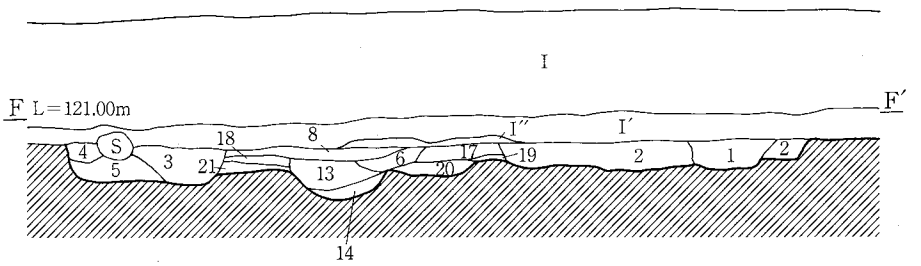


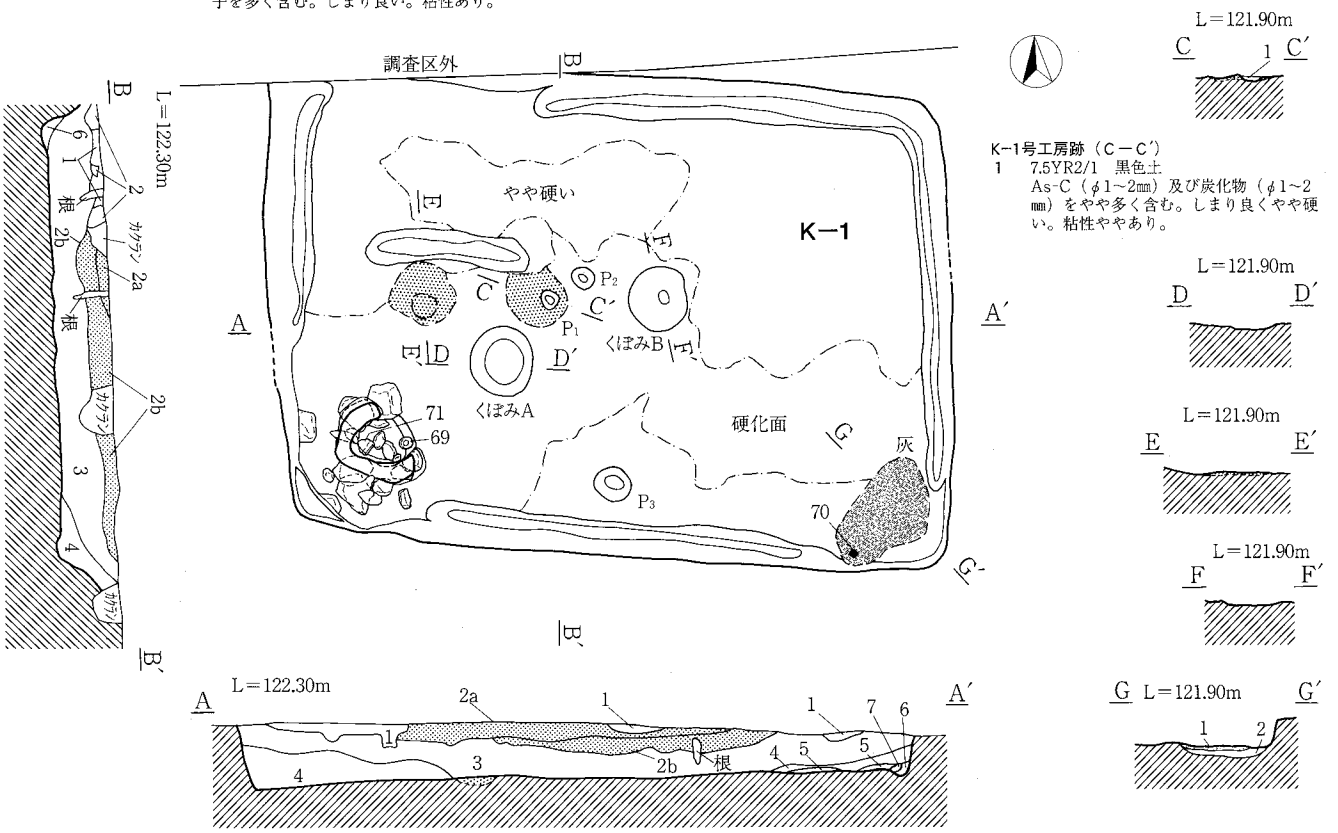
Fig.12 H−11・13・14号住居跡



I　盛り土。
I′　盛り土以前の表土。
I″　As-B表土にが多く混入。

H-14号住居跡（A-A′～F-F′）

1　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）を少量含みシルト質土ブロック（φ3～5mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）及びシルト質土ブロック（φ2～5mm）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
3　10YR2/3　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）を少量み焼土ブロック（φ2～5mm）及び炭化物（φ2～5mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
4　10YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）及び焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
5　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性強い。
6　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）を多く含み焼土粒子をやや多く含む。木炭を少量含む。
7　7.5YR2/2　黒褐色土　シルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
8　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）、シルト粒子及び焼土ブロック（φ3～5）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
9　10YR2/3　黒褐色土　As-C（φ2～3mm）及び焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
10　7.5YR2/2　黒褐色土　炭化物（φ2～3mm）及び焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
11　7.5YR2/2　黒褐色土　シルト質土ブロック（φ5～10mm）及び粒子を多量に含み焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
12　7.5YR2/2　黒褐色土　白色粘土粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
13　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒子及びシルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性強い。
14　7.5YR3/2　黒褐色土　シルト質土ブロック（φ2～3mm）をやや多く含み木炭（φ3～5mm）を少量含む。しまり良い。粘性強い。
15　7.5YR3/2　黒褐色土　As-Cを多量に含む。（As-Bのような、小軽石もあるようにみられる）しまり良い。粘性強い。
16　7.5YR3/2　黒褐色土　As-Cを少量含み焼土ブロック及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性強い。
17　7.5YR3/2　黒褐色土　As-Cを多く含む。（As-Bのような、小軽石もみられる）しまり良い。粘性強い。
18　7.5YR2/1　黒色土　木炭（φ2～5mm）をやや多く含み粘炭を多量に含む。しまり良い。粘性強い。
19　10YR3/2　黒褐色土　シルト質土ブロック（φ2～5mm）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性強い。
20　7.5YR3/2　黒褐色土　焼土粒子を多く含みシルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性強い。
21　7.5YR3/2　黒褐色土　シルト質土ブロック（φ5～20mm）を多く含み焼土ブロック（φ5～10mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。



K-1号工房跡（A－A′・B－B′）

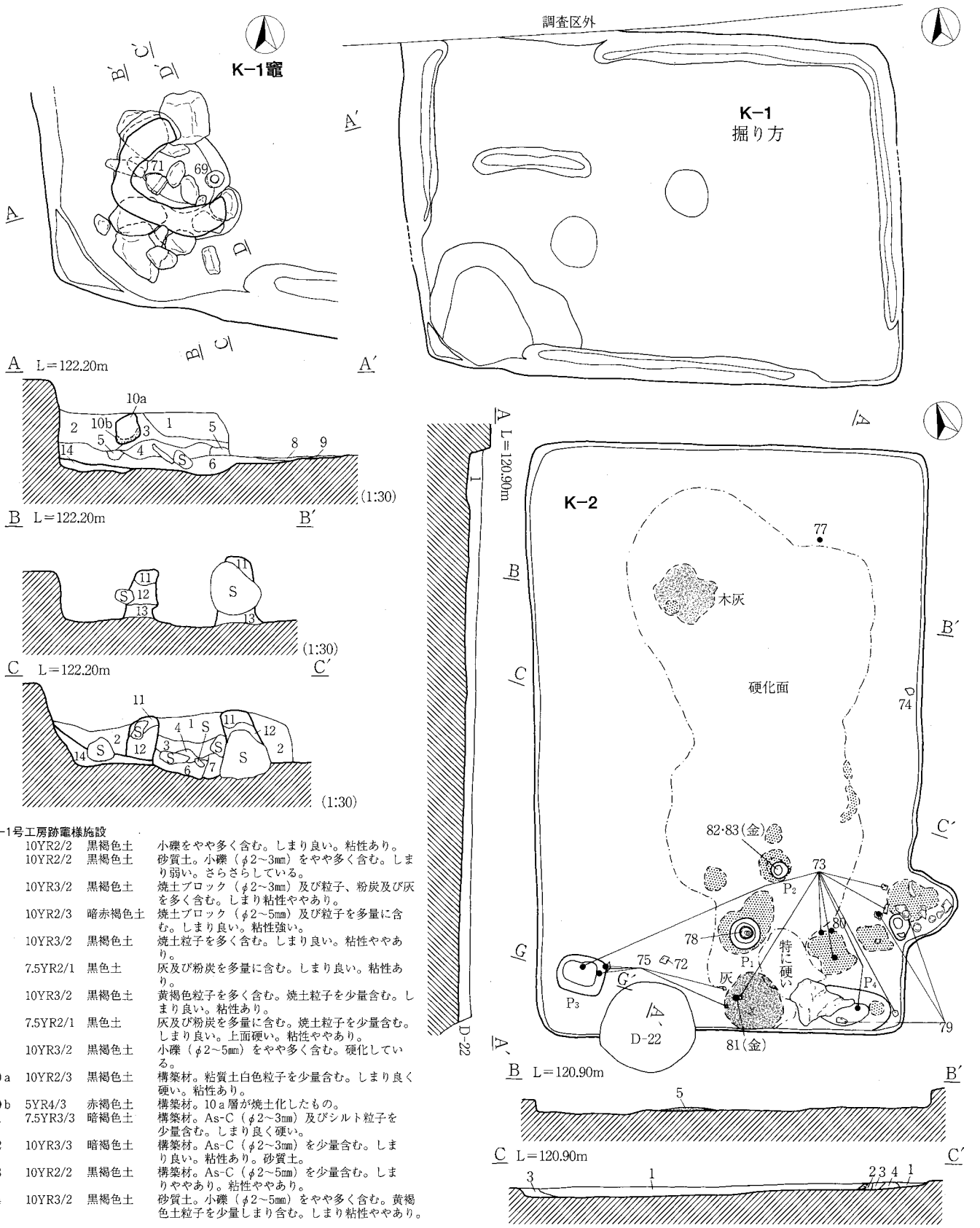
1　10YR2/2　暗褐色土　As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2a　7.5YR4/2　灰褐色土　As-B灰層。
2b　7.5YR4/2　灰褐色土　As-B軽石層。
3　10YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～5mm）を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
4　7.5YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～5mm）をやや多く含む。黒褐色土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
5　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
6　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
7　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

K-1号工房跡（G－G′）

1　7.5YR2/1　黒色土　灰及び木炭を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2　10YR2/2　黒褐色土　砂質土。小礫をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

0　1:60　2m

Fig.13　H-14号住居跡、K-1号工房跡



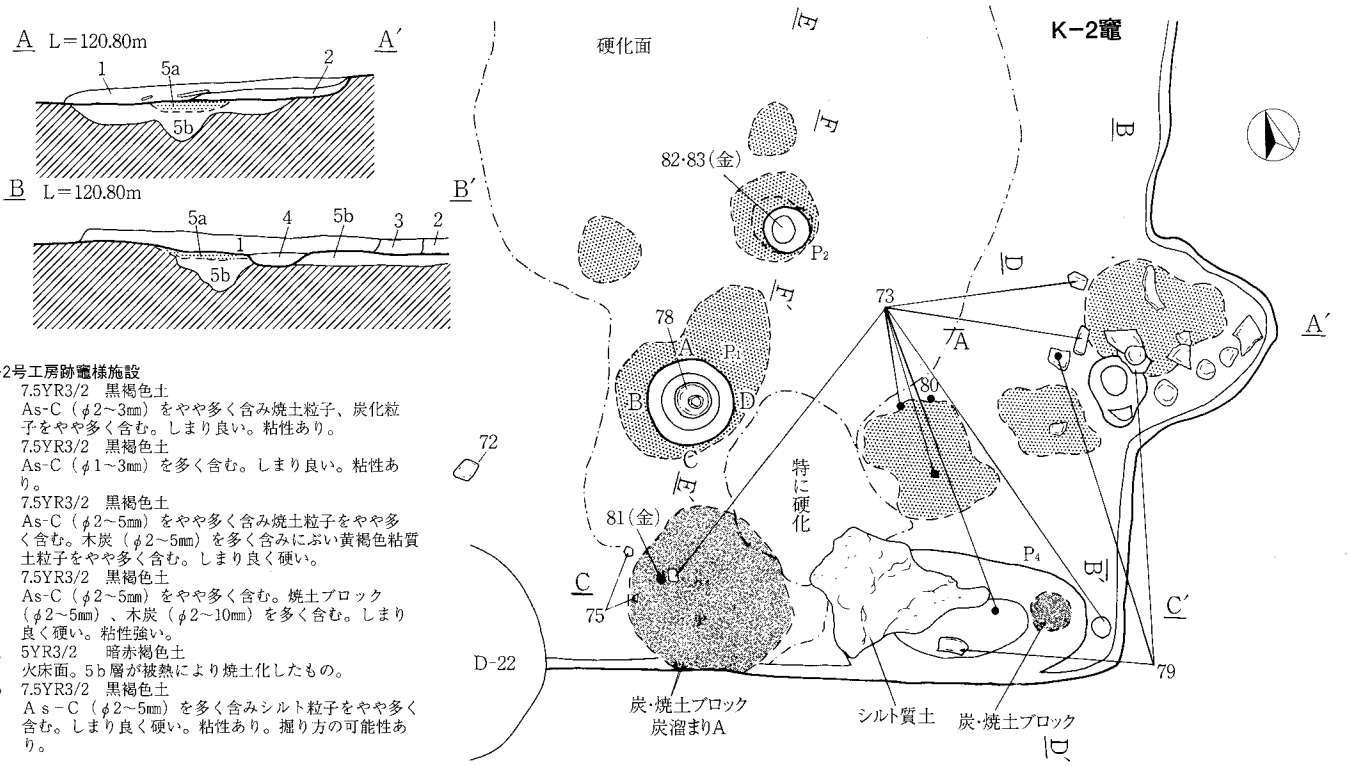
K−1号工房跡竈様施設

1	10YR2/2	黒褐色土	小礫をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR2/2	黒褐色土	砂質土。小礫（φ2〜3㎜）をやや多く含む。しまり弱い。さらさらしている。
3	10YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ2〜3㎜）及び粒子、粉炭及び灰を多く含む。しまり粘性ややあり。
4	10YR2/3	暗赤褐色土	焼土ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性強い。
5	10YR3/2	黒褐色土	焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
6	7.5YR2/1	黒色土	灰及び粉炭を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
7	10YR3/2	黒褐色土	黄褐色粒子を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
8	7.5YR2/1	黒色土	灰及び粉炭を多量に含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。上面硬い。粘性ややあり。
9	10YR3/2	黒褐色土	小礫（φ2〜5㎜）をやや多く含む。硬化している。
10a	10YR2/3	黒褐色土	構築材。粘質土白色粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
10b	5YR4/3	赤褐色土	構築材。10a層が焼土化したもの。
11	7.5YR3/3	暗褐色土	構築材。As-C（φ2〜3㎜）及びシルト粒子を少量含む。しまり良く硬い。
12	10YR3/3	暗褐色土	構築材。As-C（φ2〜3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。砂質土。
13	10YR2/2	黒褐色土	構築材。As-C（φ2〜5㎜）を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
14	10YR3/2	黒褐色土	砂質土。小礫（φ2〜5㎜）をやや多く含む。黄褐色土粒子を少量しまり含む。しまり粘性ややあり。

K−2号工房跡

1	7.5YR3/1	黒褐色土	As-C（φ2〜5㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2〜5㎜）を多く含み10YR5/4凝灰岩質土ブロック（φ5〜10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	10YR3/3	黒褐色土	凝灰岩質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
4	7.5YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2〜5㎜）を多く含み10YR5/4凝灰岩質土ブロック（φ5〜10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
5	10YR2/2	黒褐色土	木炭片及び粉炭を多量に含む。しまり良い。粘性あり。

Fig.14　K−1・2号工房跡



K−2号工房跡竈様施設

1　7.5YR3/2　黒褐色土
As-C（φ2～3㎜）をやや多く含み焼土粒子、炭化粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

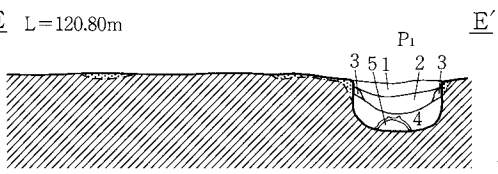
2　7.5YR3/2　黒褐色土
As-C（φ1～3㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。

3　7.5YR3/2　黒褐色土
As-C（φ2～5㎜）をやや多く含み焼土粒子をやや多く含む。木炭（φ2～5㎜）を多く含みにぶい黄褐色粘質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。

4　7.5YR3/2　黒褐色土
As-C（φ2～5㎜）をやや多く含む。焼土ブロック（φ2～5㎜）、木炭（φ2～10㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。

5a　5YR3/2　暗赤褐色土
火床面。5b層が被熱により焼土化したもの。

5b　7.5YR3/2　黒褐色土
As－C（φ2～5㎜）を多く含みシルト粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。掘り方の可能性あり。



K−2号工房跡P1

1　7.5YR2/2　黒褐色土
As-C（φ1～3㎜）を多く含む。木炭（φ2～5㎜）を少量含む。焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

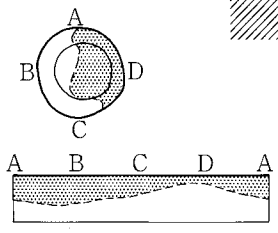
2　5YR3/2　赤褐色土
焼土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子から成る。側壁の崩落。

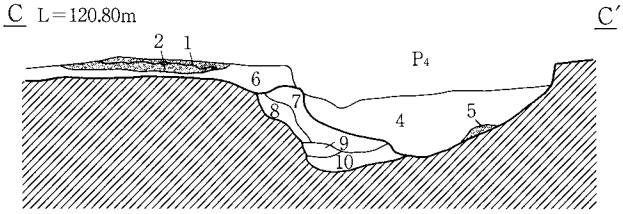
3　7.5YR3/2　黒褐色土
焼土粒子をやや多く含み木炭（φ5～10㎜）及び粉炭を多く含む。しまり良い。粘性強い。

4　7.5YR1.7　黒色土
木炭及び粉炭を主体とし、7.5YR3/2黒褐色粒子を少量含む。しまり良い。粘性強い。

5　7.5YR3/2　黒褐色土
As-C（φ1～2㎜）を少量含炭化物粒子を少量含む。掘り方底部は4層と同様の炭化物がみられる。しまり良い。粘性強い。

P1被熱範囲模式図





K−2号工房跡P4（C−C′・D−D′）

1　7.5YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～5㎜）を多く含み木炭（φ5～50㎜）を多量に含む。焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

2　7.5YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～5㎜）を多く含み焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

3　10YR2/2　黒褐色土　木炭（φ5～20㎜）及び焼土ブロックを含む。

4　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～5㎜）を多く含みシルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。

5　7.5YR2/2　黒褐色土　木炭（φ5～20㎜）及び焼土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性強い。

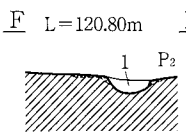
6　7.5YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性強い。

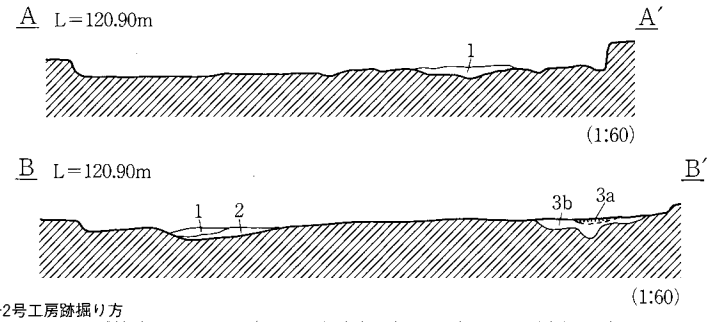
7　7.5YR4/6　褐色土　シルト質土。床面から連続して落ちている。

8　7.5YR3/3　暗褐色土　シルト質土。上記シルト質土の粒子を多く含み木炭（φ5～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。

9　7.5YR3/2　黒褐色土　シルト質土ブロック（φ10～30㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。

10　7.5YR3/2　黒褐色土　シルト質土。木炭（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。





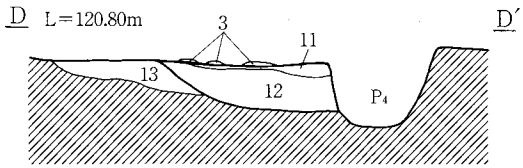
K−2号工房跡掘り方

1　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良い。(貼床のように硬くない)粘性あり。

2　7.5YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。

3a　5YR3/2　暗赤褐色土　竈様施設5a層と同一。火床面。被熱により焼土化。

3b　7.5YR3/2　黒褐色土　竈様施設5b層と同一。As-C（φ2～5㎜）を多く含みシルト粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。



11　10YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。貼床状。

12　10YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性あり。

13　10YR2/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。シルトブロック（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。貼床状。

0　1:30　1m　　0　1:60　2m

Fig.15　K−2号工房跡

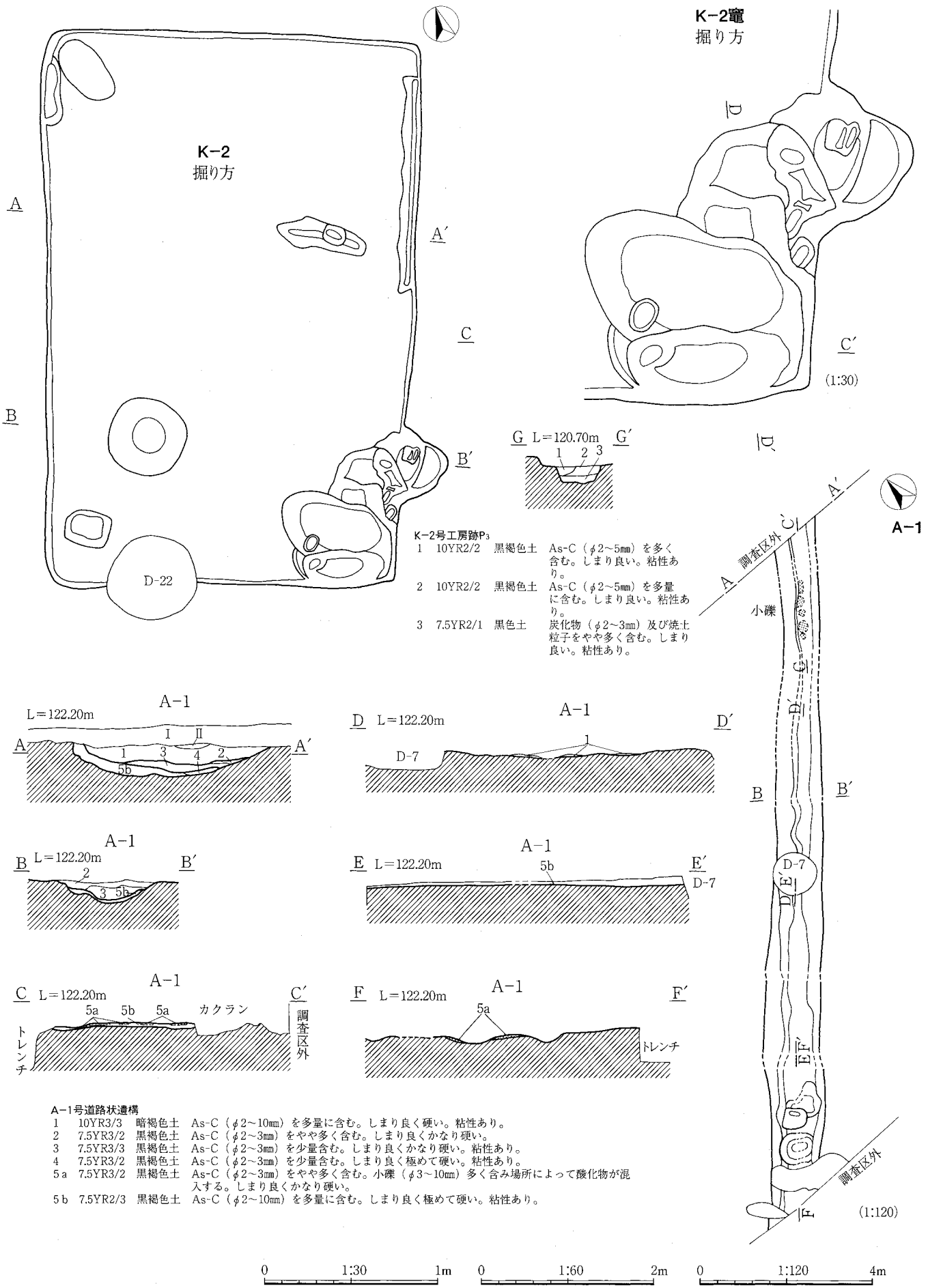
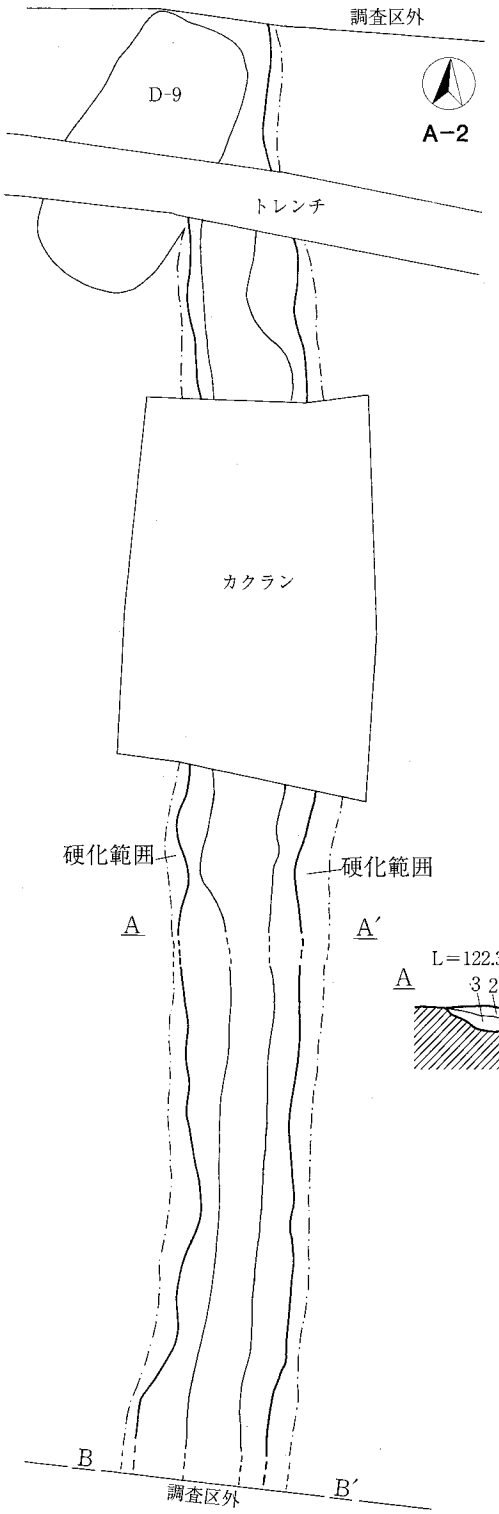
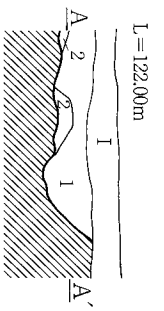
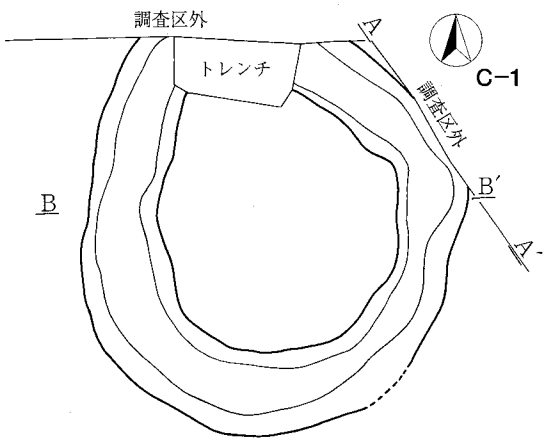
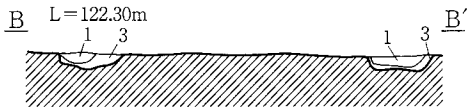


Fig.16 K−2号工房跡、A−1号道路状遺構



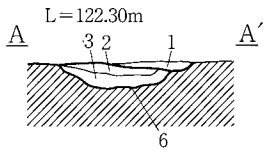


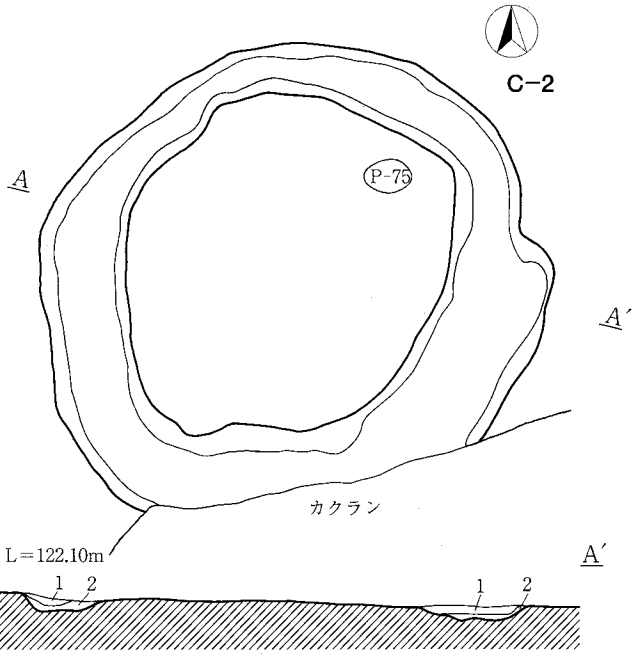




C-1号周溝状遺構

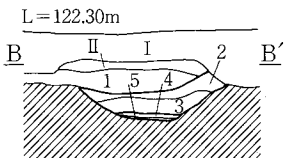
1	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～10㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含む。地山黄褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。





C-2号周溝状遺構

1	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含む。地山黄褐色土多く含む。しまり良い。粘性あり。



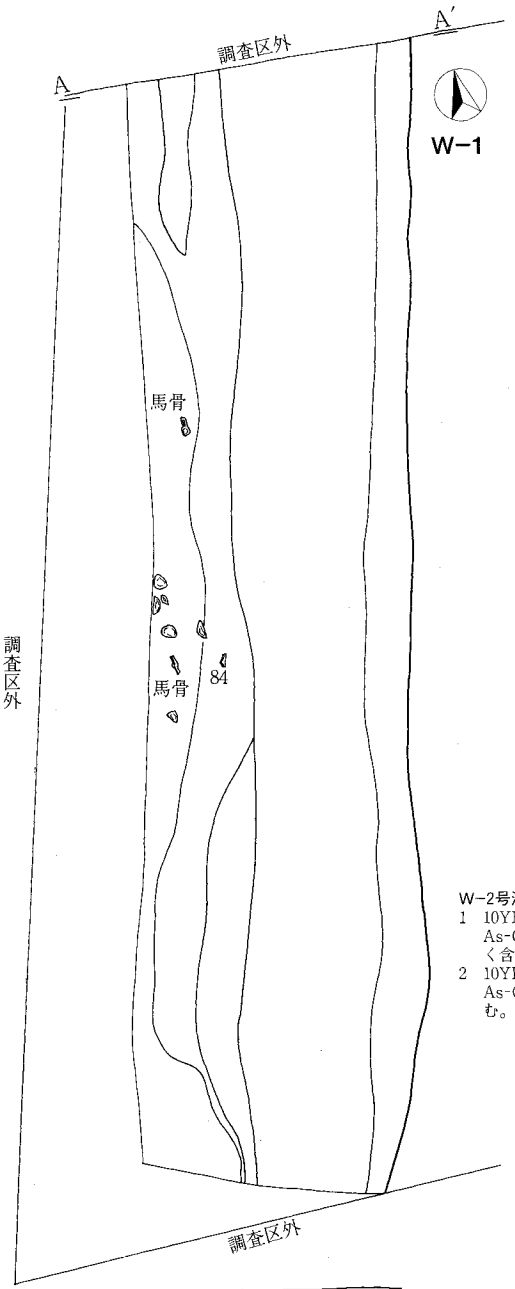
A－2号道路状遺構（A－A′・B－B′）

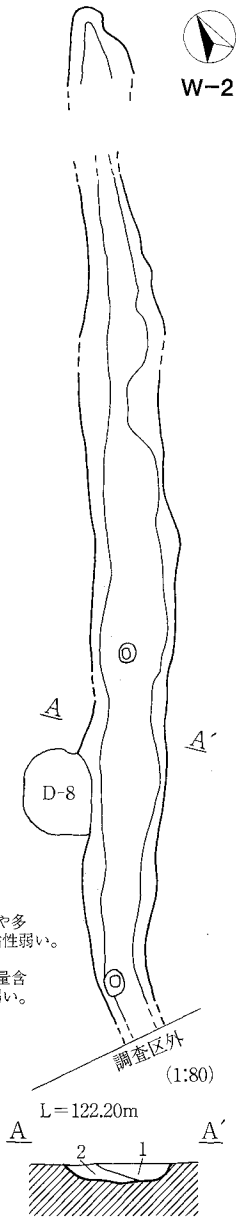
1	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。Ⅲ層相当。
2	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	10YR2/3	黒褐色土	砂質土。As-C（φ2～3㎜）を少量含み地山褐色土砂質土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR2/2	黒褐色土	小礫をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。わずかながら、層上面に砂の堆積が認められる。
5	7.5YR2/2	黒褐色土	4層と同質だが酸化物が灰の下層に沈殿したもの。（カリカリしている）しまり良い。粘性あり。
6※	10YR3/3	暗褐色土	地山の暗褐色土に酸化物がしみ込んでいる。

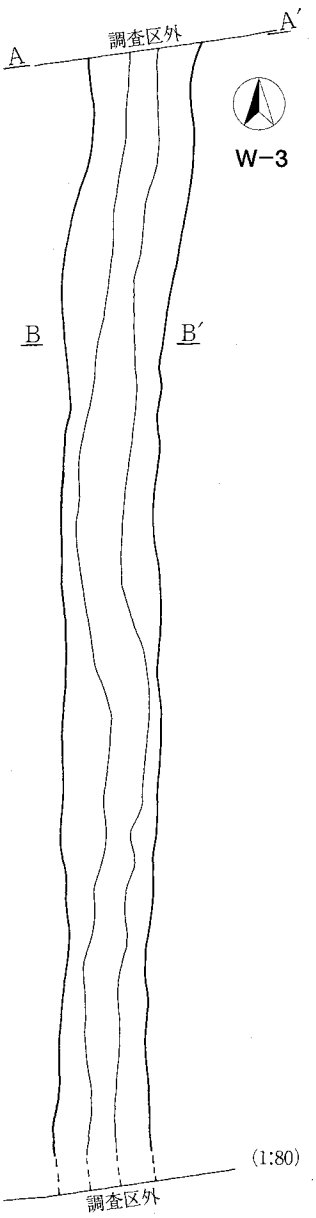
※2.4層上面が、道路面とみられるが、しまってやや硬いが、A-1道路ほど硬くはない。やはり4層上面が道路面か？平面で掘った時に勘違いした。

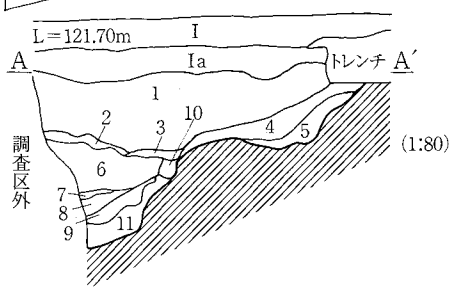
0　1:60　2m

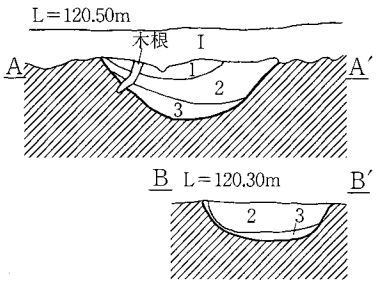
Fig.17　A－2号道路状遺構、C－1・2号周構状遺構











W−2号溝跡

1　10YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

2　10YR3/3　暗褐色土　As-C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。

W−1号溝跡

1　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ3～5㎜）及び小礫を多量に含み炭化物（φ1～3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。

2　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）やや多く含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

3　10YR3/3　暗褐色土　細砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

4　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）やや多く含み黄褐色土粒子を多く含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

5　10YR3/2　黒褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）及び小礫を多く含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

6　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）を多量に含み小礫をやや多く含む。炭化物（φ1～3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

7　10YR3/2　黒褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

8　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）を少量含み褐色土ブロック（φ2～3㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

9　7.5YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）、褐色土ブロック（φ2～3㎜）及び粒子を少量含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

10　10YR3/3　暗褐色土　白色軽石（φ1～2㎜）及び黄褐色土粒子を少量含み褐色土粒子（φ2～4㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。やや粘性あり。

11　7.5YR3/2　黒褐色土　(10YR4/3) シルト質土、ブロック状の凝灰岩質ブロック10YR4/4) 及び褐色土ブロック（φ30～130㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性あり。

W−3号溝跡

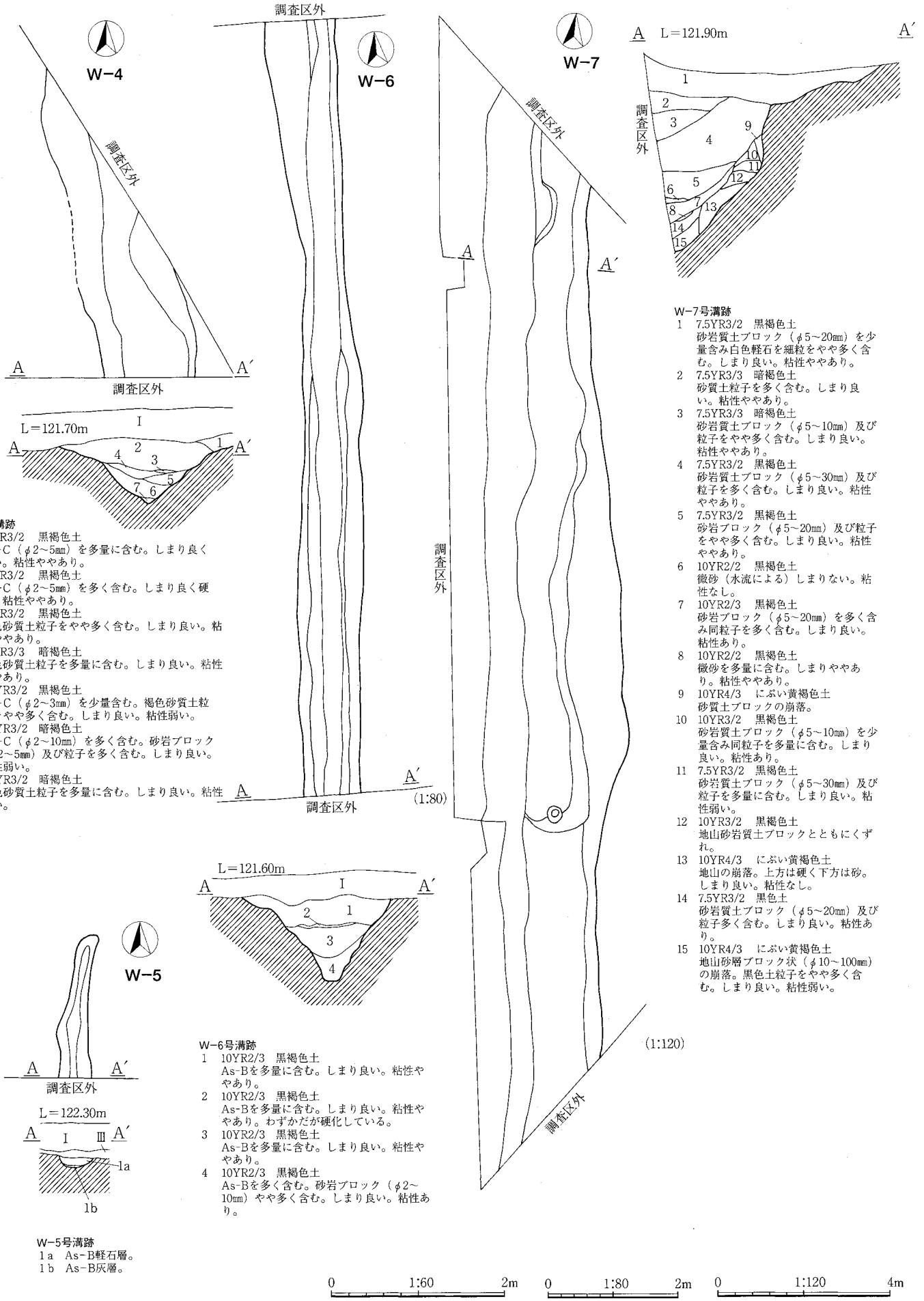
1　10YR3/2　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

2　10YR3/3　暗褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

3　10YR3/4　暗褐色土　As-C（φ2～3㎜）を多量に含み地山暗褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

0　1:60　2m　　0　1:80　2m

Fig.18　W−1～3号溝跡



W−4号溝跡

1　10YR3/2　黒褐色土
As−C（φ2〜5mm）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。

2　10YR3/2　黒褐色土
As−C（φ2〜5mm）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。

3　10YR3/2　黒褐色土
褐色砂質土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

4　10YR3/3　暗褐色土
褐色砂質土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。

5　7.5YR3/2　黒褐色土
As−C（φ2〜3mm）を少量含む。褐色砂質土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

6　7.5YR3/2　暗褐色土
As−C（φ2〜10mm）を多く含む。砂岩ブロック（φ2〜5mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

7　7.5YR3/2　暗褐色土
褐色砂質土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

W−6号溝跡

1　10YR2/3　黒褐色土
As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。

2　10YR2/3　黒褐色土
As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。わずかだが硬化している。

3　10YR2/3　黒褐色土
As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。

4　10YR2/3　黒褐色土
As−Bを多く含む。砂岩ブロック（φ2〜10mm）やや多く含む。しまり良い。粘性あり。

W−7号溝跡

1　7.5YR3/2　黒褐色土
砂岩質土ブロック（φ5〜20mm）を少量含み白色軽石を細粒をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

2　7.5YR3/3　暗褐色土
砂質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

3　7.5YR3/3　暗褐色土
砂岩質土ブロック（φ5〜10mm）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

4　7.5YR3/2　黒褐色土
砂岩質土ブロック（φ5〜30mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

5　7.5YR3/2　黒褐色土
砂岩ブロック（φ5〜20mm）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

6　10YR2/2　黒褐色土
微砂（水流による）しまりない。粘性なし。

7　10YR2/3　黒褐色土
砂岩ブロック（φ5〜20mm）を多く含み同粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。

8　10YR2/2　黒褐色土
微砂を多量に含む。しまりややあり。粘性ややあり。

9　10YR4/3　にぶい黄褐色土
砂質土ブロックの崩落。

10　10YR3/2　黒褐色土
砂岩質土ブロック（φ5〜10mm）を少量含み同粒子を多量に含む。しまり良い。粘性あり。

11　7.5YR3/2　黒褐色土
砂岩質土ブロック（φ5〜30mm）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

12　10YR3/2　黒褐色土
地山砂岩質土ブロックとともにくずれ。

13　10YR4/3　にぶい黄褐色土
地山の崩落。上方は硬く下方は砂。しまり良い。粘性なし。

14　7.5YR3/2　黒色土
砂岩質土ブロック（φ5〜20mm）及び粒子多く含む。しまり良い。粘性あり。

15　10YR4/3　にぶい黄褐色土
地山砂層ブロック状（φ10〜100mm）の崩落。黒色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

W−5号溝跡

1a　As−B軽石層。
1b　As−B灰層。

Fig.19　W−4〜7号溝跡

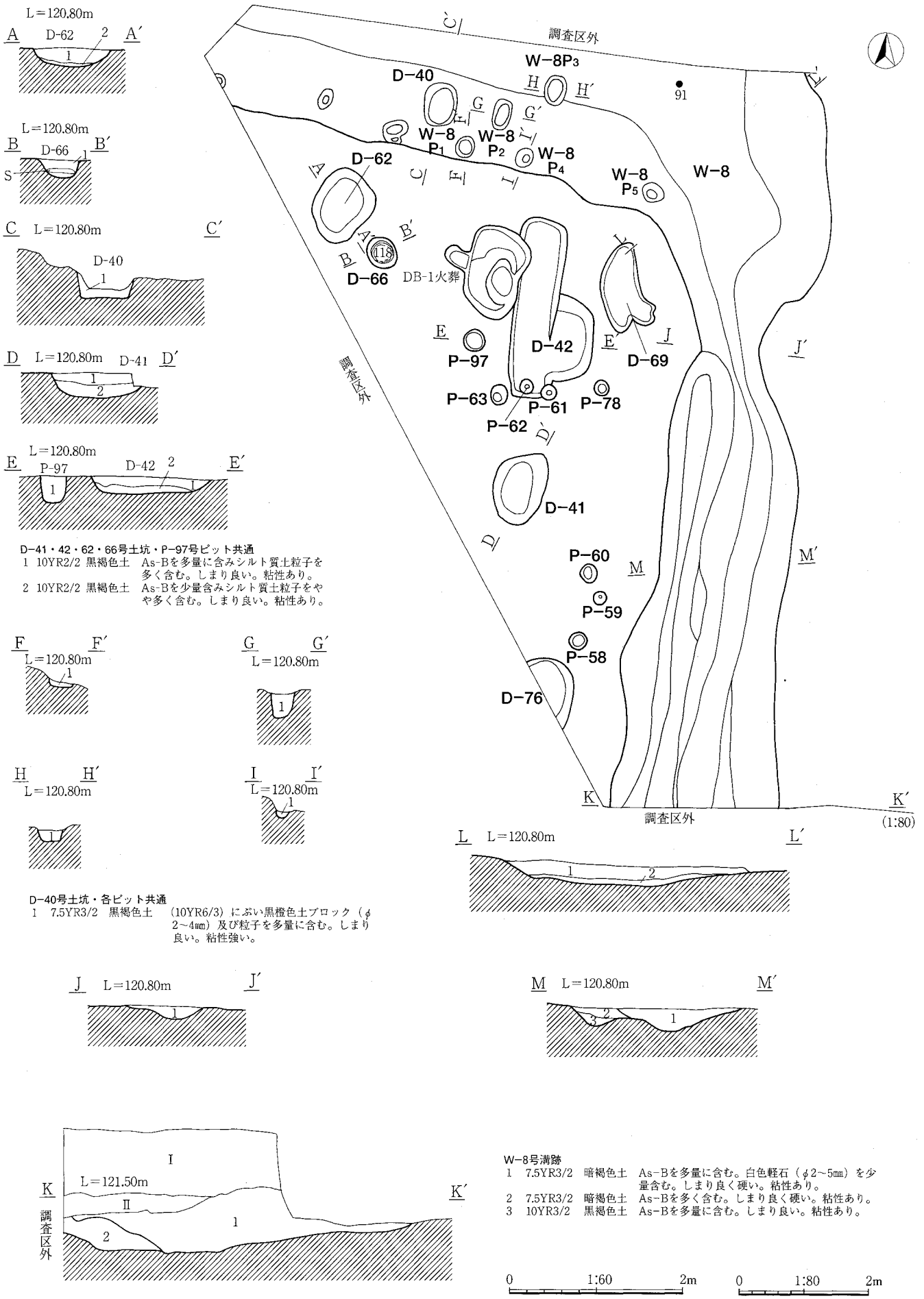
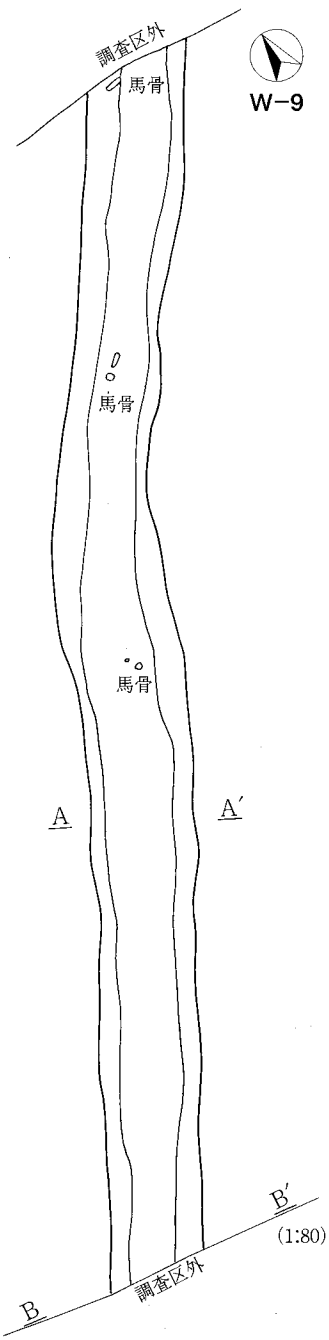
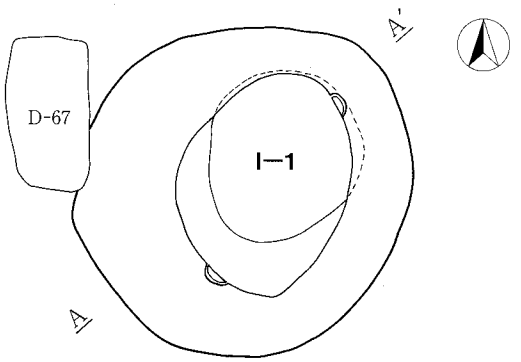
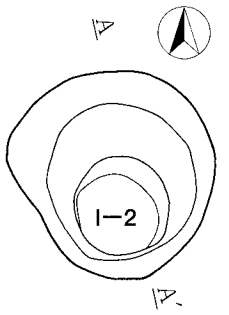
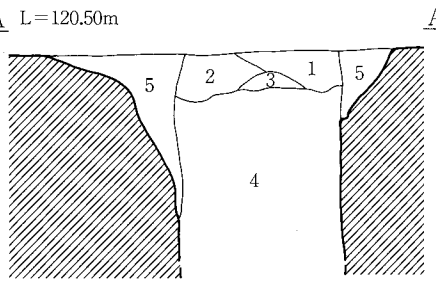


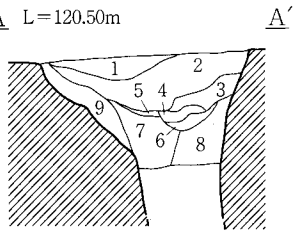
Fig.20 W−8号溝跡、D−40～42・62・66・69・76号土坑、ピット群（P−58～63・78・97）









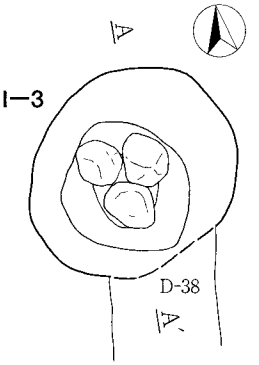


I−1号井戸跡

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み砂岩ブロック（φ2〜10㎜）をやや多く含む。炭化物（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み炭化物（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み焼土ブロック（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
4	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。炭化物（φ2〜3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
5	10YR2/2	黒褐色土	As−Bを多量にみ炭化物（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。

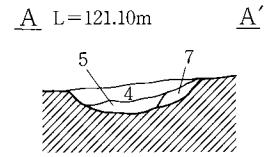
I−2号井戸跡

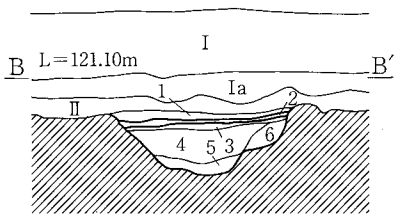
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As−B、砂質土ブロック（φ3〜5㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み砂質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多く含み砂質土ブロック及び粒子を少量含む。焼土粒子、灰及び粉炭をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
4	7.5YR2/1	黒色土	焼土ブロック（φ5〜10㎜）をやや多く含み灰及び粉炭を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
5	10YR2/2	黒褐色土	As−Bをやや多く含み灰及び粉炭を少量含む。しまり良い。粘性ややあり。
6	7.5YR3/2	黒褐色土	As−B、灰及び粉炭を少量含む。しまり良い。粘性強い。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多く含み砂質土ブロック（φ3〜5㎜）をやや多く含む。炭化物（φ2〜3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
8	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多く含み砂質土ブロック（φ3〜5㎜）及び粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
9	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多く含み砂質土粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。



W−9号溝跡

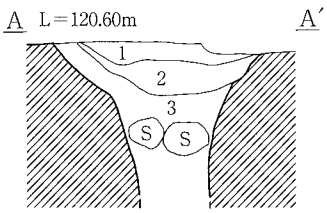
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。
4	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。しまり弱い。粘性なし。
5	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。（7.5YR3/4）暗褐色シルト質土ブロック（φ2〜20㎜）を多く含む。しまり良くやや硬い。粘性あり。
6	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。
7	10YR3/2	黒褐色土	シルト粒子を多量に含む。しまり良い。粘性あり。





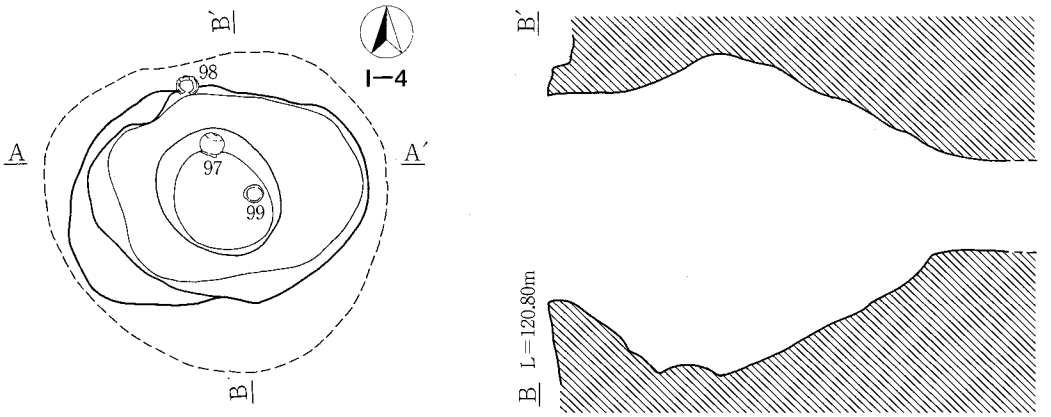
I−3号井戸跡

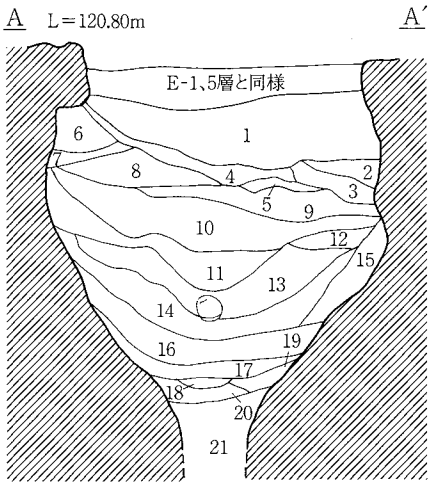
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As−B、砂質土ブロック（φ3〜5㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量に含み砂質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As−Bを多量にみ炭化物（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。



0 1:60 2m　　0 1:80 2m

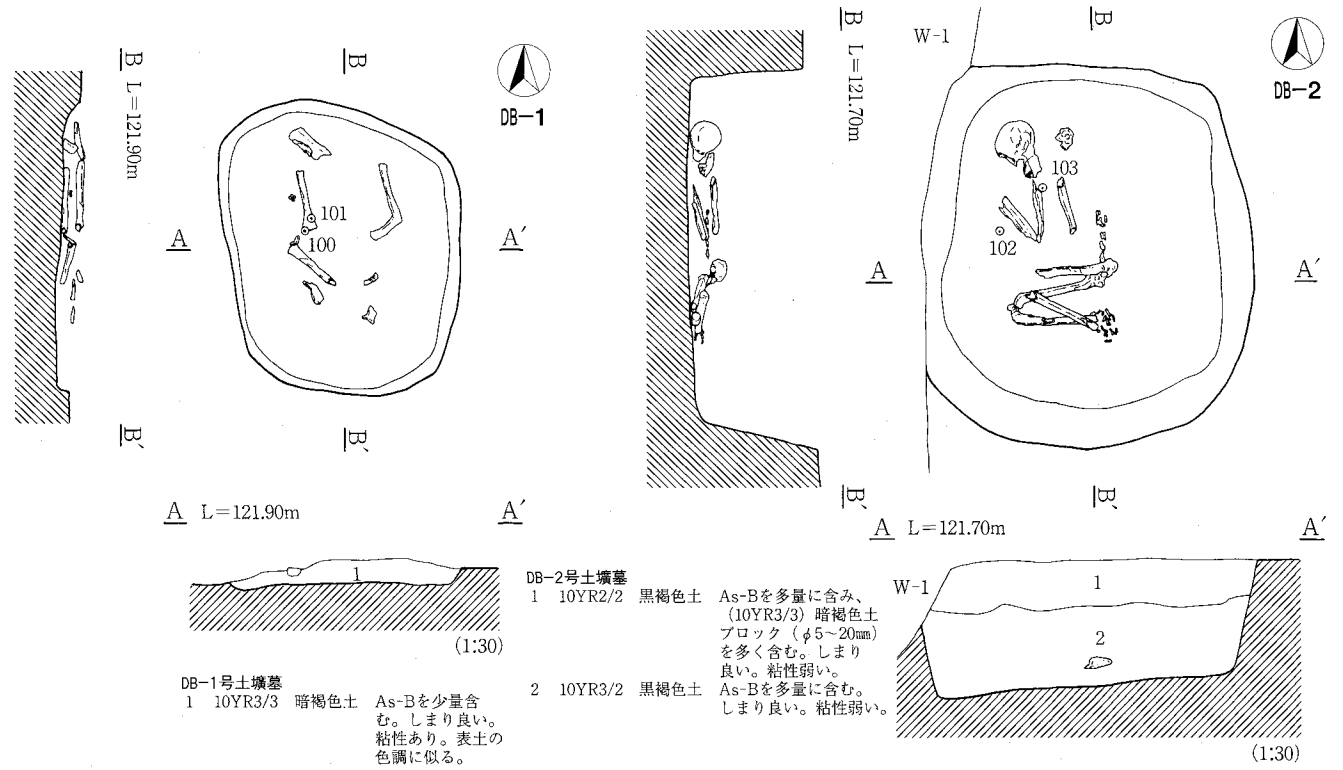
Fig.21　W−9号溝跡、I−1〜3号井戸跡





I−4号井戸跡

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As−C（φ2〜5mm）を少量含む。砂岩ブロック（φ2〜20mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ5〜20mm）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3	10YR3/3	暗褐色土	(10YR4/3) 褐色砂質土ブロック（φ2〜30mm）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	砂岩ブロック（φ5〜50mm）及び粒子主体。しまり良い。粘性弱い。
5	10YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ5〜20mm）及び粒子やや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
6	10YR3/3	暗褐色土	砂岩ブロック（φ10〜30mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
7	10YR4/3	にぶい黄褐色土	砂岩ブロック（φ5〜50mm）及び粒子主体。しまり良い。粘性弱い。
8	10YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ10〜30mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
9	10YR4/3	にぶい黄褐色土	砂岩ブロック（φ5〜50mm）及び粒子主体。しまり良い。粘性弱い。
10	7.5YR3/2	黒褐色土	砂岩ブロック（φ5〜10mm）及び粒子やや多く含む。しまり良い。粘性あり。
11	10YR5/3	にぶい黄褐色土	シルト質土ブロック（7.5YR4/3灰黄褐色土）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
12	10YR5/3	にぶい黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。
13	10YR5/3	にぶい黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。
14	10YR4/3	にぶい黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。
15	10YR5/2	灰黄褐色土	砂質土。(10YR5/3) シルト質土ブロック（φ5〜10mm）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
16	10YR5/2	灰黄褐色土	砂質土。(10YR5/3) シルト質土ブロック（φ5〜10mm）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
17	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。
18	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。黒色粘土ブロック（φ5〜30mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
19	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。
20	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。細砂を多く含む。ラミナ状に堆積。
21	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質土。しまり良い。粘性弱い。



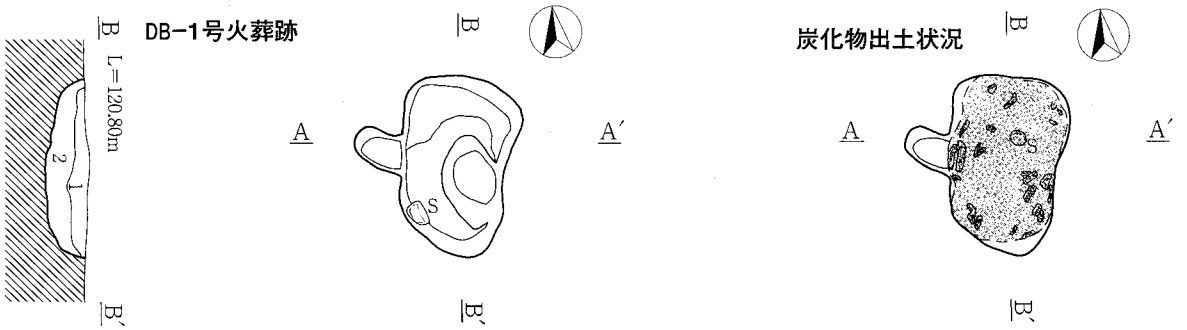
DB−1号土壙墓

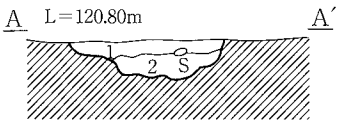
1	10YR3/3	暗褐色土	As-Bを少量含む。しまり良い。粘性あり。表土の色調に似る。

DB−2号土壙墓

1	10YR2/2	黒褐色土	As-Bを多量に含み、(10YR3/3) 暗褐色土ブロック（φ5〜20mm）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2	10YR3/2	黒褐色土	As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

Fig.22　I−4号井戸跡、DB−1・2号土壙墓





DB−1号火葬跡

1	10YR3/2	黒褐色土	シルトブロック（φ5〜20㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。人為的堆積。
2	10YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック（φ2〜10㎜）及び木炭を多く含む。しまり良い。粘性あり。火葬時の堆積土。焼骨片含む。

E−1号粘土採掘坑（土層説明文各セッション図共通、層序不同）

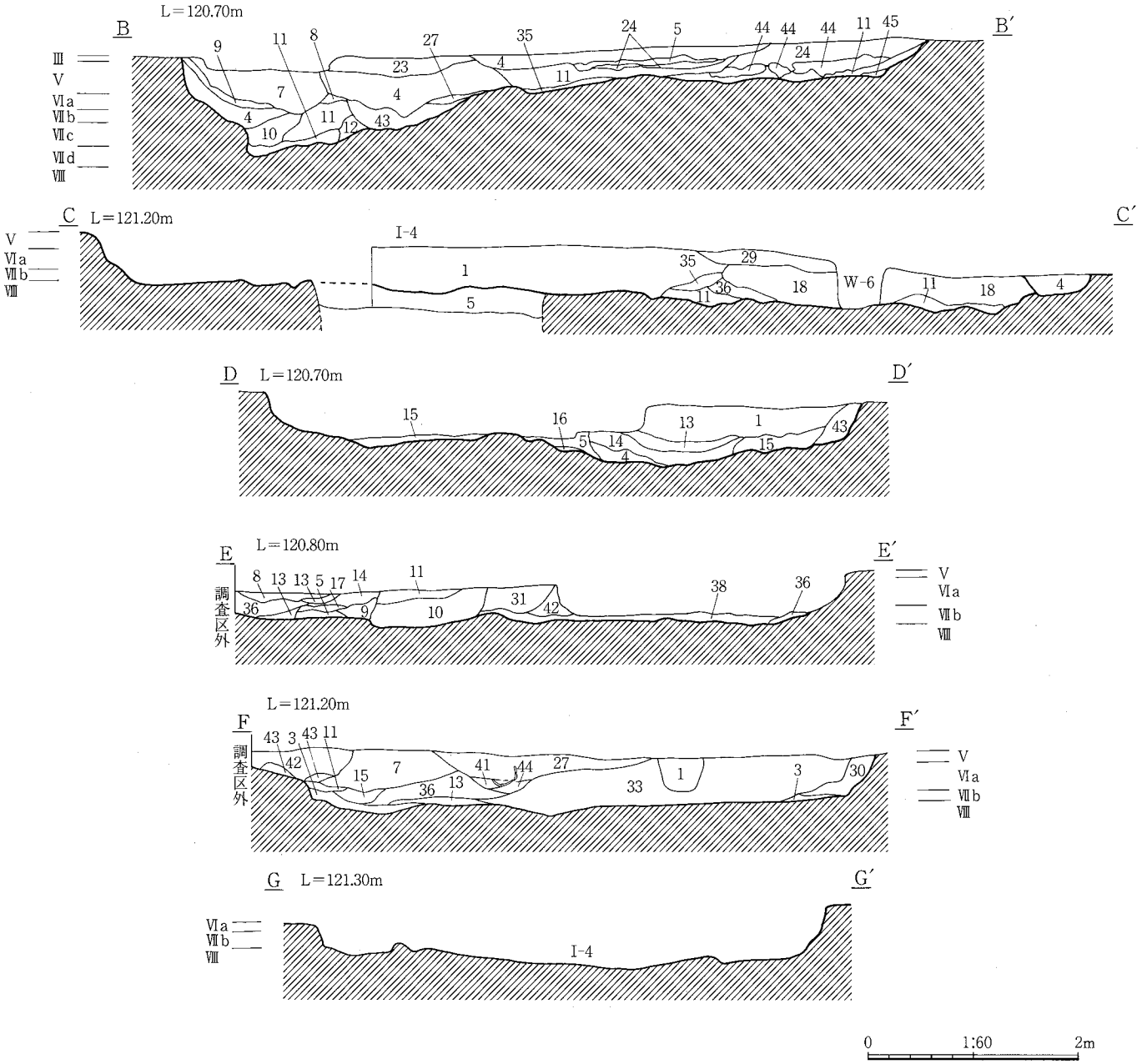


Fig.23　DB−1号火葬跡、E−1号粘土採掘坑

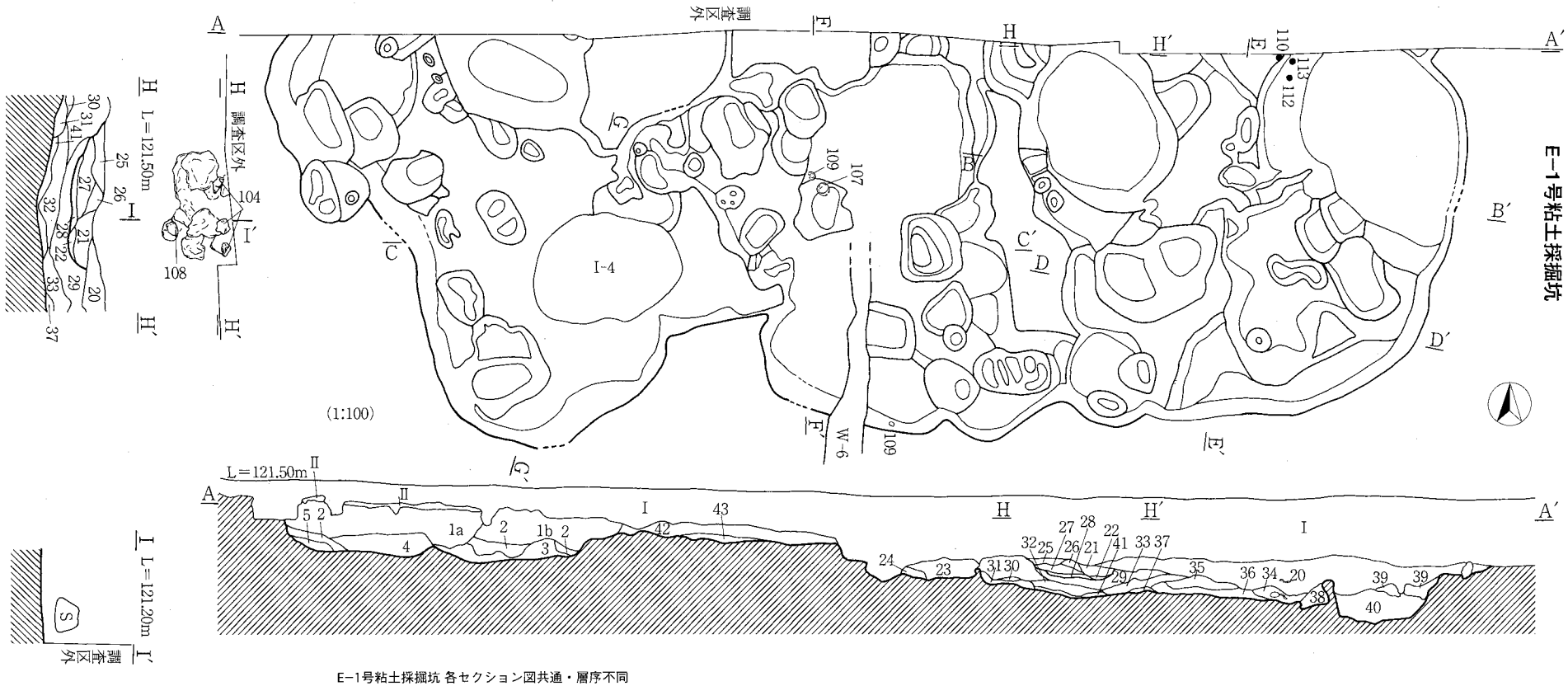
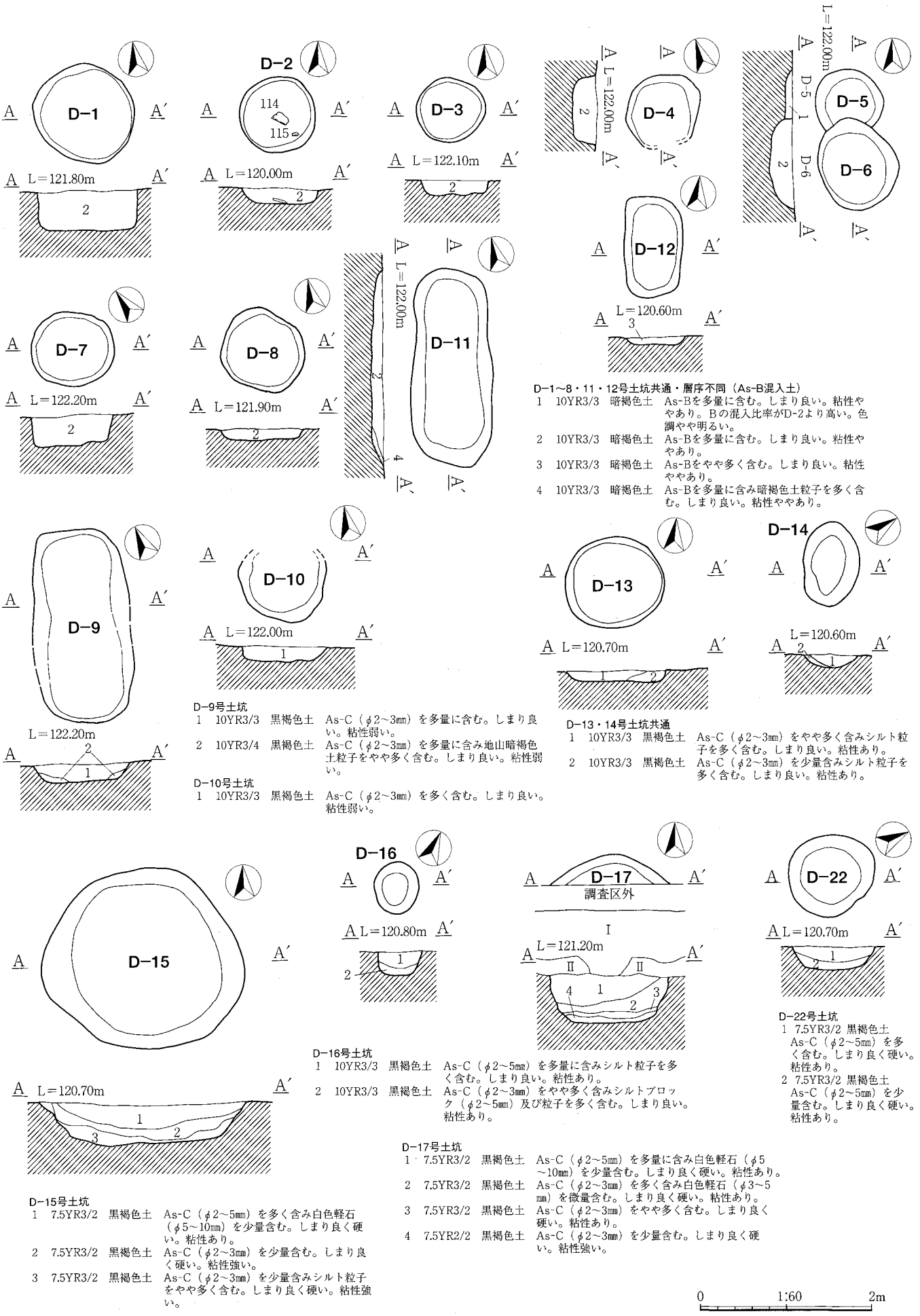


Fig.24 E-1号粘土採掘坑

E-1号粘土採掘坑 各セクション図共通・層序不同

各層As-C（φ2～5mm）、白色軽石（φ3～5mm）、しまり良く硬い。粘性あり。

1a	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、焼土粒子及び木炭（φ1～5mm）少量。
1b	10YR2/3	黒褐色土	As-C多。
2	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、シルトブロック（φ2～10mm）及び粒子多量。
3	10YR3/3	暗褐色土	(10YR6/3) シルトブロック（φ2～30mm）及び粒子を多量。
4	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、(10YR6/3) シルトブロック（φ2～20mm）やや多、白色軽石。
5	10YR2/3	黒褐色土	As-Cやや多、シルトブロック（φ2～10mm）及び粒子やや多、白色軽石少量。
6	10YR2/3	黒褐色土	As-C多量。
7	10YR2/3	黒褐色土	As-C多量、シルト粒子少量。
8	10YR2/3	黒褐色土	As-C、シルト粒子やや多。
9	10YR2/3	黒褐色土	シルトブロック少量。
10	10YR2/3	黒褐色土	シルトブロックやや多。
11	10YR2/3	黒褐色土	シルトブロック（φ2～10mm）、シルト粒子多量。
12	10YR2/3	黒褐色土	砂質土ブロック多量。
13	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、砂質土粒子やや多。
14	10YR2/3	黒褐色土	As-C、シルト粒子多。
15	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）多量、シルト粒子をやや多。
16	10YR2/3	黒褐色土	シルト粒子多量。
17	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）やや多、みシルト粒子多量。
18	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C多量、砂質土ブロック（φ2～10mm）やや多。
19	10YR2/3	黒褐色土	シルト粒子、砂質土粒子やや多。
20	10YR2/3	黒褐色土	As-C多量、白色軽石（φ3～5mm）やや多。
21	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、白色軽石（φ3～5mm）少量。
22	10YR2/3	黒褐色土	As-C少量。
23	10YR2/3	黒褐色土	As-C多量。
24	10YR2/3	黒褐色土	As-C少量、シルト質土ブロック（φ3～10mm）多量。
25	10YR2/3	黒褐色土	As-C少量、白色軽石（φ3～5mm）少量、シルト質土ブロック（φ3～10mm）やや多。
26	10YR2/3	黒褐色土	As-C少量、砂質土ブロック（φ2～20mm）多量。
27	10YR2/3	黒褐色土	As-Cやや多、砂質土ブロック（φ2～30mm）多。
28	10YR2/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）少量、砂質土ブロック（φ2～5mm）やや多。
29	10YR2/3	黒褐色土	As-C、白色軽石少量、砂質土ブロック（φ5～20mm）やや多。
30	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C多量。
31	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Cやや多。
32	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）多、微砂を多。
33	10YR2/3	黒褐色土	As-C、砂質土ブロック（φ2～5mm）やや多。
34	10YR2/3	黒褐色土	As-C、砂質土粒子やや多。
35	10YR2/3	黒褐色土	As-C、シルト粒子少量。
36	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Cやや多、砂質土ブロック（φ2～20mm）、シルト粒子多。
37	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C少量、砂質土粒子やや多。
38	10YR2/3	黒褐色土	As-C少量、砂質土ブロック（φ2～10mm）やや多。
39	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C多。黒色粘質土粒子少量。
40	10YR2/3	黒褐色土	As-C多、黒色粘質土ブロック（φ5～30mm）多量。
41	10YR2/3	黒褐色土	As-Cやや多、砂質土ブロック（φ2～20）及び粒子を多量。
42	10YR2/3	黒褐色土	As-C多。
43	10YR2/3	黒褐色土	粘質土。
44	10YR5/3	にぶい黄褐色土	砂質土ブロック主体。
45	10YR3/3	黒褐色土	砂質土ブロック（φ5～10mm）、同粒子多。



D-1～8・11・12号土坑共通・層序不同（As-B混入土）

1	10YR3/3	暗褐色土	As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。Bの混入比率がD-2より高い。色調やや明るい。
2	10YR3/3	暗褐色土	As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
3	10YR3/3	暗褐色土	As-Bをやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
4	10YR3/3	暗褐色土	As-Bを多量に含み暗褐色土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

D-9号土坑

1	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
2	10YR3/4	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多量に含み地山暗褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

D-10号土坑

1	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

D-13・14号土坑共通

1	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含みシルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含みシルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。

D-15号土坑

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多く含み白色軽石（φ5～10mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含みシルト粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。

D-16号土坑

1	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多量に含みシルト粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR3/3	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含みシルトブロック（φ2～5mm）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性あり。

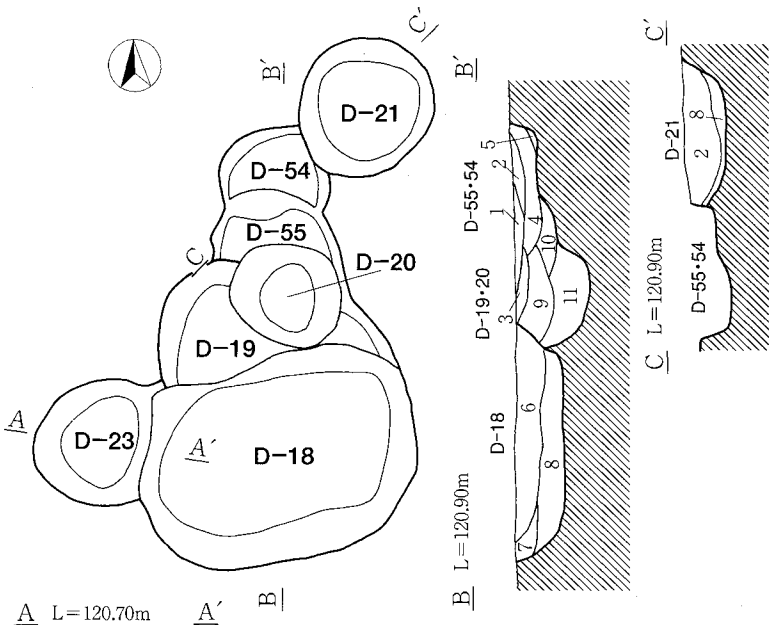
D-17号土坑

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多量に含み白色軽石（φ5～10mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含み白色軽石（φ3～5mm）を微量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
4	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。

D-22号土坑

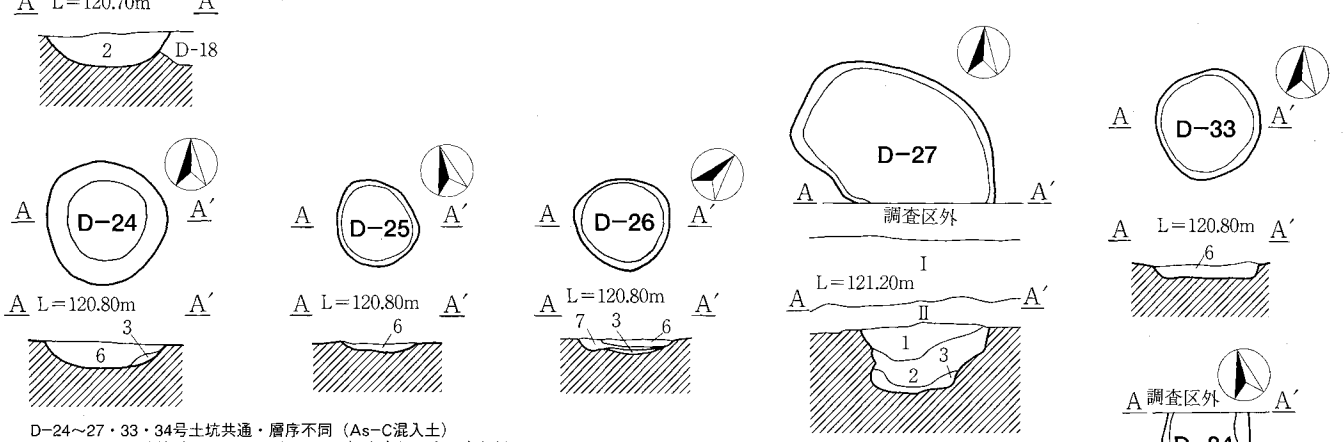
1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。

Fig.25　D-1～17・22号土坑



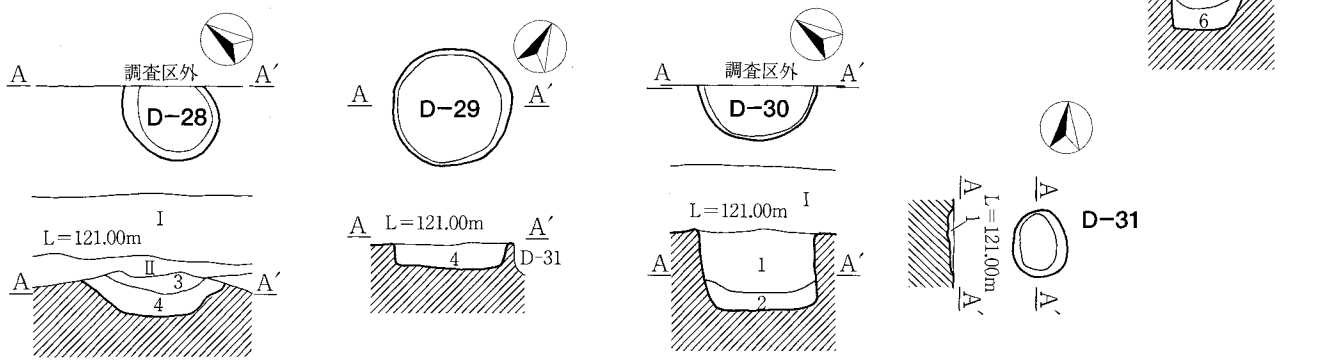
D-18～21・23・54・55号土坑共通・層序不同

1	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
3	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。黒褐色土ブロック（φ10～20）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
4	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。シルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	10YR3/2	黒褐色土	シルト粒子をやや多く含む。しまり良い粘性あり。
6	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ1～2mm）を多く含む。白色軽石（φ5～10）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
7	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
8	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
9	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を少量含む。シルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
10	10YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
11	10YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含む。黒褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。



D-24～27・33・34号土坑共通・層序不同（As-C混入土）

1	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～5mm）を多量に含み白色軽石（φ5～10mm）を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2	7.5YR3/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含み白色軽石（φ3～5mm）を微量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
4	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ1～3mm）を多量に含む。砂岩ブロック（φ2～3mm）を多く含む。しまり良い。粘性あり。
5	10YR3/3	暗褐色土	As-C（φ2～3mm）をやや多く含む。砂岩ブロック（φ2～3mm）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
6	7.5YR2/2	黒褐色土	As-C（φ2～3mm）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
7	7.5YR3/2	黒褐色土	As-Cを多量に含む。しまり良く硬い。粘性あり。



D-28～32・36号土坑共通・層序不同（As-B混入土）

1	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Bを多量に含む。（10YR3/3）暗褐色土ブロック（φ5～20mm）及び粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
2	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Bを多量に含む。（10YR3/3）暗褐色土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Bを多量に含む。（10YR3/3）暗褐色土ブロック（φ5～10mm）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
4	7.5YR2/2	黒褐色土	As-Bを多量に含む。（10YR3/3）暗褐色土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。

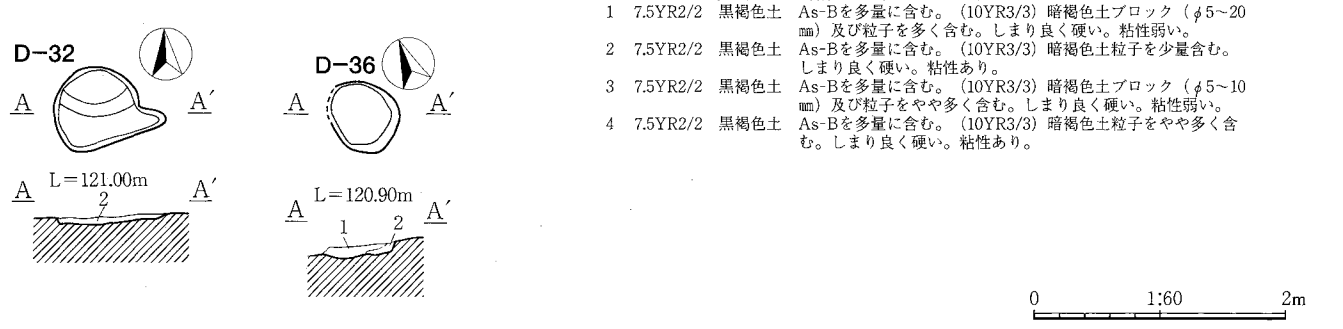
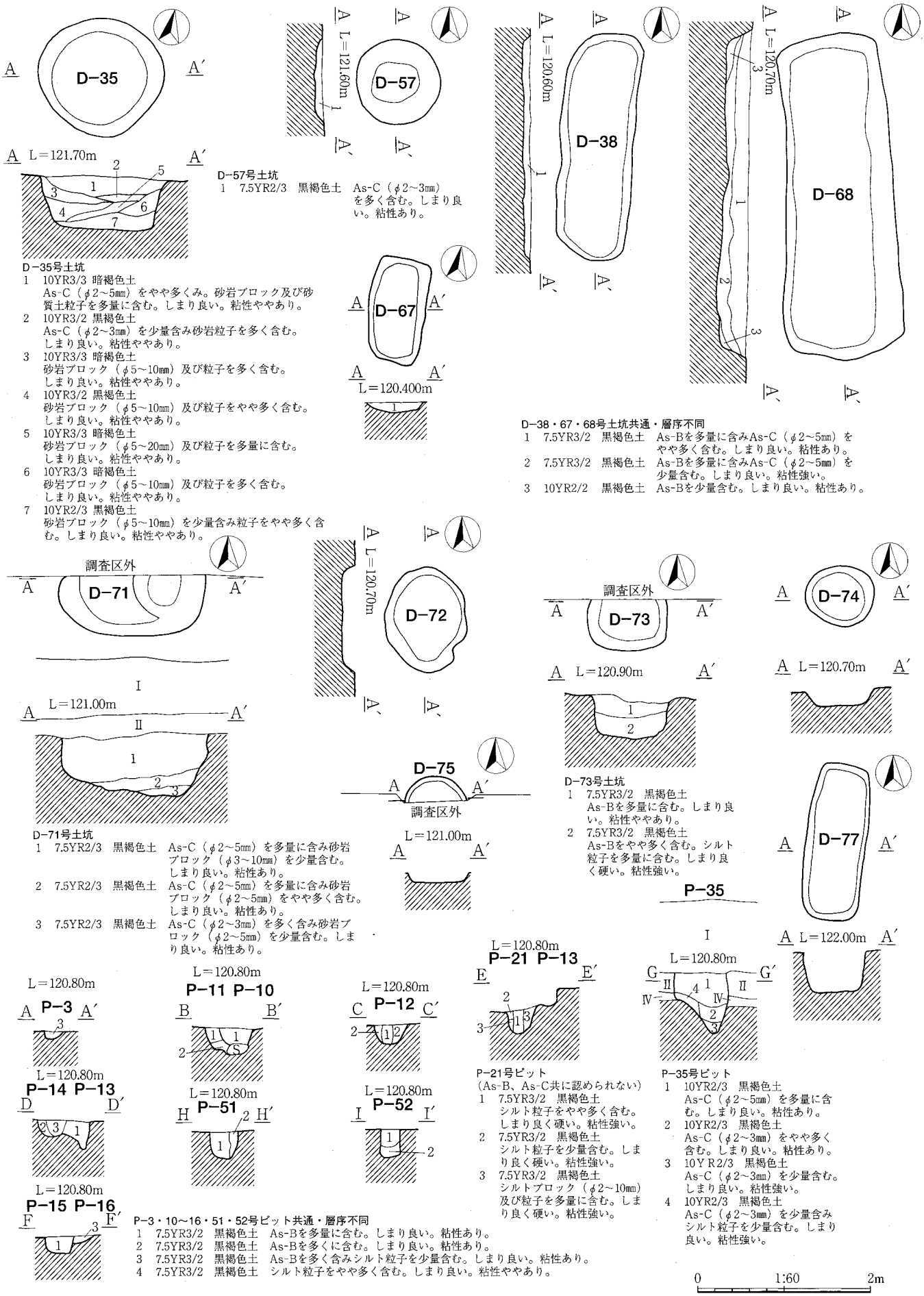


Fig.26　D－18～21・23～34・36・54・55号土坑



D−35号土坑
1 10YR3/3 暗褐色土
As-C（φ2～5㎜）をやや多くみ。砂岩ブロック及び砂質土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2 10YR3/2 黒褐色土
As-C（φ2～3㎜）を少量含み砂岩粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
3 10YR3/3 暗褐色土
砂岩ブロック（φ5～10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
4 10YR3/2 黒褐色土
砂岩ブロック（φ5～10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
5 10YR3/3 暗褐色土
砂岩ブロック（φ5～20㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
6 10YR3/3 暗褐色土
砂岩ブロック（φ5～10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややあり。
7 10YR2/3 黒褐色土
砂岩ブロック（φ5～10㎜）を少量含み粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

D−57号土坑
1 7.5YR2/3 黒褐色土 As-C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良い。粘性あり。

D−38・67・68号土坑共通・層序不同
1 7.5YR3/2 黒褐色土 As-Bを多量に含みAs-C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
2 7.5YR3/2 黒褐色土 As-Bを多量に含みAs-C（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性強い。
3 10YR2/2 黒褐色土 As-Bを少量含む。しまり良い。粘性あり。

D−71号土坑
1 7.5YR2/3 黒褐色土 As-C（φ2～5㎜）を多量に含み砂岩ブロック（φ3～10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。
2 7.5YR2/3 黒褐色土 As-C（φ2～5㎜）を多量に含み砂岩ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3 7.5YR2/3 黒褐色土 As-C（φ2～3㎜）を多く含み砂岩ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性あり。

D−73号土坑
1 7.5YR3/2 黒褐色土
As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややあり。
2 7.5YR3/2 黒褐色土
As-Bをやや多く含む。シルト粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。

P−21号ピット
（As-B、As-C共に認められない）
1 7.5YR3/2 黒褐色土
シルト粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。
2 7.5YR3/2 黒褐色土
シルト粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
3 7.5YR3/2 黒褐色土
シルトブロック（φ2～10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。

P−35号ピット
1 10YR2/3 黒褐色土
As-C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2 10YR2/3 黒褐色土
As-C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性あり。
3 10YR2/3 黒褐色土
As-C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性強い。
4 10YR2/3 黒褐色土
As-C（φ2～3㎜）を少量含みシルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性強い。

P−3・10～16・51・52号ピット共通・層序不同
1 7.5YR3/2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。しまり良い。粘性あり。
2 7.5YR3/2 黒褐色土 As-Bを多くに含む。しまり良い。粘性あり。
3 7.5YR3/2 黒褐色土 As-Bを多く含みシルト粒子を少量含む。しまり良い。粘性あり。
4 7.5YR3/2 黒褐色土 シルト粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややあり。

Fig.27 D−35・38・57・67・68・71～75・77号土坑、P−3・10～16・21・35・51・52号ピット

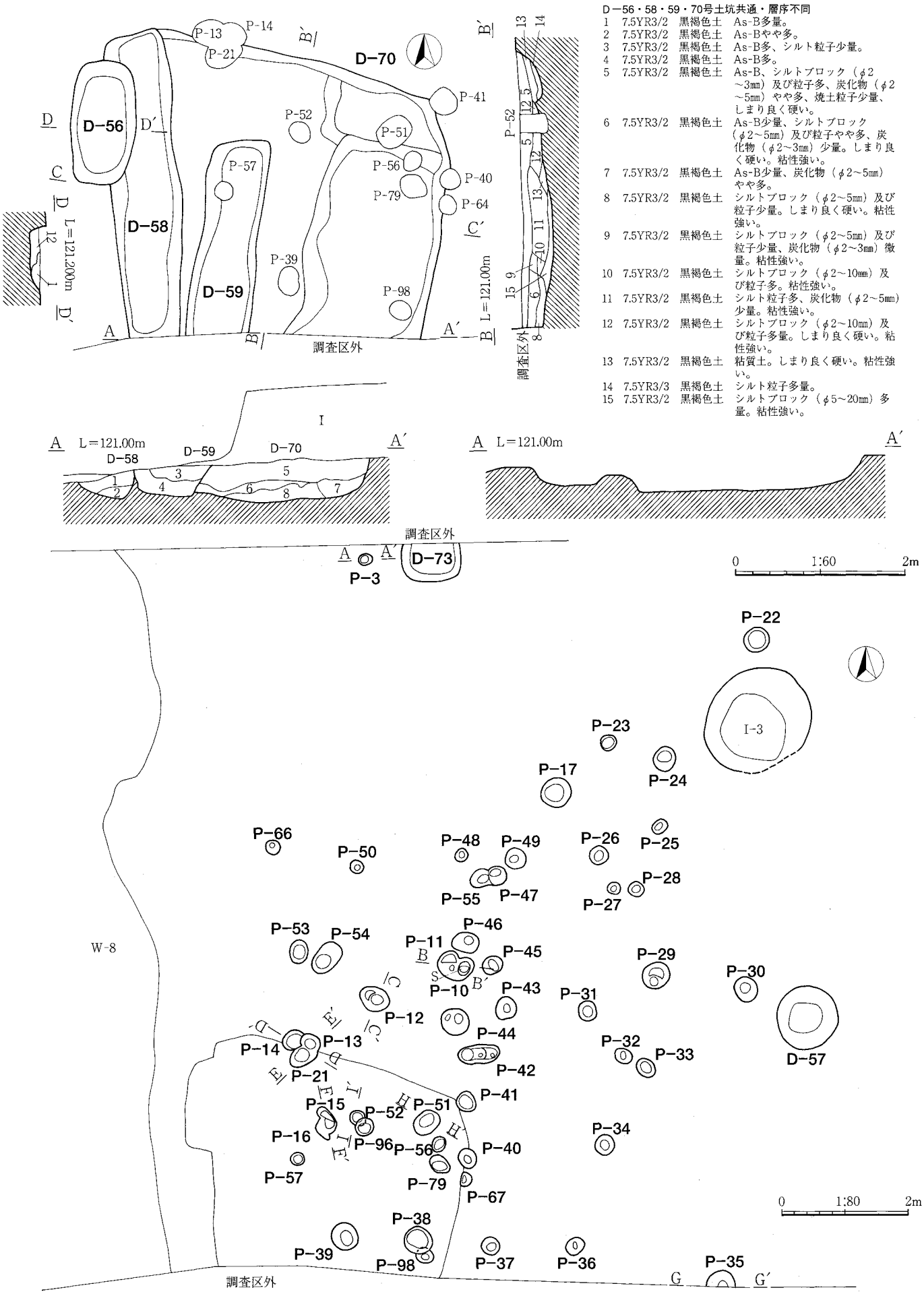


Fig.28 D−56〜59・70・73号土坑、P−3・10〜17・21〜57・66・67・79・96・98号ピット

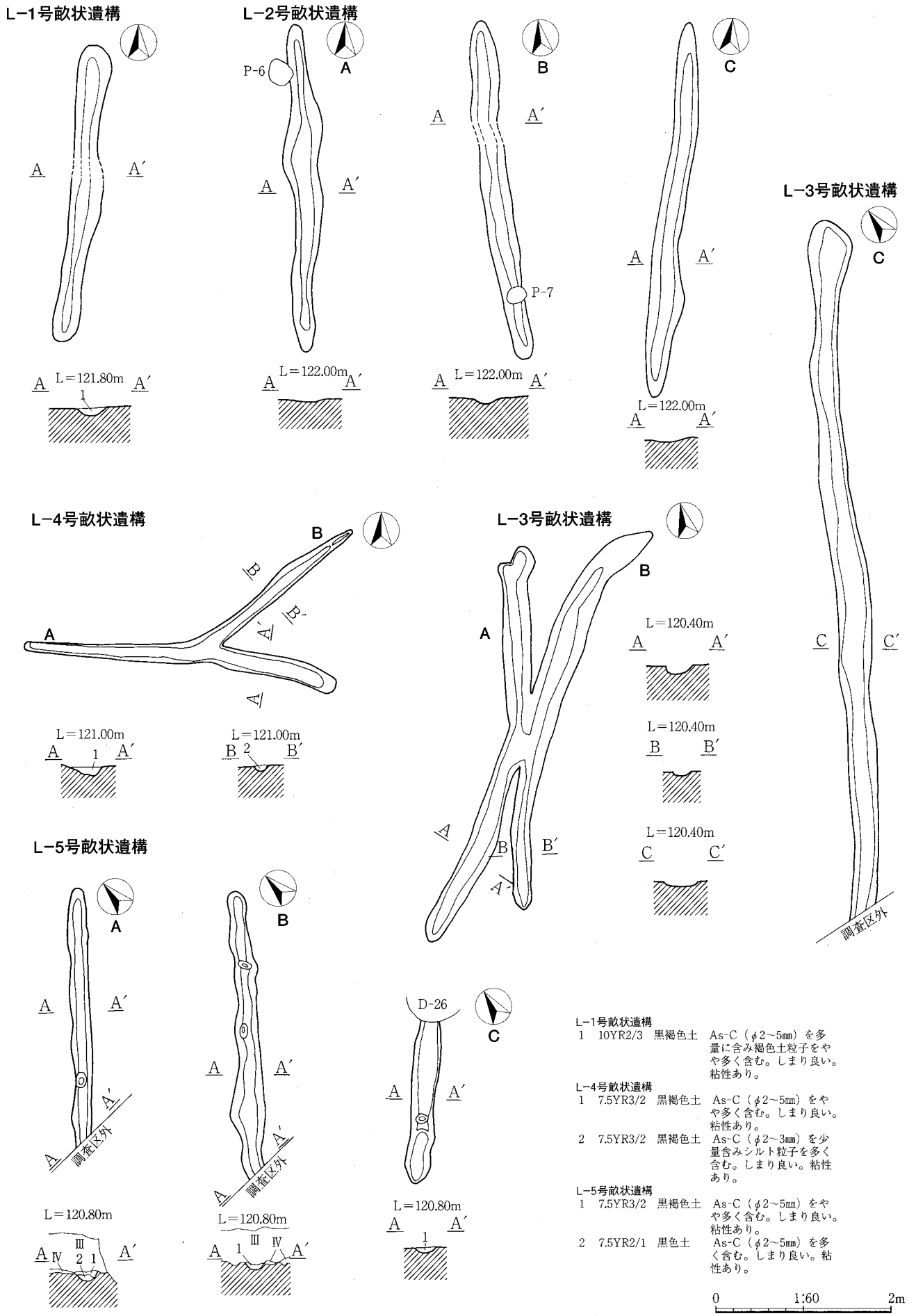


Fig.29　L−1～5号畝状遺構

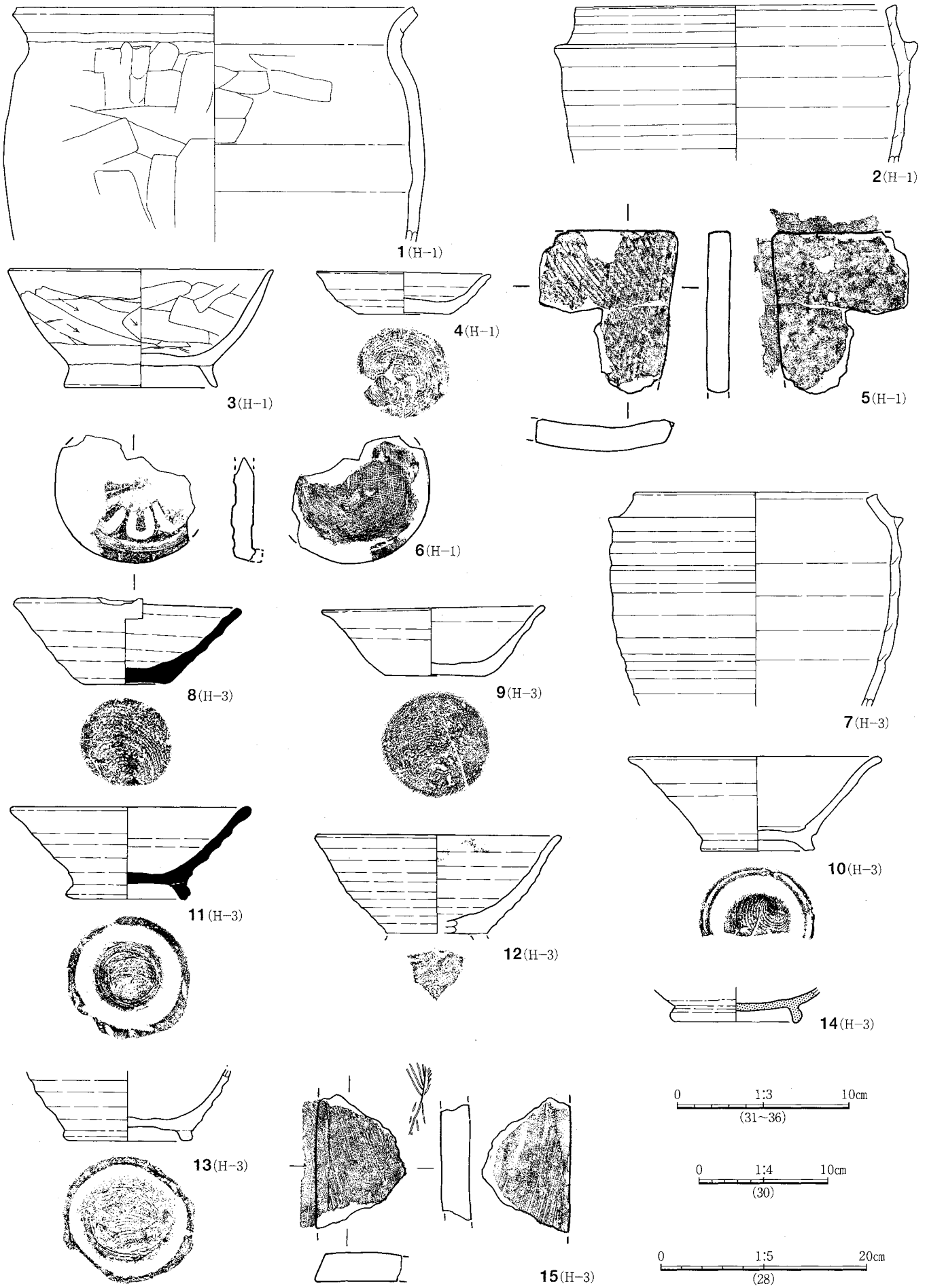


Fig.30　H－1・3号住居跡出土遺物

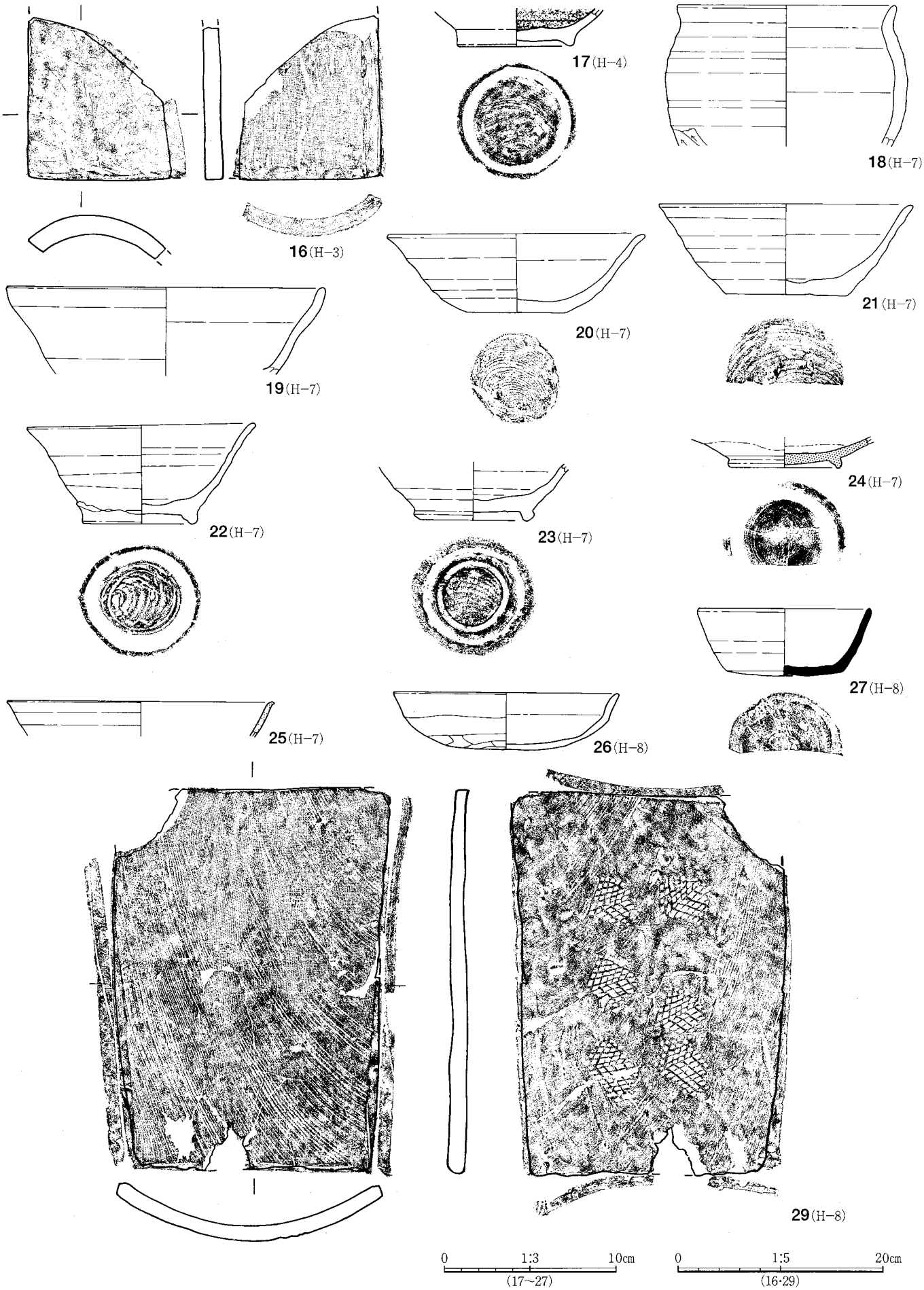


Fig.31　H－3・4・7・8号住居跡出土遺物

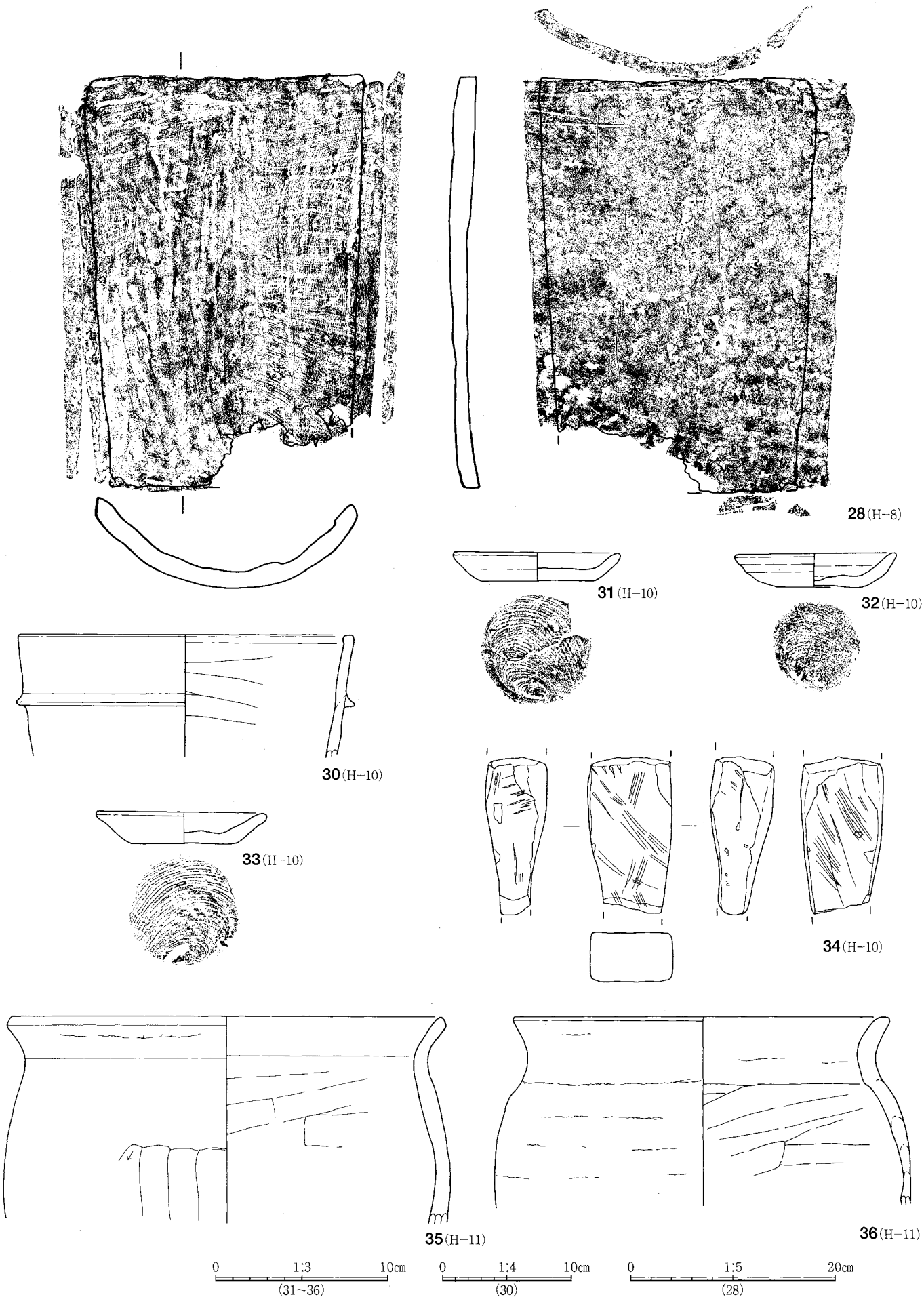


Fig.32　H－8・10・11号住居跡出土遺物

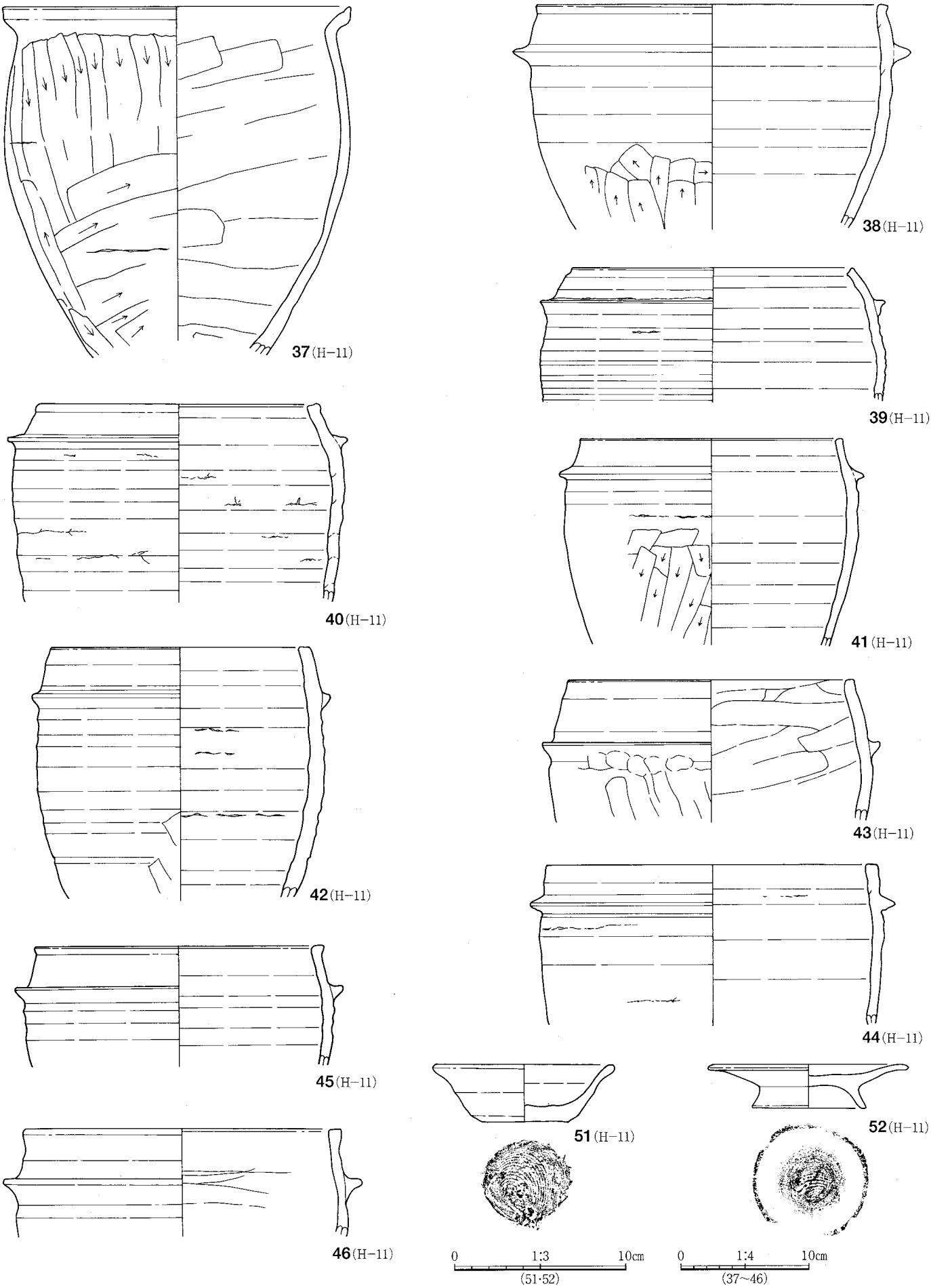


Fig.33　H−11号住居跡出土遺物

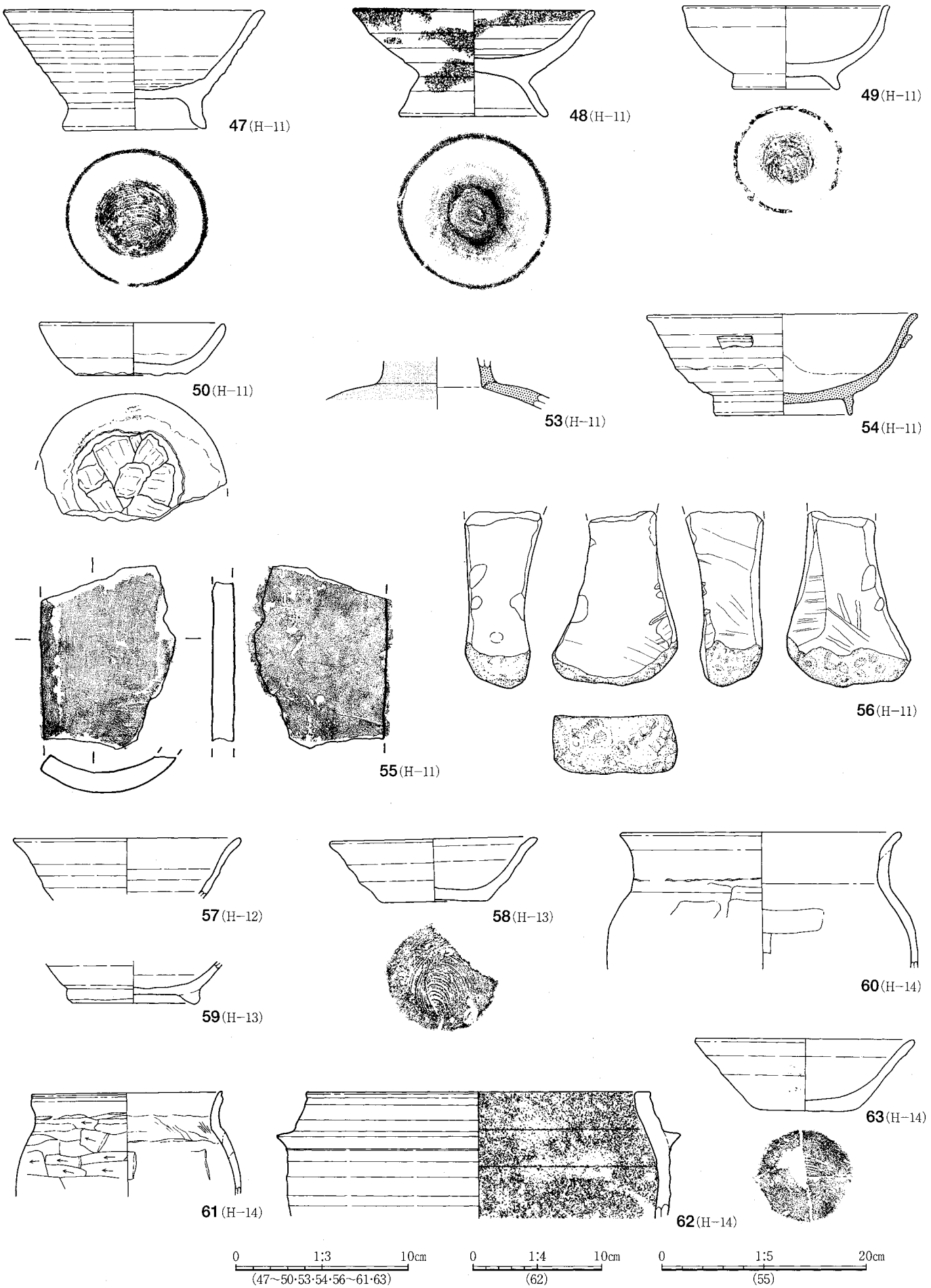


Fig.34　H−11〜14号住居跡出土遺物

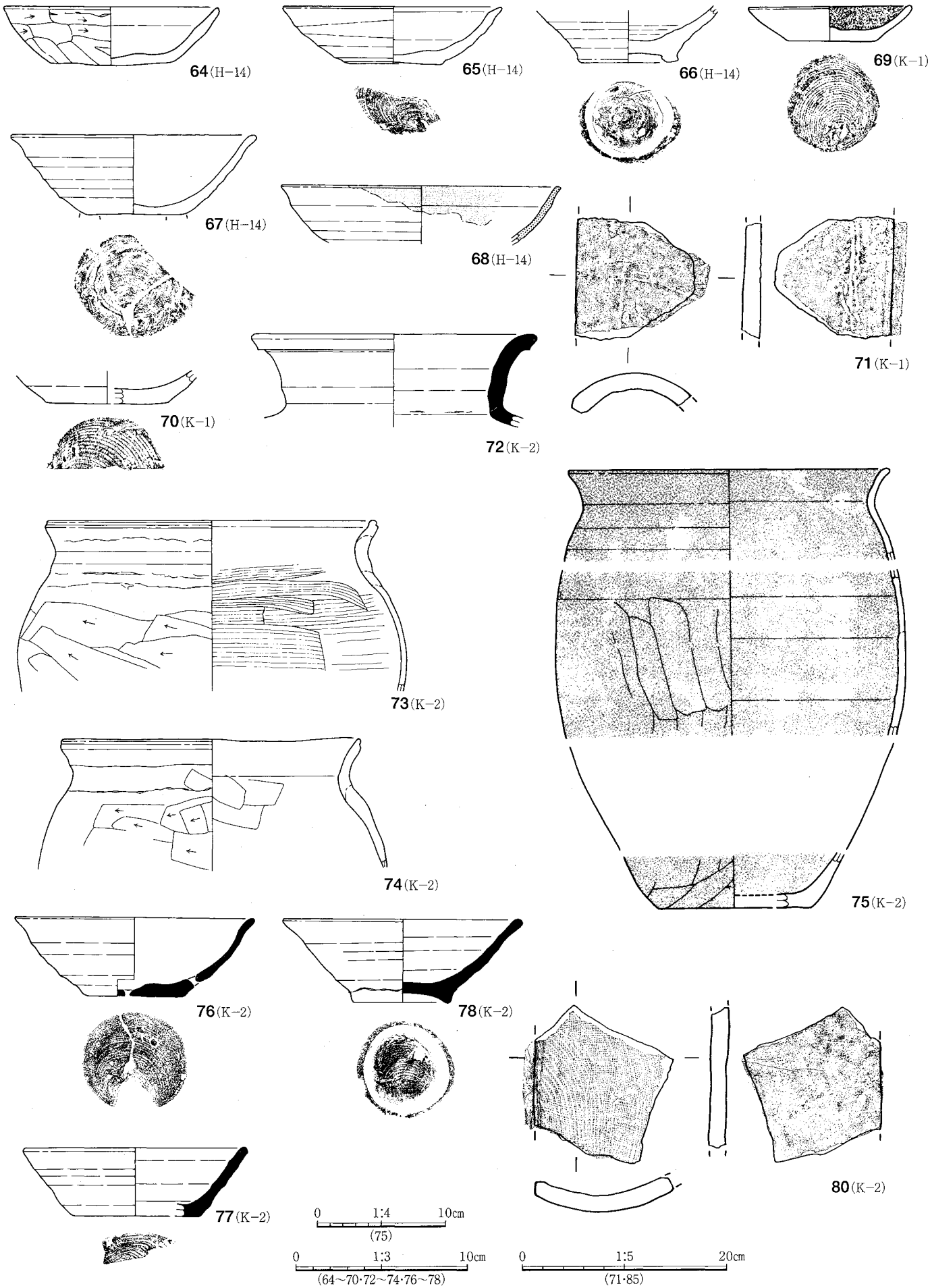


Fig.35　H−14号住居跡、K−1・2号工房跡出土遺物

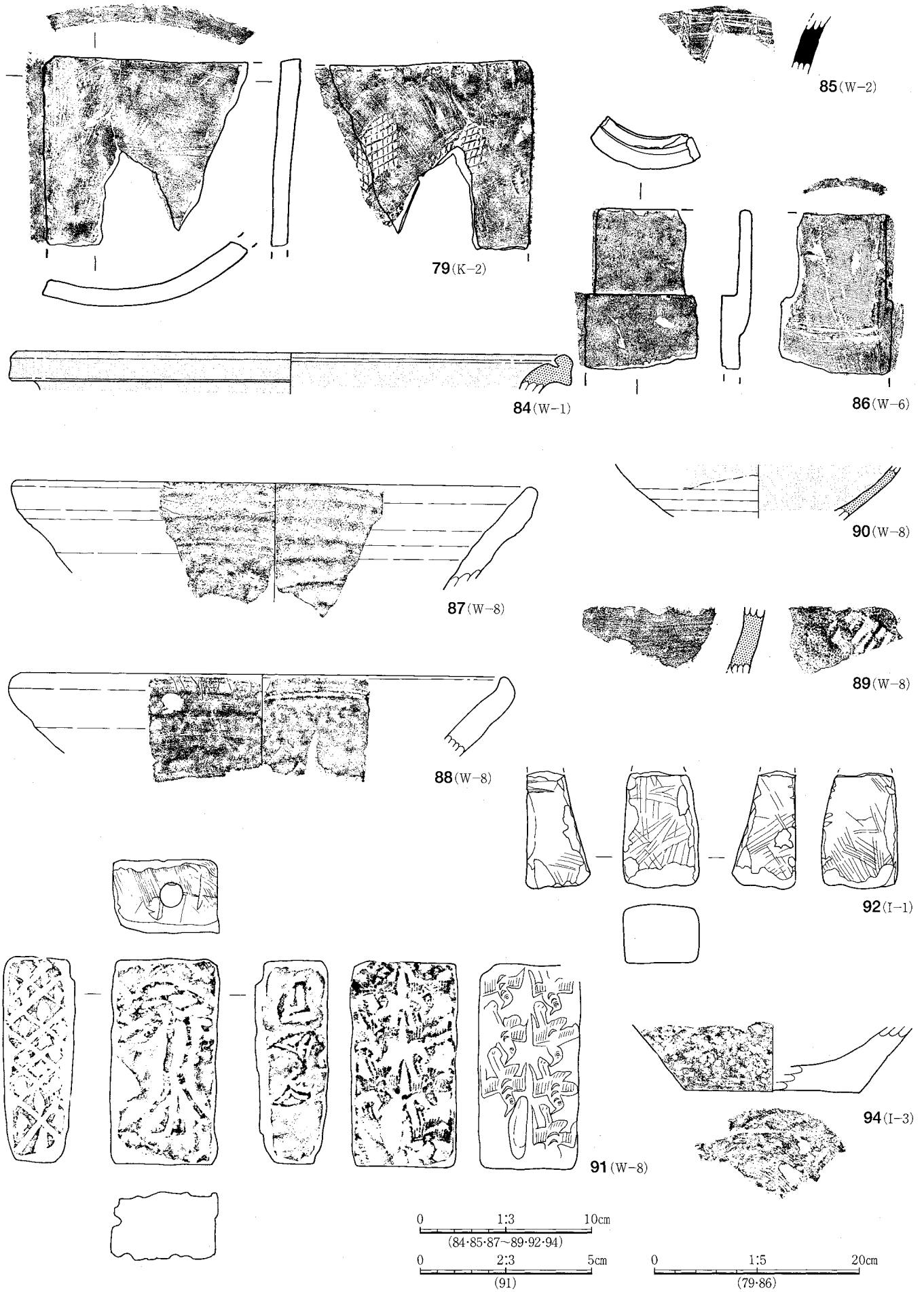
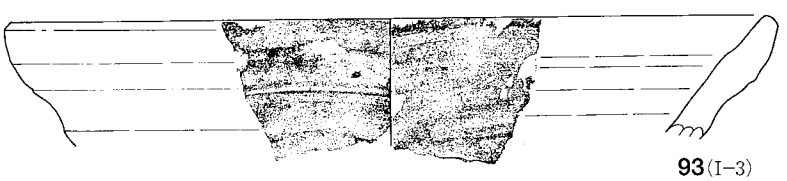
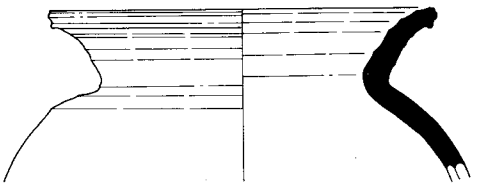


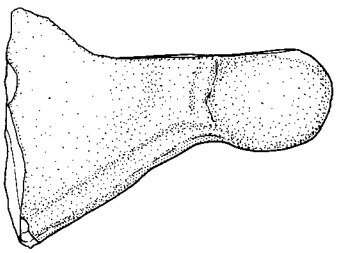
Fig.36　K－2号工房跡、W－1・2・6・8号溝跡、Ｉ－1・3号井戸跡出土遺物



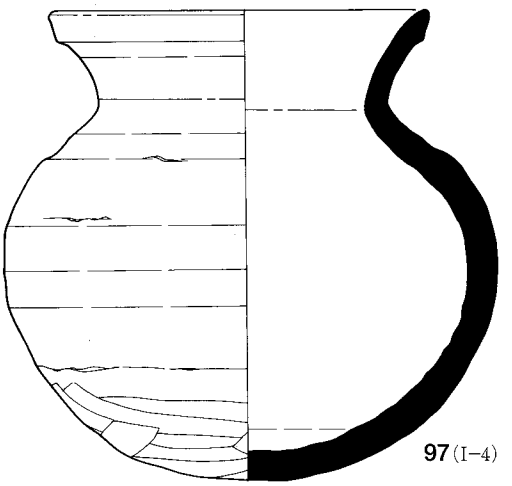
93(I-3)



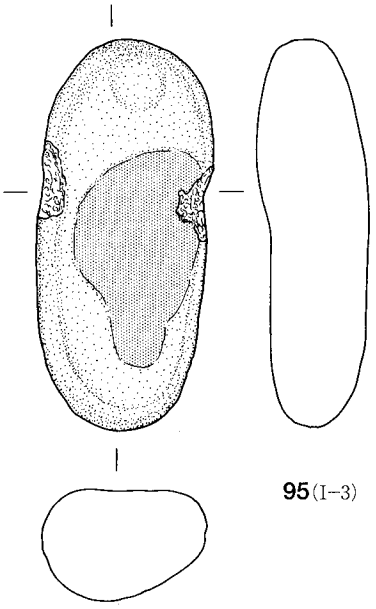
98(I-4)



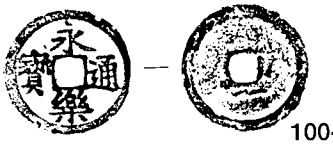
96(I-3)



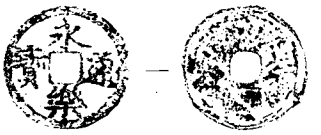
97(I-4)



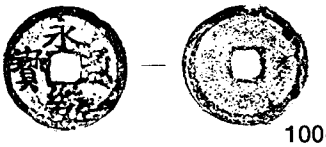
95(I-3)



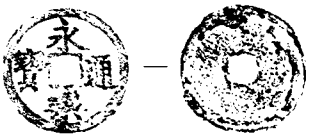
100-A(DB-1)



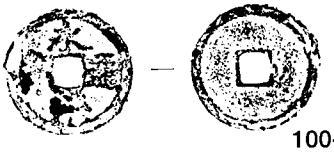
101-A(DB-1)



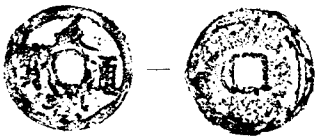
100-B(DB-1)



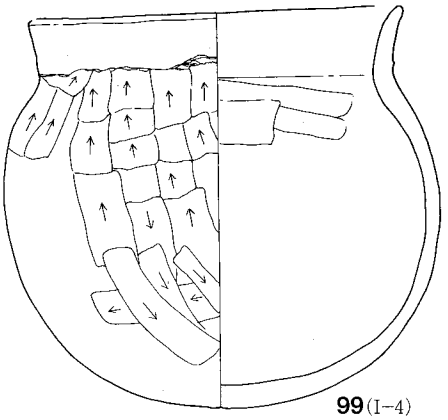
101-B(DB-1)



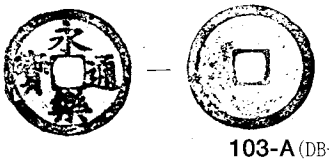
100-C(DB-1)



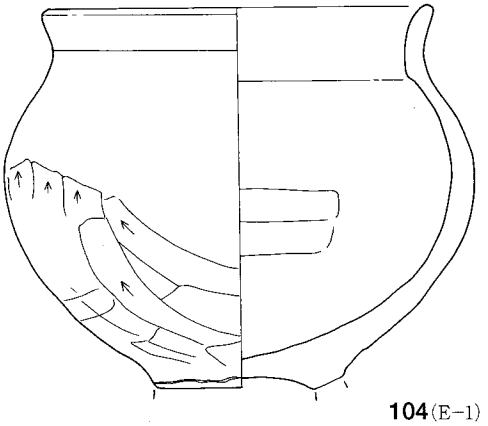
101-C(DB-1)



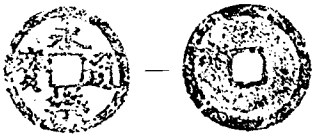
99(I-4)



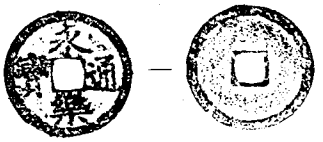
103-A(DB-2)



104(E-1)



102(DB-2)



103-B(DB-2)

0 1:3 10cm (93·95·96·98·99·104)　0 2:3 5cm (100~103)　0 1:4 10cm (97)

Fig.37　I－3・4号井戸跡、DB－1・2号土壙墓、E－1号粘土採掘坑出土遺物

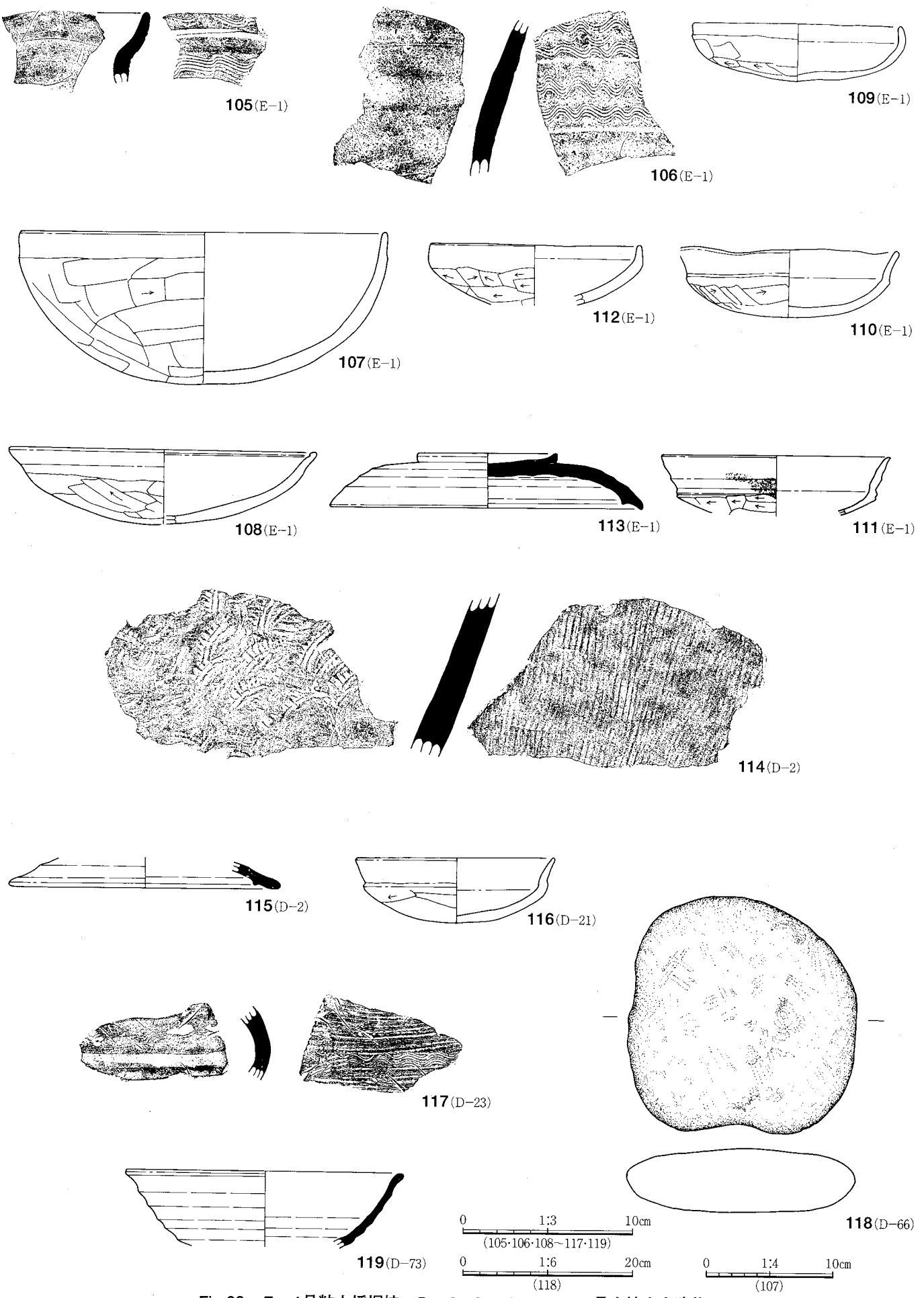


Fig.38　E－1号粘土採掘坑、D－2・21・23・66・73号土坑出土遺物

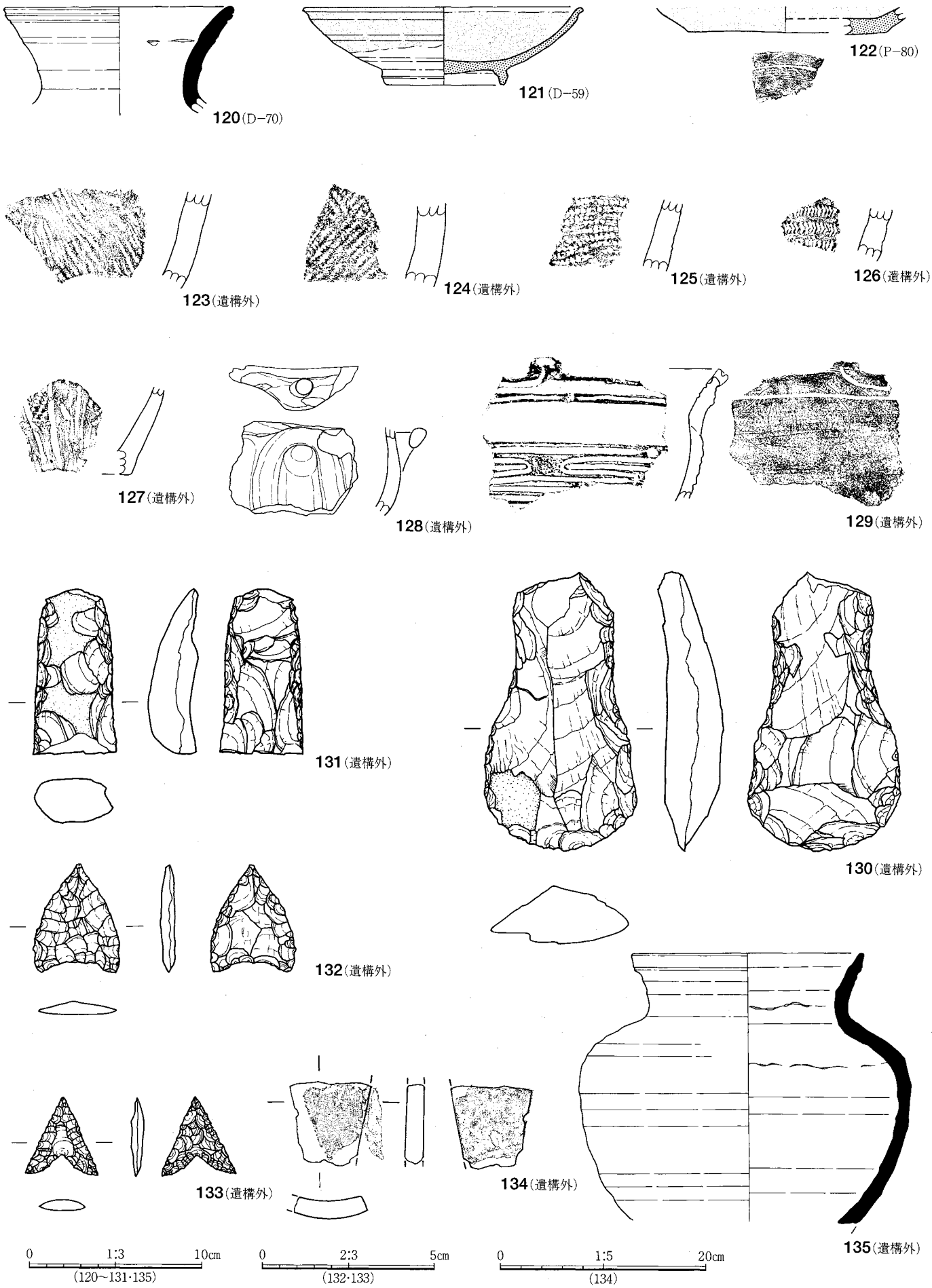
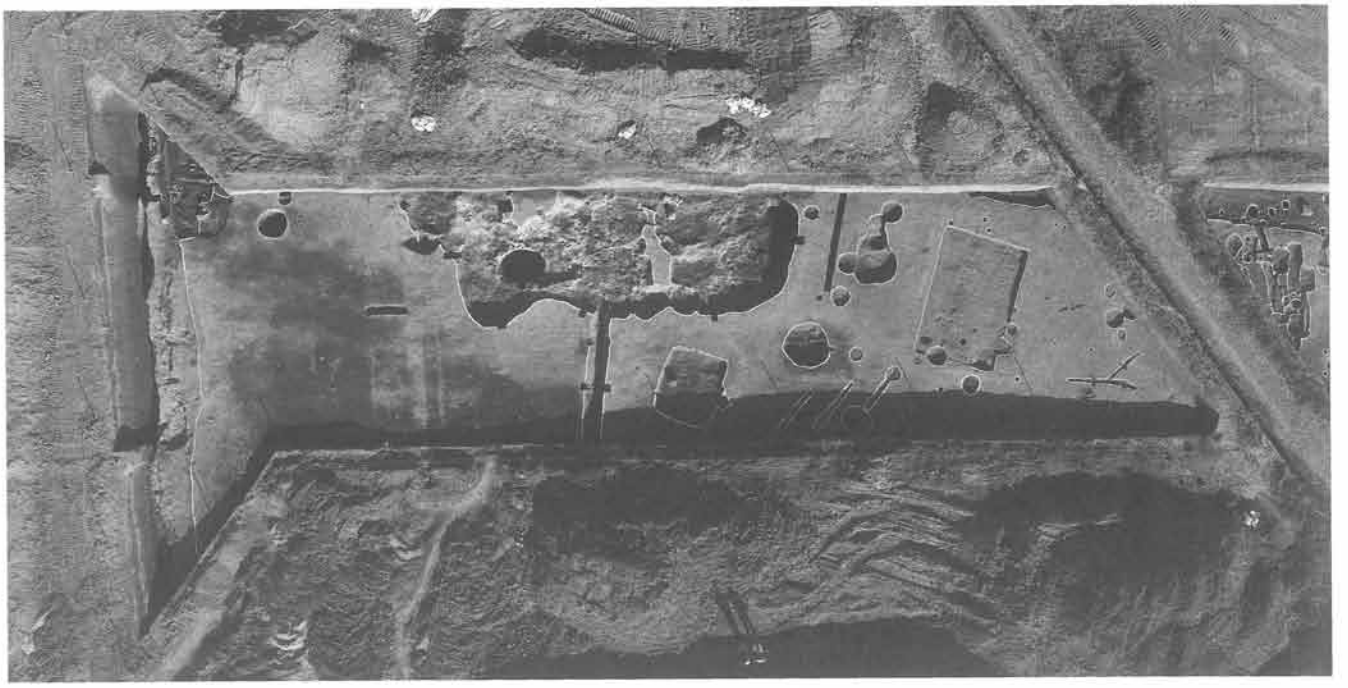
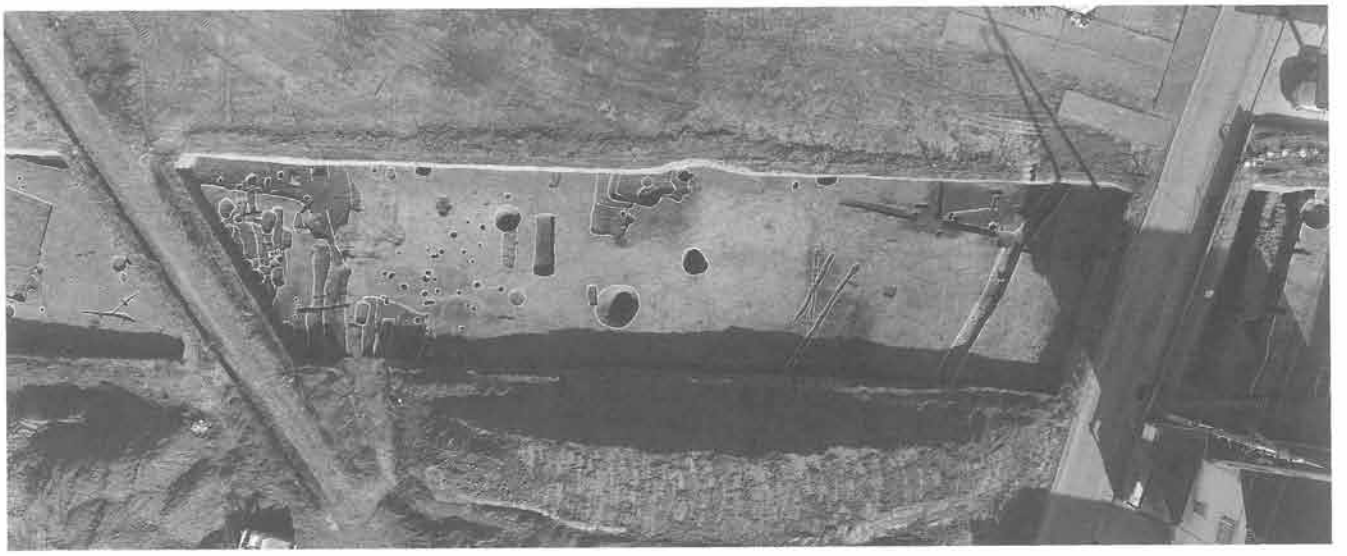


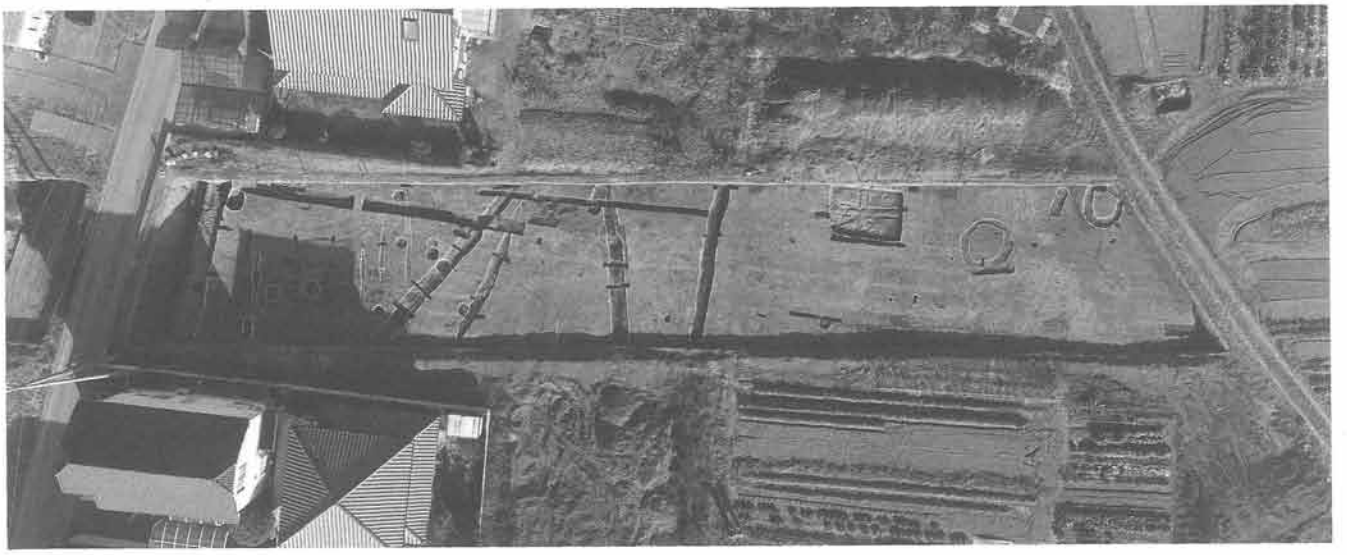
Fig.39　D−59・70号土坑、P−80号ピット、遺構外出土遺物



西区全景（上が北方向）

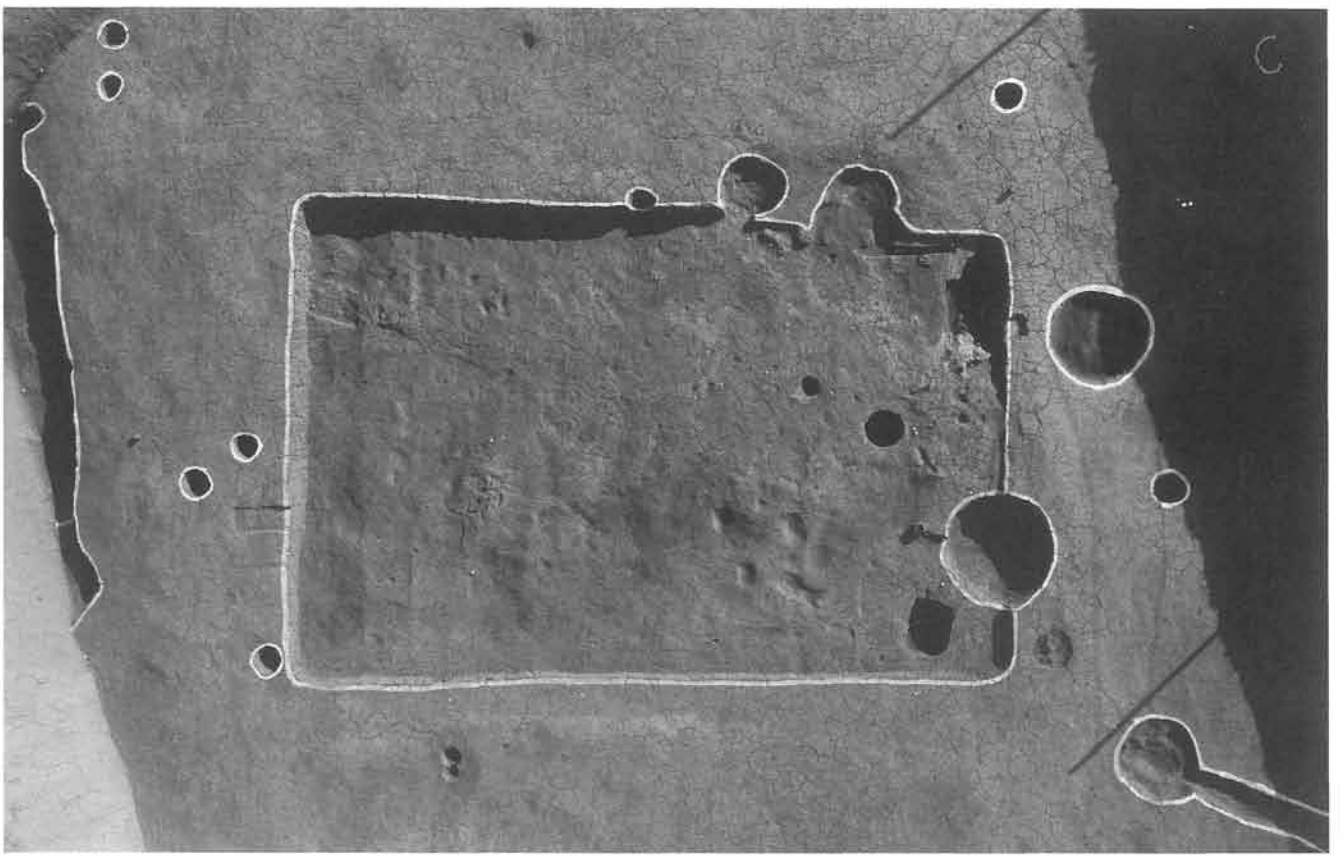


中央区全景（上が北方向）

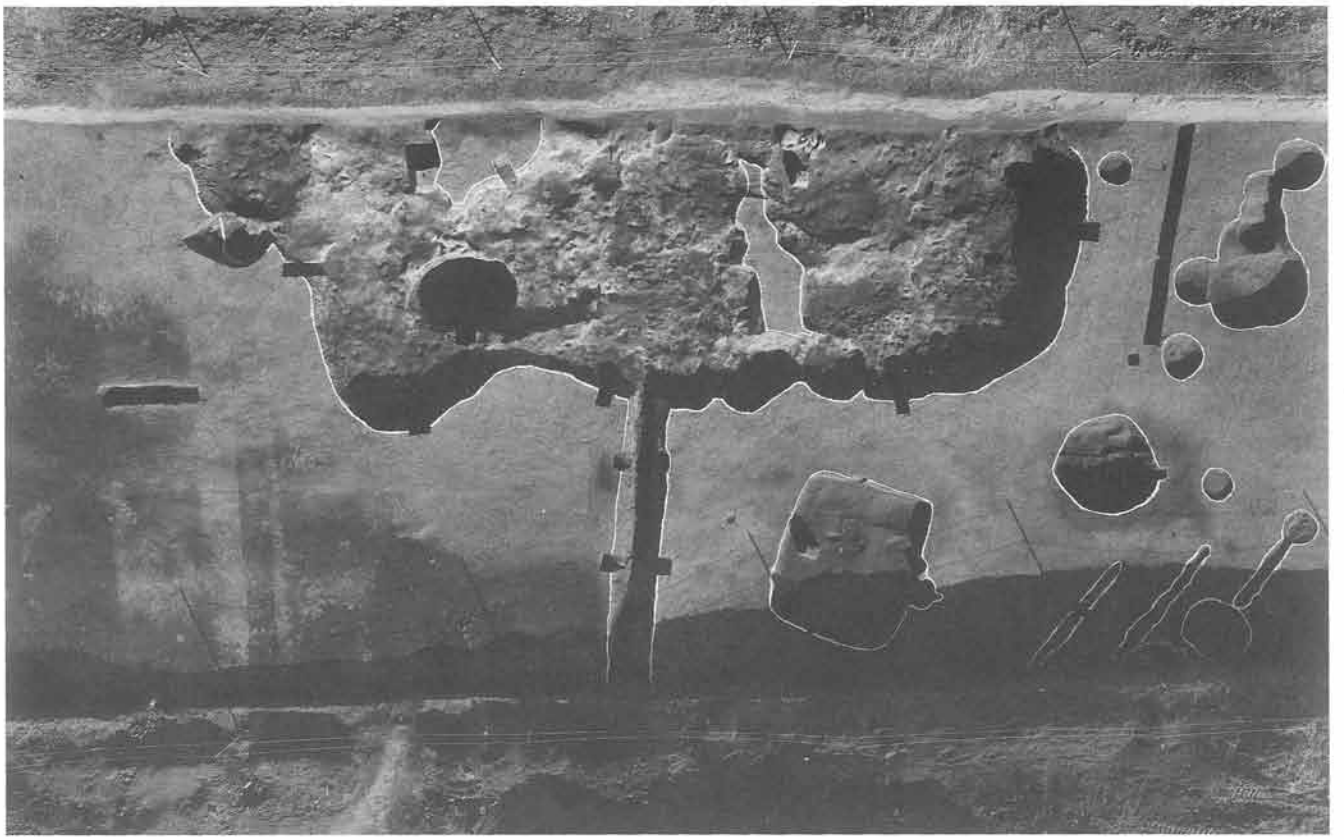


東区全景（上が北方向）

遺跡地から榛名山を望む



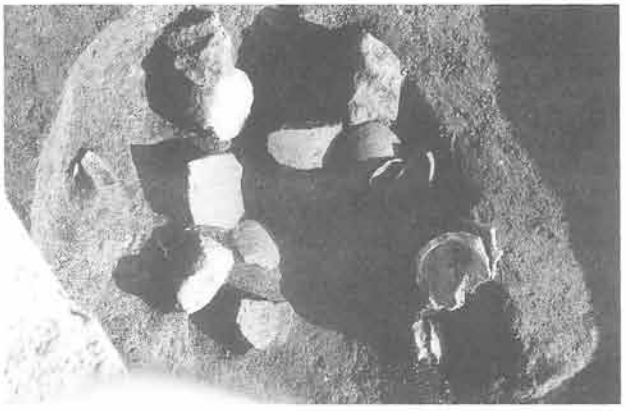
K－2号工房跡全景（左側が北方向）



E－1号粘土採掘坑全景（上が北方向）

中央区基本堆積土層

H－1号住居跡全景（西から）



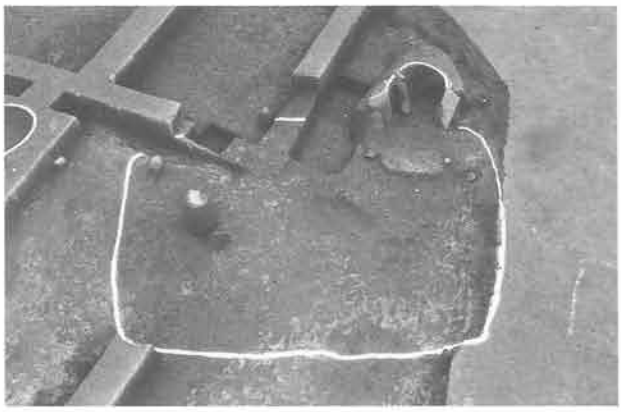
H－1号住居跡竈遺物出土状況（西から）

H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

H－3～6・12号住居跡全景（西から）

H－7号住居跡全景（西から）

H－7号住居跡掘り方（西から）



H－8号住居跡全景（西から）

H－8号住居跡竈（西から）

H－10号住居跡全景（西から）

H－10号住居跡竈（北西から）

H－11号住居跡遺物出土状況（南から）

H－11号住居跡全景（南から）

H－11号住居跡竈（西から）

H－13号住居跡竈遺物出土状況（西から）

H－13号住居跡竈完掘（西から）

H－14号住居跡全景（北から）

H－14号住居跡遺物出土状況（北東から）

K－1号工房跡浅間B軽石堆積状況（南東から）

K－1号工房跡土層断面（南から）

K－1号工房跡全景（東から）

K－1号工房跡西半（東から）

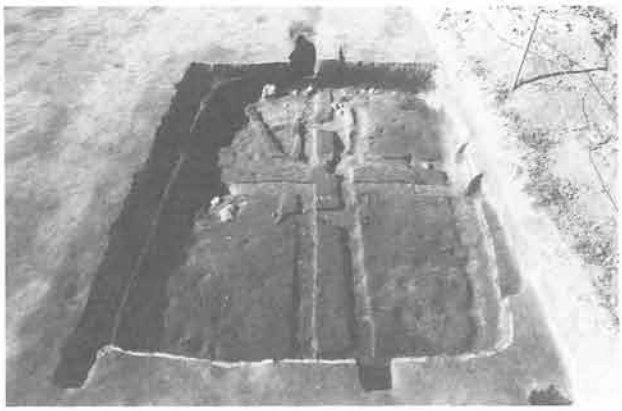
K－1号工房跡竈様施設遺物出土状況（北東から）

K－1号工房跡硬化面・火床部検出状況（東から）

K－1号工房跡竈様施設全景（北東から）

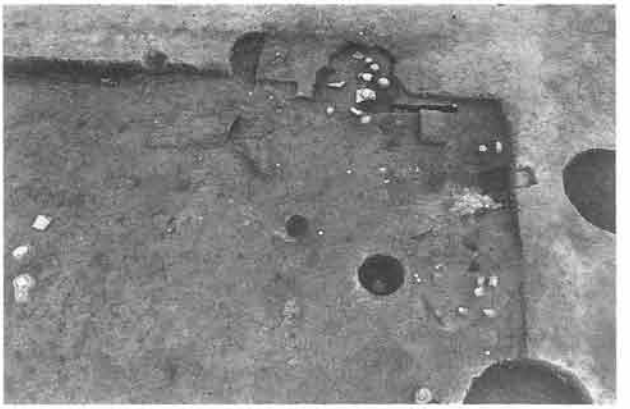
K－1号工房跡竈様施設西側土層断面（北から）

K－1号工房跡竈様施設断ち割り状況（北東から）



K－1号工房跡調査終了全景（東から）

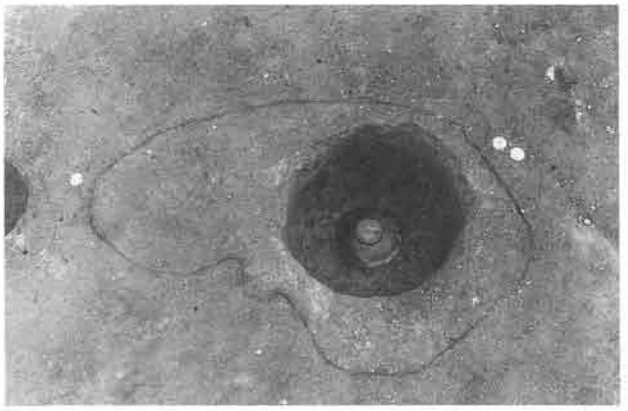
K－2号工房跡遺物出土状況全景（南から）



K－2号工房跡南東部（西から）

K－2号工房跡竈様施設遺物出土状況（西から）

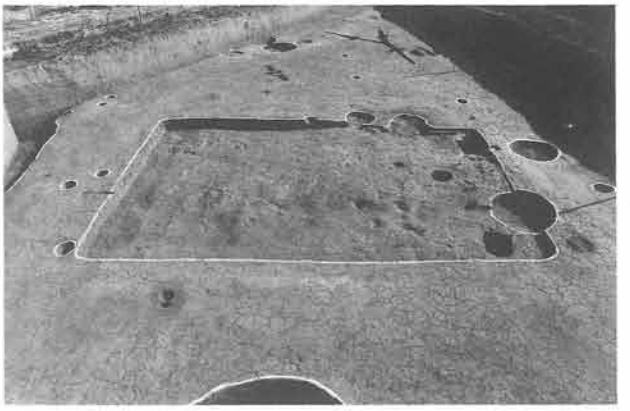
K－2号工房跡P_1土層断面（西から）



K－2号工房跡P_1遺物出土状況・周辺火床部（西から）

K－2号工房跡P_1・P_2近景（西から）

K－2号工房跡金片出土状況（南から）



K－2号工房跡完掘全景（西から）

K－2号工房跡P4近景（南から）

K－2号工房跡掘り方全景（西から）

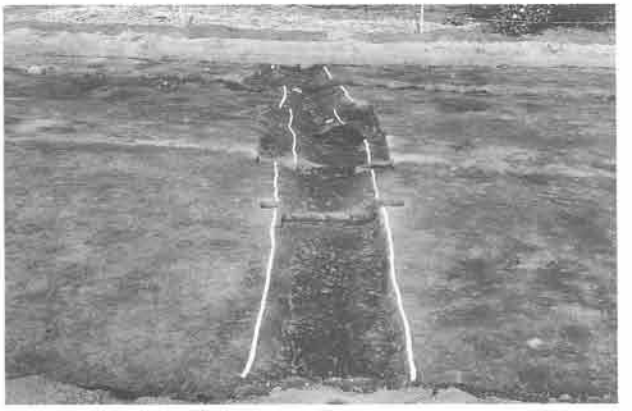
K－2号工房跡南東部掘り方近景（西から）

A－1号道路状遺構全景（南西から）

A－1号道路状遺構南西部掘り方（北東から）

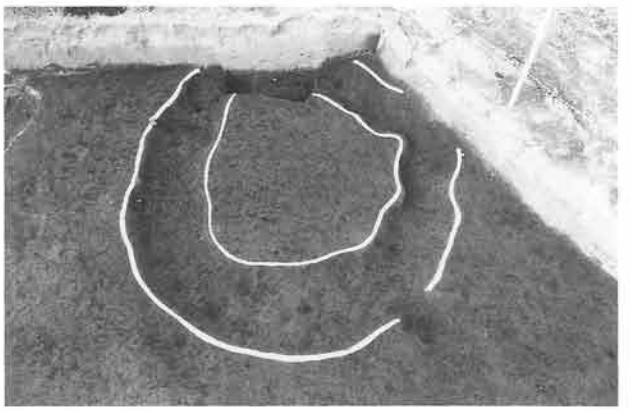
A－1号道路状遺構北東部小礫敷設状況（南東から）

A－1号道路状遺構土層断面（南西から）

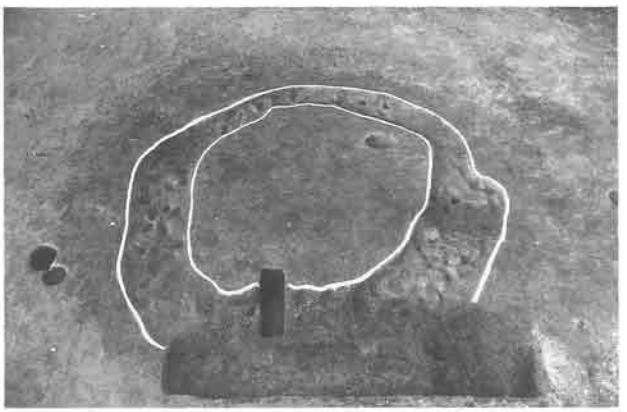


A－2号道路状遺構全景（南から）

A－1号道路状遺構土層断面（北から）



C－1号周溝状遺構全景（南から）



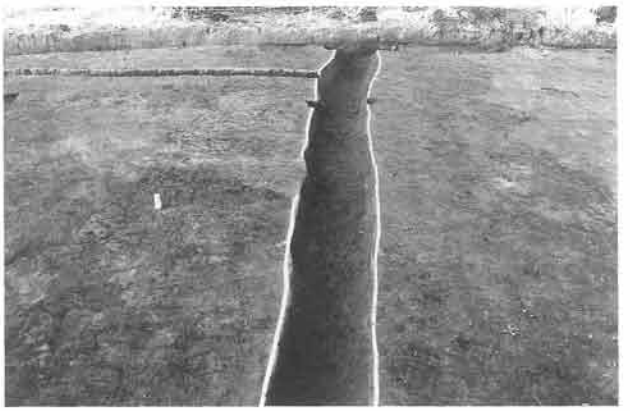
C－2号周溝状遺構全景（南から）

W－1号溝跡全景（南から）

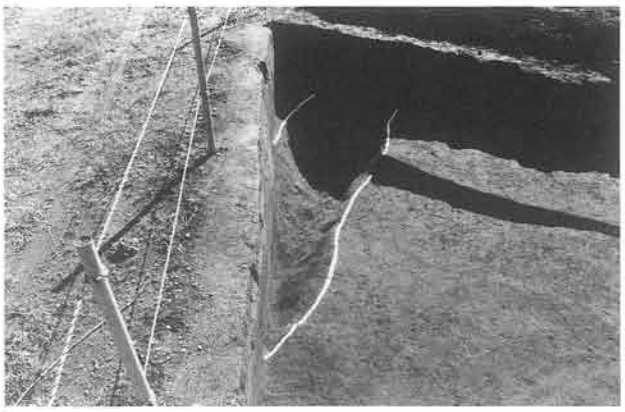
W－1号溝跡馬骨出土状況（東から）

W－1号溝跡土層断面（南から）

W－2号溝跡全景（南西から）



W－3号溝跡全景（南から）



W－4号溝跡全景（北から）

W－6号溝跡全景（北から）

W－6号溝跡土層断面（北から）

W－7号溝跡全景（北から）

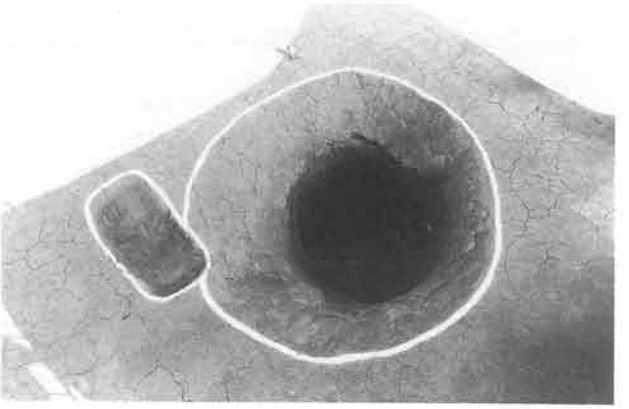
W－7号溝跡土層断面（北から）

W－8号溝跡全景（北西から）

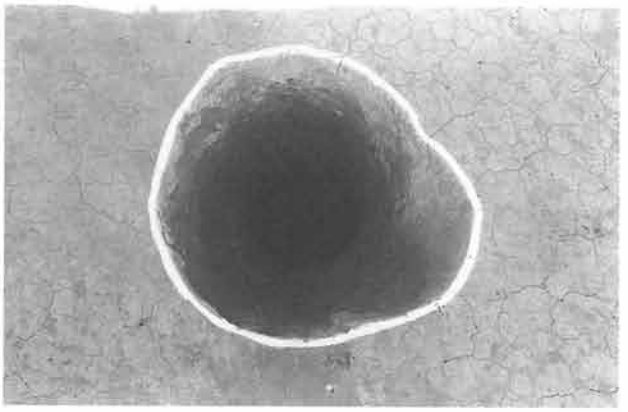
W－8号溝跡出土遺物近景（南から）

W－9号溝跡全景（北から）

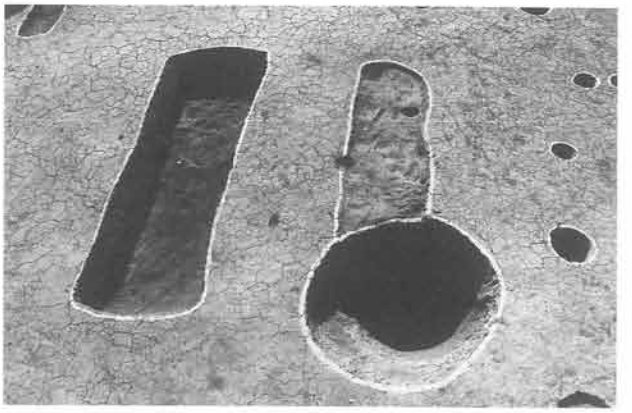
W－9号溝跡土層断面（北から）



Ｉ－1号井戸跡全景（北から）



Ｉ－2号井戸跡全景（南から）

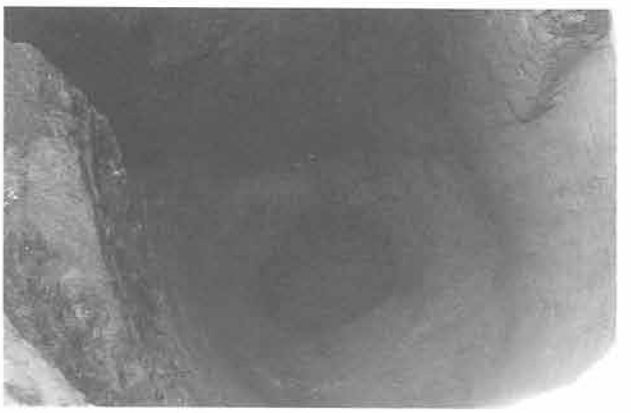


Ｉ－3号井戸跡・Ｄ－38・68号土坑全景（北から）

Ｉ－3号井戸跡礫出土状況（北から）

Ｉ－4号井戸跡全景（南西から）

Ｉ－4号井戸跡出土遺物近景（南西から）

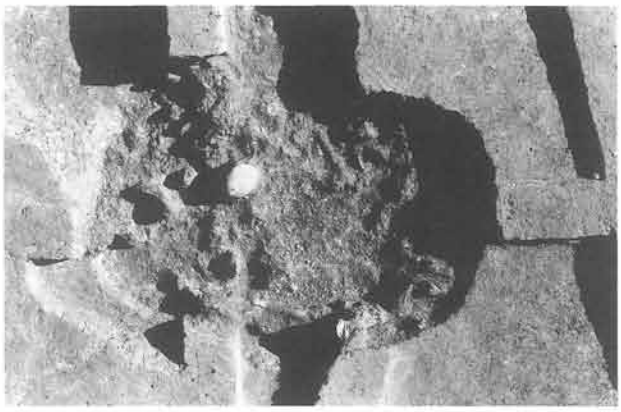


Ｉ－4号井戸跡下部（東から）

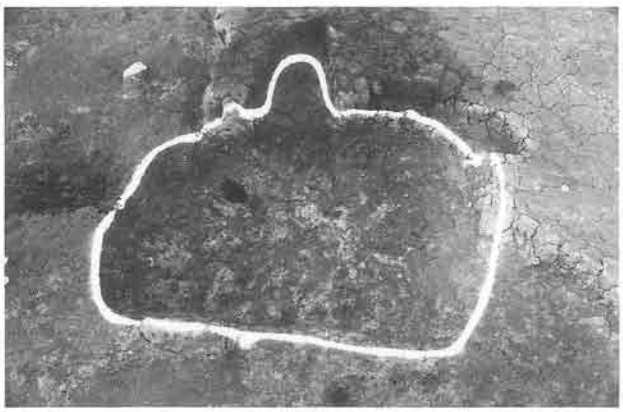
DB－１号土壙墓人骨出土状況（南から）

DB－２号土壙墓土層断面（南から）

DB－２号土壙墓人骨出土状況（南から）



DB－１号火葬跡炭化物出土状況（西から）



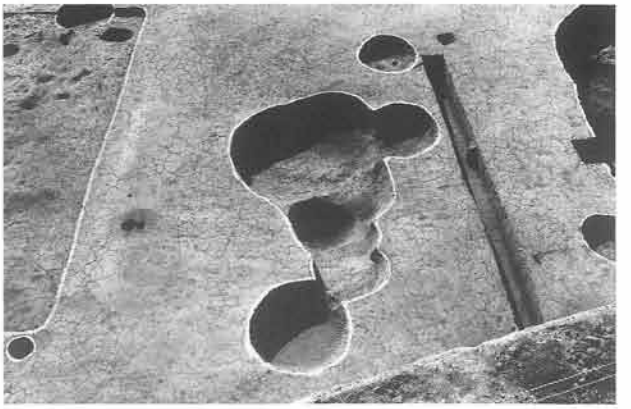
DB－１号火葬跡完掘全景（東から）

E－１号粘土採掘坑全景（東から）

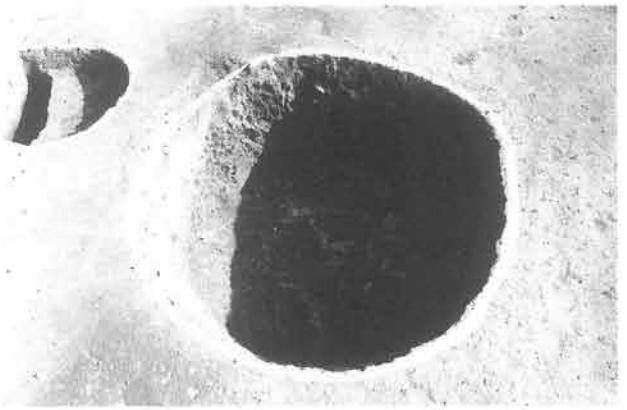
E－１号粘土採掘坑土層断面（南から）

E－１号粘土採掘坑土塊出土状況（南から）

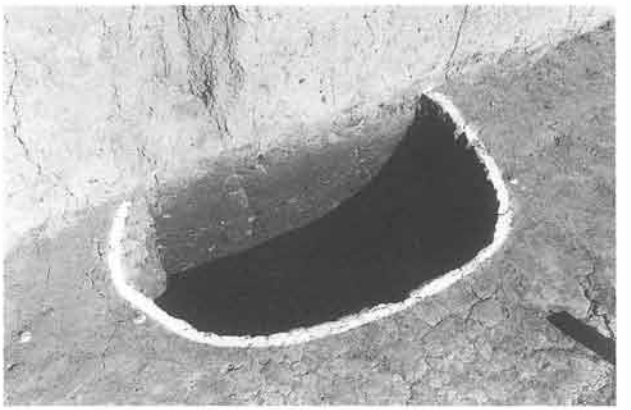
D－2号土坑全景（南から）



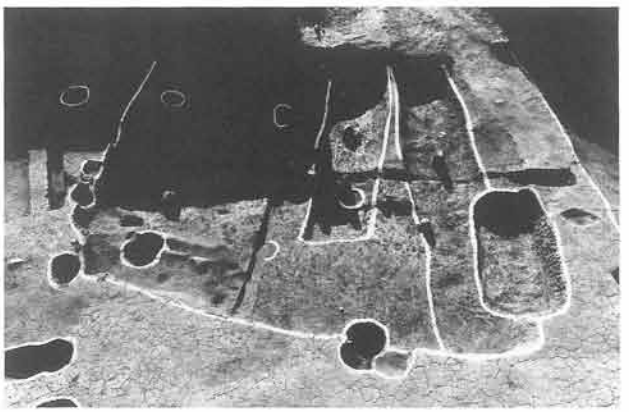
D－18～21・23・24・54・55号土坑全景（北から）



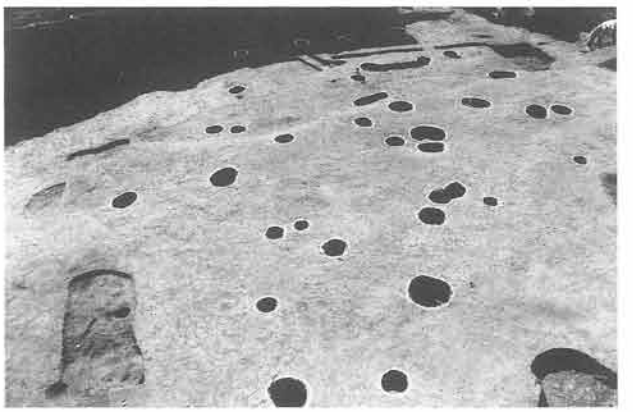
D－35号土坑全景（西から）



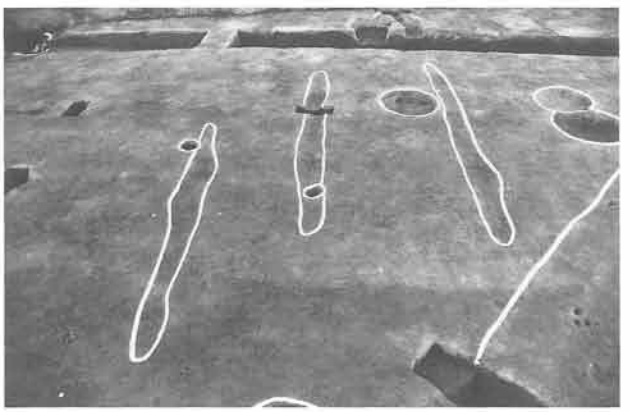
D－73号土坑全景（南西から）



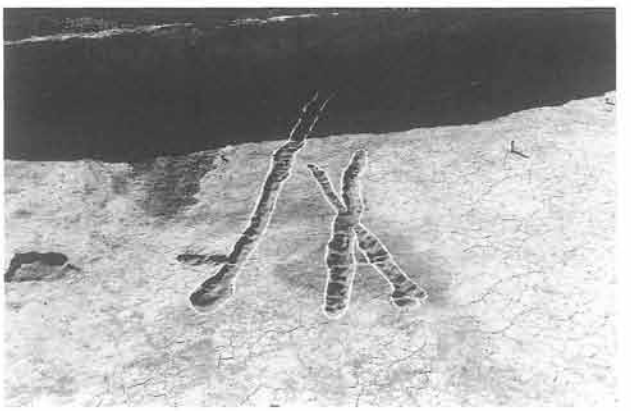
D－56・58・59・70号土坑全景（北から）



中央区ピット群全景（北東から）



L－2号畝状遺構全景（南から）



L－3号畝状遺構全景（北から）

PL. 14

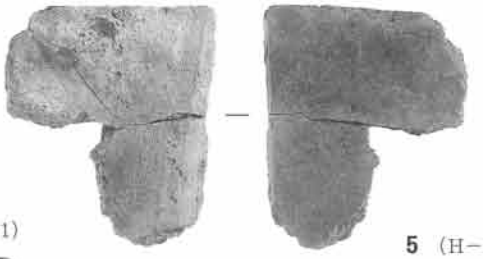
1 (H−1)

2 (H−1)

4 (H−1)

3 (H−1)

6 (H−1)


5 (H−1)

7 (H−3)

8 (H−1)

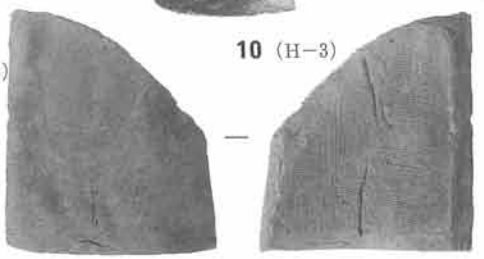
9 (H−3)

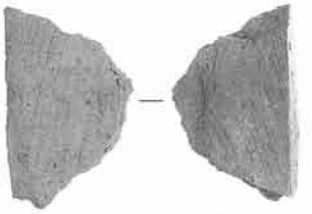
10 (H−3)

11 (H−3)

12 (H−3)

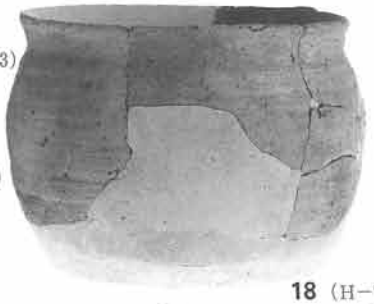
13 (H−3)


16 (H−3)


15 (H−3)

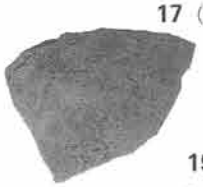
14 (H−3)

17 (H−4)


18 (H−7)

21 (H−7)

20 (H−7)

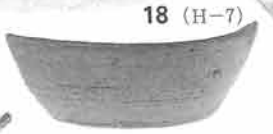

19 (H−7)

22 (H−7)

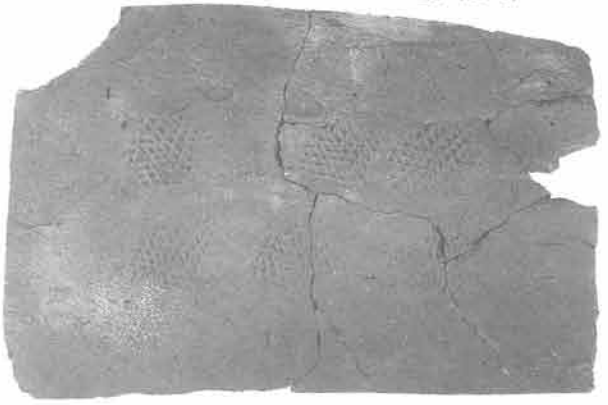
23 (H−7)

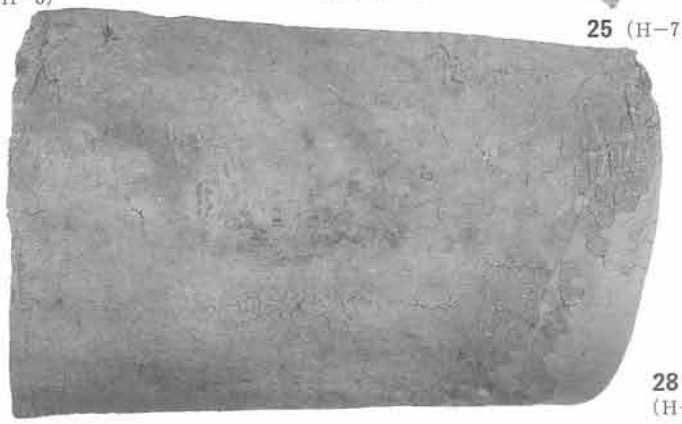
24 (H−7)

26 (H−8)

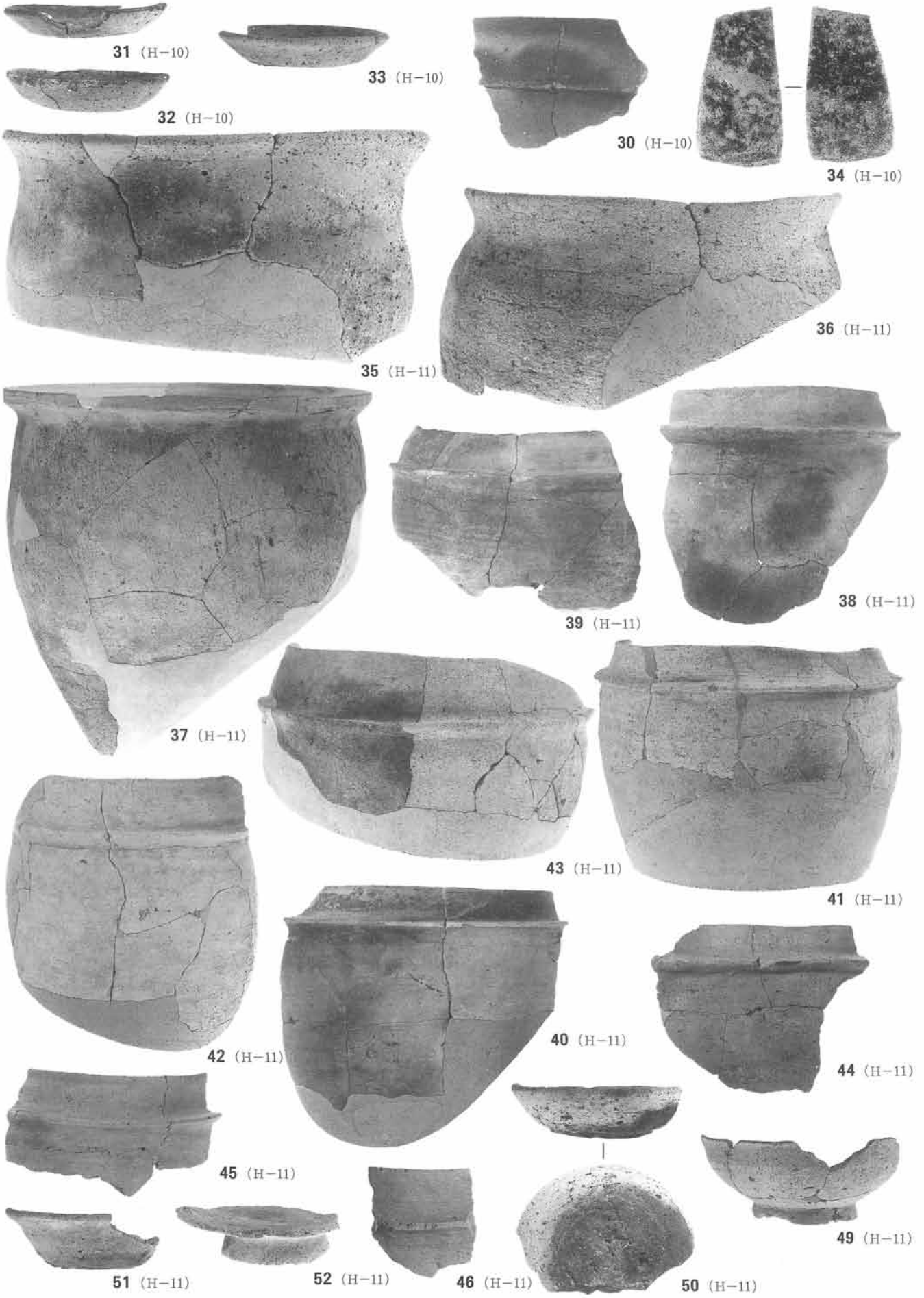

27 (H−8)

25 (H−7)

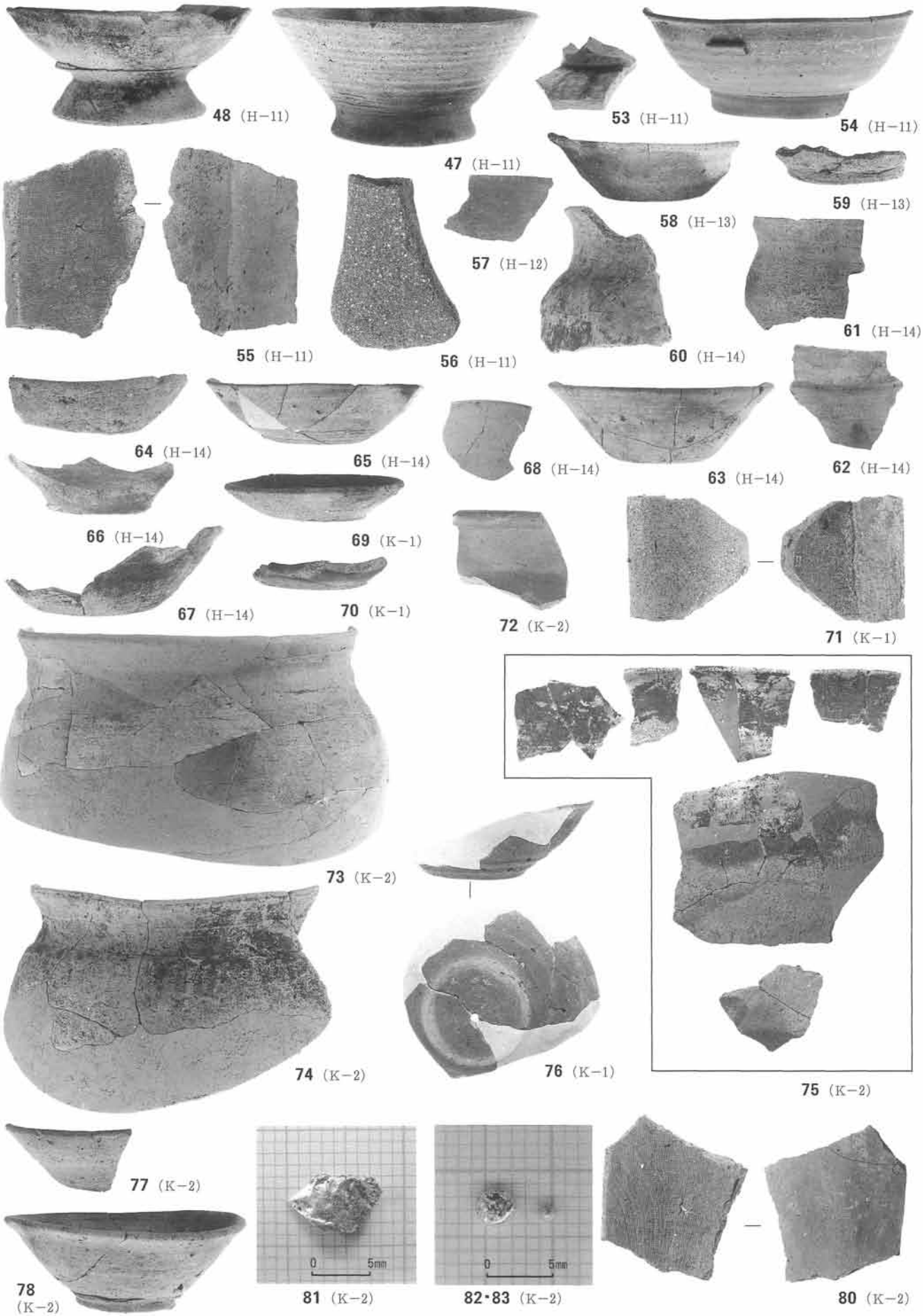

29 (H−8)


28 (H−8)

出土遺物


31 (H−10)
33 (H−10)
32 (H−10)
30 (H−10)
34 (H−10)
35 (H−11)
36 (H−11)
37 (H−11)
39 (H−11)
38 (H−11)
43 (H−11)
41 (H−11)
42 (H−11)
40 (H−11)
44 (H−11)
45 (H−11)
49 (H−11)
51 (H−11)
52 (H−11)
46 (H−11)
50 (H−11)

出土遺物

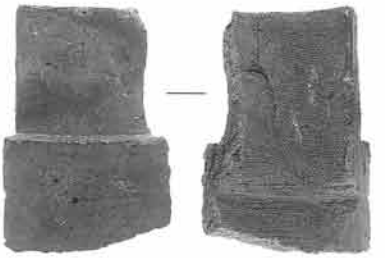

48 (H−11)
47 (H−11)
53 (H−11)
54 (H−11)
58 (H−13)
59 (H−13)
57 (H−12)
55 (H−11)
56 (H−11)
60 (H−14)
61 (H−14)
64 (H−14)
65 (H−14)
68 (H−14)
63 (H−14)
62 (H−14)
66 (H−14)
69 (K−1)
67 (H−14)
70 (K−1)
72 (K−2)
71 (K−1)
73 (K−2)
74 (K−2)
76 (K−1)
75 (K−2)
77 (K−2)
78 (K−2)
0 5mm
81 (K−2)
0 5mm
82・83 (K−2)
80 (K−2)

出土遺物

79 (K−2)

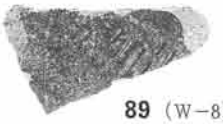
84 (W−1)

85 (W−2)



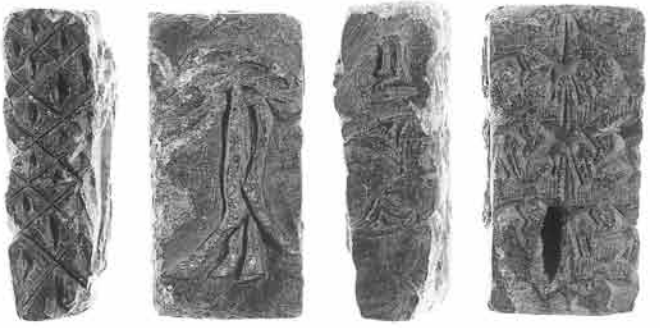
86 (W−6)

87 (W−8)



89 (W−8)

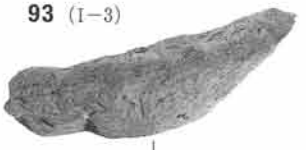
90 (W−8)



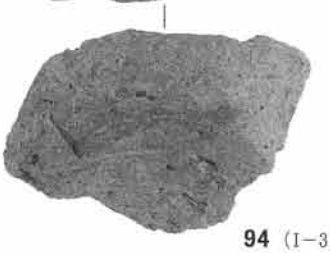
91 (W−8)

93 (I−3)

88 (W−8)



92 (I−1)



94 (I−3)

95 (I−3)

96 (I−3)

98 (I−4)

100-A (DB−1)

100-B (DB−1)

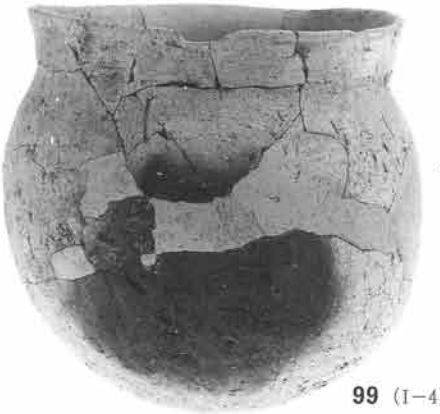
100-C (DB−1)

101-A (DB−1)

101-B (DB−1)

101-C (DB−1)

97 (I−4)



99 (I−4)

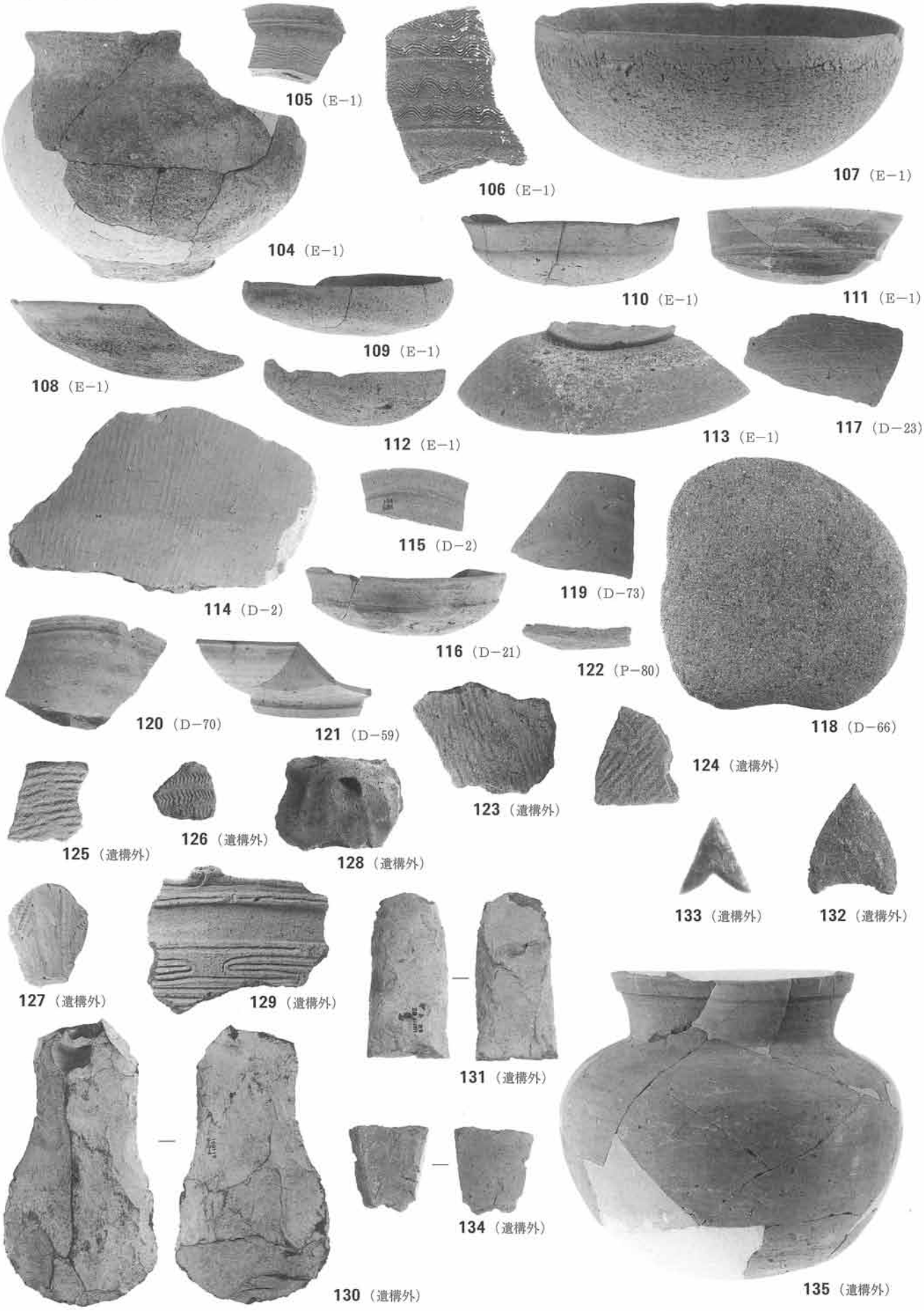
103-A (DB−2)

103-B (DB−2)

102 (DB−2)

出土遺物

PL. 18


105 (E−1)
106 (E−1)
107 (E−1)
104 (E−1)
110 (E−1)
111 (E−1)
109 (E−1)
108 (E−1)
112 (E−1)
113 (E−1)
117 (D−23)
114 (D−2)
115 (D−2)
119 (D−73)
118 (D−66)
116 (D−21)
122 (P−80)
120 (D−70)
121 (D−59)
123 (遺構外)
124 (遺構外)
125 (遺構外)
126 (遺構外)
128 (遺構外)
133 (遺構外)
132 (遺構外)
127 (遺構外)
129 (遺構外)
131 (遺構外)
134 (遺構外)
130 (遺構外)
135 (遺構外)

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミウチジュウイセキ
書名	元総社小見内X遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木一敏、長谷川一郎
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2、〒286-0045　千葉県成田市並木町221番地
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦　2005年　3月　11日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
モトソウジャ 元総社 オミウチジュウイセキ 小見内X遺跡	ゲンマケンマエバシシ 群馬県前橋市 モトソウジャマチ 元総社町1770他	10201	16 A 119	36° 23′ 29″	139° 1′ 47″	20041001 ～ 20050311	2,352㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見内X	包蔵地	縄文時代		縄文時代中・晩期土器、石器類	
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	住居跡、工房跡、道路状遺構、粘土採掘坑、土坑、周溝状遺構、畝状遺構、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、金片、金粒	
	工房跡				
	生活跡	中世	土坑、溝跡、井戸跡 土壙墓	陶器類、人骨、滑石製印版、銭貨	

出土遺物及び図面等の取り扱いについて

項　　目		内　　容
水　洗　い		・すべて行った。
注　　記		・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号（16 A 119） ・遺構（H：住居跡、K：工房跡、A：道路状遺構、W：溝跡、I：井戸跡、D：土坑、DB：土壙墓・火葬跡、P：ピット）
復　　元		・接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要最小限の復元を行った。
実　　測		・遺物実測は報告書掲載分についてのみ作成した。
台　　帳		・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、それぞれ資料の検索が可能であるよう作成した。
保管方法	出土遺物	・出土遺物は、報告書使用分と未使用に分け、コンテナあるいはダンボール箱に収納した。各箱には収納内容を明記した。 ・遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の３種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。
	図　　面	・遺構実測図と遺物実測図に分け、それぞれ図面ケースに収納した。
	写　　真	・遺構写真は、モノクロ35㎜、カラーリバーサル35㎜の２種類がある。 ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ６×７㎝フィルムを使用して行った。なお、写真中の番号は、遺物の台帳番号である。

元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ｘ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査

印　刷　　平成17年３月５日
発　行　　平成17年３月11日
編　集　　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
　　山武考古学研究所
発　行　　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
印　刷　　㈱文化総合企画
TEL 0476(93)0593